

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

# 昭和経済

Manager Association of Japan

80周年記念  
第66巻7号  
27年暑中号

国会図書館永久保存書

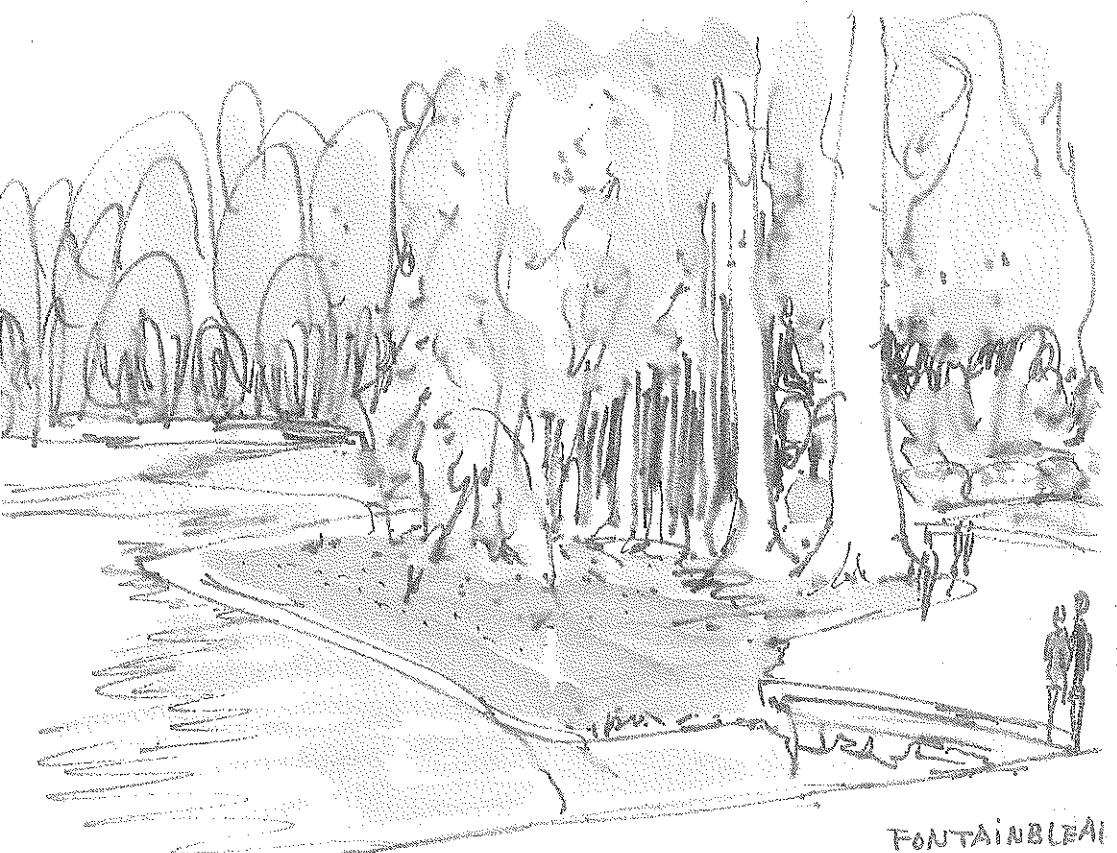
中国主導 アジAINフラ投資銀行創設から見えてくるもの

加藤 青延  
遠田 晋次  
葛西 敬之  
岩井 淳哉

地震・火山列島と認識せよ

アジア投資銀 日米不参加正しい方針

宇宙太陽光発電実用化へ一歩



パリ郊外フォンテンブローの庭

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と經濟活動を通して、さらに公私經濟の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

### 公益社団法人

### 昭和経済会の案内

(元財務省大臣官房所管)

### 創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私經濟の發展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

### 主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の經濟、政治、文化、學術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、稅務、經営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

中号・目次

ANSWER KEY

卷頭言 佐々木誠吾・(2)

卷頭言 佐々木誠吾 (2) 失敗恐れぬ起業支援を  
資金より人脈が重要 柳川範之 (58)

中国  
習近平体制の行方 一 宮本 雄二 (23)

格差を考える  
戦後日本 富の集中度低く

2030年電源構成 橋川武郎(29)

森口千晶  
〔63〕

中国主導 アジアインフラ投資銀行  
創設から見る東洋の政治 (昭和)  
青文 (5)

卷之三

地震・火山列島上忍讃廿二  
日記  
遠田  
晋次  
(1)

五十嵐敬喜  
(72)

ノジフ支那風

堀江 忠男  
(90)

日米不参加正しい方針 〔44〕

ランコ岩本  
(94)

## 宇宙太陽光発電実用化へ一步

(98)

卷之三

佐々木誠吾  
(106)

2030年の電源構成  
再エネ 多面的意義活かせ

佐々木誠吾

植田和弘：(53)

(145)

憲法学者の意見

安保法制審議会で与野党がそれぞれ憲法学者を呼んで意見を聞いた。自民党推薦の学者、民主党推薦、維新の党推薦の学者二人である。現在審議中の安保関連法案について、三人の学者が全て憲法違反だと云い切った。ひっくりしたのは、この法案の推進を図つている自民党である。

憲法学者を呼んで聞くまでもないことだが、大方の国民は、憲法第九条違反だと承知している。小生も6月2日にいささか恥らいながら、一国民として安保関連法案について拙見を始めて述べてみたところであるが、たまたま6月4日の公聴会でかかる論議がある。中に立った感じの与党の公明党も、苦されてわれながら驚いた始末である。それにしても波紋が大きく広がって、さらに国民の

意識を高めている。子供でも判ることとも述べたが、明らかに憲法第九条に違反していることを、国会ではそうでないとする自民党と、そうちとする野党の間で、喧々諤々の議論を交わしているので、どうしようもないことだと考えていたところであった。内外情勢にお変化もそうだが、緊迫性をおりながらの論議は、余りにも胆略過ぎるので、ここは慎重に考えるべきである。黒を白と言わざるを得ないような、窮鼠猫をかむような左様に事態は深刻化している」とも、一方で感じ取ることが出来るのである。何とかしてつじつまを合わせようとする自民党の言い分であるが、そもそもできない話を無理やり押し込もうとする、ごり押しとも受け取れる考え方だから、議論の上では既に敗北していることなのである。中に立った感じの与党の公明党も、苦し紛れの対応で切り抜けようとしているのがありありである。憲法違反であるという認

識にたつて、それではどうしたらいいかと云う議論に転換を図つていった方が現実的ではないかと思う。憲法のハードルが高ければ、その解釈をクリアする方策を考えるべきである。政府の出過ぎた行為を戒めて、禁じるために憲法があるのであって、それをないがしろにすることは立憲主義に立つ国家としてはできない相談である。集団的自衛権の必要性は高まつてきていることも事実である。それを否定するつもりはないが、だとしたら先に憲法改正の論議を尽くして、国民に信を問うべきである。順序のあとさきを間違えていふ。憲法解釈を恣意的にする風潮こそ、問題視されていることなのである。

### 安倍さんの経済政策と平和主義

経済が順調に回復し、安倍さんの信任が厚くなつてゐるので、うかつな行動に出て人気が剥げてきても困るような気がする。国際政

治のかじ取りが難しい段階であるが、一方で中國指導のアジアインフラ投資銀行の設立もあって、国際間の経済的連携が進んでいくことになれば、政治的解決が優先して、軍事的対立とか、衝突がいかに無駄なことが分かってくるはずである。国際的友好関係の先に、例えば問題となつていて中国の一方的な海洋進出に対する警戒感が薄れてきて、話し合いの場を広げる契機を作る更なる努力が必要になつてくる。たかが中国の海洋における浅瀬埋立てが進んでいるからと云つて、日本に莫大な経済的負担と、万が一にも自衛隊の海外派兵につながるようなことになれば、事は平和主義、戦争放棄の大転換になつて穩やかでない。負担を強いる安保法制の成立を薦めようとするよりも無益に見えるし、日本は第二次大戦の敗北で貴重な教訓を得た。そして戦後70年を経て、憲法九条の戦争放棄の条文を堅持して、経済復興と発展に努め今

日の平和福祉国家を築き、内外に宣言してきたのである。そうした貴重な功績は、これを

崩すことなくこれからも堅持、死守していくことが将来の世界情勢を分析推進するため

に重要な手立てになつてくる。

ゆるぎなき日米同盟の堅持にて戦後70年の経済の立つ

経済の政策運営に抜群の安倍政権の意義これにあり

経済の好循環に乗りし今打ち出せ所得倍増の道

国会が呼ぶ参考人の学者より安保法制の違憲との弁

戦場に立つ状況は殺傷と向き合ふ没価値、没人間性にて

6月6日

### 訪米中の安倍総理

訪米した安倍首相を、アメリカとアメリカ議会は大歓迎で、最高のもてなしをしていく。先だって安倍首相を迎えた大統領主催の歓迎会で、オバマ大統領は粋にも俳句を詠んで米国民を代表して最大の喜びを伝えたのである。「春盛り日米同盟なごやかに」の一旬である。松尾芭蕉も、これには儀礼的に賞賛の辞を送つたに違いない。俳句を詠んで歓迎するとは誠に粋な計らいであり、日本人の心に精通して、心憎い演出に感服したのである。そもそものはず、それは大いなる喜びであろう。日本の集団的自衛権の発動の行使を容認する法律の閣議決定をお土産に、安倍さんも、オバマさんも、ともに助け合う友人として、凱旋気分でアメリカ訪問を達したからである。集団的自衛権についてはまだ国会の議論も了解も得ていないし、國民が

どう思つてゐるかは後回しで、先ずはアメリカに報告するのが先決だからである。アメリカは日本の強力な軍事的援軍を得たし、日本はどこまでか知らないが、強力な自衛隊の援軍をアメリカにあたえ、互いにパートナーとして敵の攻撃、侵略に共同して対処してゆくことになった。もとより日本は今までアメリカの庇護のもと、日本の防衛と安全をお頼みし続けてきたが、今度は双方で日本の自衛活動を練つていくことになつた。

アメリカ軍が行動するあとについて、日本国の存立が危ぶまれるときは行動と共に相手に戦いを挑むという話である。どこまでが自衛活動になるか、日本の安全を脅かすことになるのか判定は難しいことである。その判定を下すのは時の政府であるから、いかにも判断が出来て、国民の意志とは関係なく、と云う場面だつてあることになる。集団的自衛権の発動と云い、その前には、特定秘密保護法案なるもの

が出来上がつてゐるし、昔の治安維持法と同じで、それを作つてゐる今の「仁」は、その怖さを知つていないからいい氣なものである。戦場に駆り出された連中はいないし、お国のために命を張つた兵士たちの心情をわかるはずもない。大きな犠牲を余儀なくされたのである。貴重な経験を教訓としようとしたが、そうした物騒な世の中を強いて作ろうとしているように思えてならない。然しながら、いざとなつたら一国で立ち向かうよりは、日米両国で作戦を開けて、より強力な力を以て立ち向かうことが出来るし、又抑止力も出てくるからである。実際に戦争が起きなければ、素晴らしい堅固な友情の絆として歓迎されるべきだ。しかし紛争が起きた場合の状況を考えると、手放しでは喜べない。

戦後七十年間、不戦を誓つてきた日本が、国民感情として、交戦権をどこまで容認できるのか。憲法九条が厳然としてある以上、議論はこれからかもしれない。先ず、平和主義、民主主

義の日本が、戦争を起させない努力を払つて  
いくことが、今の国際社会に対する最大の急務  
であり、責務である。そう考えると、日本から  
取り寄せた日本酒でなごやかに乾杯と云つて、  
日米同盟を祝福できるものかどうか心配であ  
る。順序が逆だと、かみつく御仁も沢山いるか  
らである。

#### 中国への対応

現実には、巨大中国の海洋進出が問題化され  
つつあることから、尖閣湾辺りで日中の軍事衝  
突だつて無きにしも非ずだから、こうした場合  
の抑止力になつて、中国を牽制することの効果  
も發揮するであろう。そこに期待したいところ  
である。逆に、中国を怠慢に置いたものとは限  
らない。同盟国のアメリカが、中東や他の離れ  
た地域で紛争の当事国になつて救援を求めて  
きた場合、自衛隊の派遣だつてあることに違ひ  
ない。さてその場合にどう判断するか。最近  
活発に活動する中国の海洋進出に対して、この

警戒に当たつていた米国艦隊が、仮にフィリピ  
ンやベトナム沖で中国艦と衝突し、甚大な損害  
を受けて応戦中の場合、日米同盟を組んでいる  
日本政府、日本の自衛隊は、これを見過さずこ  
とができるかである。出来ないであろう。直ち  
に出撃である。直接日本の安全の脅威に至らな  
くとも、同盟国が参戦している時に、これを援  
護し、或いは救出しないわけにゆかない。勢い  
自衛隊も中国艦を敵視し、撃ち合いになる可能  
性がある。交戦は限定してできるものではない。  
はずみでさらに範囲を拡大していくことにな  
り、文字通り戦争状態になる可能性がある。

あるいは東アジアでなくとも、北極圏あたり  
に進出する中国艦と対峙するアメリカ艦隊が  
あつて、領海、若しくは領海資源を巡つてにら  
み合いの状態が続くとした時に、同様の事態が  
起らざらないとも限らない。外国に対する敵視政  
策は、外国からの自國への敵視政策になつて、  
いつ時刻に攻撃を仕掛けて来るとも限らない。

昔の戦争と違つて、科学の進歩によつて軍事兵器の開発も比較にならぬほど進んでおり、一瞬にして壊滅状態を惹起せしめるものである。一秒钟を争う先制攻撃となるであろう。いち早く敵方の中枢機関を攻撃、撃破した方が勝利を收めることになる。まかり間違えば致命的相撲ともなりかねない。どちらが勝つて、どちらが負けると云つた結果ではない。集団的自衛権の発動とは、聞こえはいいが、敢えて戦争を誘発しかねない危険性を持つた法改正の結果である。いふなれば、他国同士の戦争に、日本が進んで関与していくことになる。その覚悟が果たして今の日本人にあるだろうか。そしてそこまで認識しているだろうか。甚だ疑問である。

オバマ大統領が詠んだ一句

「春盛る日米同盟なごやかに」  
ではあるが、果たしてなごやかなものかどうか  
内容次第、使い方次第である。世の中には色々

な考え方があつて、人間が生活している。極論するわけではないが、元来が競争心、闘争心を持ち、支配欲を持ち、車馬は一皮むけば権力闘争剥き出しの社会であり、毎日がその実態である。共存、共栄が叫ばれるゆえんであるが、少しでも対立、抗争をなくす努力が必要である。そのためいろいろと方策が考えられ、試行錯誤を繰り返す歴史が連綿と続いていくわけである。戦争体験者は、すべからく戦争反対論者であつて、未経験者に限つて戦争推進論者が多い。彼らは殺戮を趣味とする種族であり、自らは決して弾の前に出ず、後ろからけしかけるだけである。銃剣を以て暴れまわる、極悪非道のイスラムの狂氣を目の当たりにしている。

今回期せずして憲法の第9条の根本精神に触れる集団的自衛権なる法律が閣議決定されたが、そして特定秘密保護法案もあつたりするが、外交政策の一環としてとらえ、無益な発動までに行かぬよう、逆にこれが踏み台となつて

平和への努力が試されてくると捉えるべきではないだろうか。その時こそ戦争放棄をうたつた憲法第9条の精神を発揚し、文化の香りを世界の国々に放ちゆくべきである。反戦、反核、人道に合った日本文化、それらを大いに發揮して世界に乗り出して、集団的自衛権の發動を容認する法整備を、実質なきに等しいものにしていかなければならない。70年前300万以上の犠牲者を出して廃墟と化した日本は、敗北の捕囚となつて何年かをどん底の生活の憂き目にあつたが、戦争放棄を決断したことによつて、経済の発展に傾注することが出来た。70年目にしてその平和憲法が根底から崩されようとしている。

中国を意識したというよりも、改憲論者はそれ以前にも根強く、アメリカの押しつけ憲法と称して老人の、一部懷古主義者が狂信的にいた。昨今、中国の台頭を過剰意識し、改憲の道を突き進む人たちに利用されている節も無きにし

も非ずである。13億の国民を抱する大国中国の行動も、対外進出に際し目に余るが、一方でアジアインフラ投資銀行の設立で見るよう、合法的手法で積極的に経済外交を進め、他国をリードしつつある。むしろこうした意欲に対応した柔軟な政策をとつていくことが将来的に重要な鍵を握つていくことになるだろう。今、平和維持の岐路に立たされていける日本の姿を、目の当たりにする今日である。自国防衛はもとより必要であるが、単純に考えて、他国同士が勝手にしでかす戦争に巻き込まれないようになることも現実論として必要になつてくる。いつの時代でもありうることである。あるとき、日本だけは違う国であるという観念を持つた外国人が、敵愾心を以て戦争を仕掛けてくるだろうか。無法者が現れた時には敢然として立ち向かえばいいし、そのための準備は当然持つていて然るべきである。的確な状況の判断が重要である。

日本の政治姿勢としてはもとより、世界の各  
国が、安倍さんの演説の締めくくりとして言つ  
た言葉に共鳴を持つてもらいたいのである。自  
由と平和と民主の精神こそ、我々の目的でなけ  
ればならない。安倍首相もアメリカ議会演説で、  
左様に訴えている。この縁にあふれた平和の地  
上から、地球から、地獄の戦場を駆逐していか  
なければならない。

5月1日

法である。戦後七十年を経、今憲法九条をめぐ  
つて議論が熱くなつてきてる。それを取り巻  
く法整備一つをとつてみても、熟慮を重ねるべ  
きことが沢山出てくる。世界情勢に迎合して改  
正を急ぐとしたら、大局を見誤ることにもなり  
かねない。十分に心して備えるべきである。

### 自由と人権、民主と平和の日本国憲法

#### 大西邦敏教授の比較憲法論

一国の法律の根幹を定めた憲法について、日  
本国憲法の精神ほど世界に冠たるものはない。  
第二次世界大戦で敗北し、多大な犠牲を払つて、  
凄惨な歴史を経験して作られたのが日本国憲法

法があつた。比較憲法論を講義してくださつた  
大西邦敏教授であつた。当時、日本国憲法を論  
じた教授は枚挙にいとまがないくらいであつ  
た。しかし大西教授は比較憲法論と称して独特  
な研究を重ねていた。憲法はその国の全般にわ  
たる法律の根幹を定めたものであり、国の最高  
法規である。国内の諸々の法秩序を一定の概念  
を以て規律し、国の在り方をも定めるものであ  
る。比較憲法論は、各国の法体系から普遍的な  
基準となるべきものを帰納しようとする教授  
の試みであつたようだ。日本国憲法を是と  
して研究することはあつても、世界諸国の憲法

と比較しながら、日本国憲法はどのような位置に立つてゐるかを検証する科目はなかつた。當時としては異色であり、学問の領域に政治色を持ち込むのではないかと危惧したのである。しかし教授は学問的に研究し、これを厳しく分析して講義に用いていた。つまり、日本国憲法は自国の安全を維持するために軍隊を持つことを禁じており、他国からの侵略に対して交戦権を認めていないのはおかしいという議論であった。戦争を放棄した憲法9条を指して言つていたのである。こうした論議は、世界の国々の憲法を研究して、それでは日本の憲法はどうであるかと云う比較論からの学問であつた。

日本国憲法は、その立場からいへば、外國の軍隊を持つてゐるが、それが数にして何割にもあたるとして、それでは日本の憲法は果たして外國と比較して容認できるものかどうかと云う論議に持つていつたよう思ふ。憲法擁護論者と、憲法改正論者は、當時から激しくぶつ

かりあつていたのである。改正論者は、主に反米主義者に多く、保守的思想をもつたグループに多かつた。今からすると不思議なくらいであるが、現在は皮肉にも日米同盟を固い絆としている、そして米国と共に安全保障上の観点から改正しようとする動機であつて、それほど現代は世界情勢の変化と、価値観の変化が錯綜しているのである。

各国の憲法の重要な条文をすらすらと、立て板に水のごとく語り、教授の暗記力の素晴らしさにびっくりしたものである。しかしそれとて法改正があつた時には暗記力も打ち消されて勿体ない話だと、冗談混じりに話し合つたものである。大陸銅像の後ろに新しくできた共通教室があつて、そこに800名からの生徒を収容し、主として一般教養科の授業が行われていた。テキストは当時、貧相なもので紙質も悪く、わら半紙にガリ版で刷られたものであつた。細かい字で読みづらく、しかも分厚いものであつ

た。ちゃんとした製本ではなかつたから、保存することもおぼつかなかつた。従つて手元から消滅しているのが、今になると惜しい限りである。保存が可能であれば、思い出の一冊となつてゐるはずであつた。考へると、諸外国の憲法は結構頻繁に変えられていると聞くから、大西教授がガリ版に記載した多くの法文は、大方消滅しているかもしれない。

#### 大西教授への質問

そうした中で、日本国憲法だけが厳然とし最高法規の貫録を以て君臨しているとしたらいつたその理由はなんなのか。普遍的原則を高らかに歌い上げている証拠かもしれない。ただ大西教授には、青臭い学生の分際で批判めいたことを云うかもしれないが、ある時訊ねたことがあつた。外国の憲法を列举して、比較論から日本の憲法もそれにならつて、こう有るべきだとする論法にはどうも賛同しかねると云つたのである。持論の学間にケチをつけられ

たかもしれないが、人間社会で制度上の普遍的な原理原則は盛り込まれるべきで、それを理想とするものであつても、思いは国情によつて違つてくるから、理不尽だと思うことも出てくるのではないかと云つたのである。少なくとも、日本の憲法のように民衆の人権の擁護と確立を目指し、平和を追求してやまぬものは必要だろうと、云つたことがある。教授がそれについて何と答えてくれたかははつきりしなかつた。封建的な色彩の濃い憲法だつてあるだろうし、宗教的な国情を反映したものもあるだろう。そもそも社会主義国と資本主義の相違から生まれてくる憲法の内容も、違つてることである。独裁国家と、民主国家との差もある。專制君主國もあれば、民主共和国もある。しかし基本的には人間性の確立をうたつてある戦後の日本国憲法に、世界の国々こそ、これを以て範となし、改正をもくろんだらどうだらうかと。憲法のるべき哲学を理解し、国情に合わせて考えなが

ら、人間性の本質に迫る基本を堅持することが大切である。

大西教授は、右顧左眄しない意志堅固の立派な学者であつたから、時の政府にも珍重されて、当時の自民党的憲法調査会の座長になつて、憲法改正の取り組みをしていたのである。だからと云つて勿論、戦争容認者ではなく、出来れば戦争などないに越したことはない、否、あつてはならないという意見であつたと思う。当然のことである。明治維新の謂わば下剋上に等しい権力闘争の中、政権奪還に挫折した大隈重信だが、初めは立憲改進党を創設して総裁となり、自由民権運動の立役者であつた。板垣退助らと共に憲政党を組織し最初の政党内閣を、組閣した。立憲政治の確立に尽力した。浮沈を経ながら、政権奪還にも奮闘した。だから腹いせに野に下つて一時期、在野精神を盛んにぶち上げたのである。大隈銅像は二体あるが、キャンパスの中

央に置かれていて、ちょうど大隈講堂と共通教室の間に位置した立像で堂々たるものである。暴漢に爆弾を投げつけられて、右足を失脚して杖についている銅像である。他の一体は宮廷内で着用の大礼服をまとつたもので、大隈の学問の独立にそぐわないとして、別に大隈講堂内の回廊に置いてある。当たり前である。

#### 平和憲法と経済発展

日本の戦後七十年の來し方の自由と平和の憲法のもと  
繰り返すなれ戦争の惨劇を戦後七十年の誓ひあらたに

七十年前の戦禍を知る人も減りて薄れる反戦意識は

経済の繁栄を得て悟りける戦争のなき平和国家の

日本の平和と民主の憲法の誉れも高き文化とはなる

我らみな国の榮へと國たみの安寧の日を常に思ひつ

平和呆けする若者の主張せる戦力拡大と摩

詎不思議なり

安倍さんのアメリカ議会の演説に一部に熱き思ひ覚へし

老ひぼれのしきりに軍国日本の復活を云ふ聞くもまどはし

國たみの暮らしの安き榮へ得てのどかに過ぎぬ我れがまほろま

憲法を世界に範を示しなほ広め行きしは誉れ高きも

君が代を歌ひ爆死す青年の胸に母君の写真抱きて

殺しあふ野獸のごとき戦場の神に逆らふ人のおろかし

人肉を食ふ凄惨の場もありぬ戦火の孤島に生きる兵士よ

飢餓にある子のながらへと自らの身を分け与へ死せる母かな

土煙りあげつ猛進の戦車隊先に逃げ行く避難民らよ

飢餓の子に出ぬ乳を見て己が身の肉をちぎりて与ふ母なり

若者をまた戦場に送ることなきこの憲法を死守すべきやと

戦争の慘禍を再びこの國にもたらすことのなきを望まん

こいのぼり高く掲げてわらべらの歌聞こえきぬ初なつの空

あほぞらに雄々しく泳ぐ鯉のぼり5月5日の我らまほろば

花の咲く野辺より若き乙女らの清き調べの歌きこへきぬ

みどりもゆ里の農家のたたづみにのどなに泳ぐ鯉のぼりかな

草笛を鳴らし草道をゆく子らに山羊を引く  
子があとにつづくけり

夏雲の立ち上る朝わらべらの富士のたかみ  
を目指し行くなり

戦争のなき平和國家を打ち立てて国の榮へ  
を守りゆかまし

日本の自由と平和と民主主義高らかに揚げ  
世にも広めん

地球規模に自衛隊を派遣せで我が憲法を地  
球規模にて

九条を改正せぬも日本の自衛を果す術もあり  
なむ

なにものに代えがたきなり日本の眞の平和  
を説ける憲法

法に定め國たみの理念とす自由と平和と民  
主と人権

雲の峰つきて聳へる不二やまの我が平和憲  
法の斯くの如くに

九条の理念を掲げ自衛力強固なものとすべ  
く策あり

米軍の艦砲射撃に飛ばされし友の顔面のた  
だれおちけり

焼夷弾夜間空襲の破片受け足切断に死なず  
生きのぶ

星の夜に焼夷弾のあめあられ落ちて破裂し  
火の海と化す

逃げ惑ふ市民の多くが火の海の犠牲となり  
て焼るしかばね

ててははとはらからと手を取りあひて戦火  
をくぐり助かりし我

B29夜間空襲に火の海と化す街なかを逃  
げて行きしに

黒焦げの丸太と焼るしかばねの焼けあとに  
あり空襲のあと

終戦の間際にありぬ空襲の水戸の夜間の空  
をほむらに

千波湖へ一目散に火の中を逃げ行く時の夜  
間空襲

てて母とはらからの手を握りしめ火の町な  
かを逃げて行く吾

学校に行かで勉強もろくにもせず生きなが  
らえし我が少年期

ひめゆりの女子学徒らは砲弾に死し自決す  
る人もありしと

ひめゆりの女子挺身隊の生存者らの証言に  
涙ながしぬ

涙なくして聞かざりしひめゆりの学徒証言  
の悲惨なるさま

愚かなり人を殺めて憚らず野獸となりぬ凶  
暴の果て

憲法の改正を説く蛆のびと広びりぬ平和ぼ  
けして

戦場に行かざりし者なべて云う憲法9条を  
改正せよとも

驚きぬやたらと憲法改正を叫ぶ人らの若者  
にあり

9条の改憲反対に6割強世論調査に安堵す  
るなり

憲法の第九条の意義を今すぐむ戦場に教え  
示さむ

終戦後過ぐる七十年の日本に確と根づける  
平和憲法

日本の平和憲法の精神を世の隅々に広めゆ  
かまし

5月3日

この日の日

すくすくと育つまなびは日本の未来を託す  
宝なりけり

草笛を吹く子のあとに山羊を引く兄の少年  
が竿をふりつつ

尾瀬沼の燧ヶ岳の狹霧消え森の深みにかつ

こうの声

田植え済み水をたたへる田の面に泳ぐ二匹  
の鯉のぼりかな  
緑もゆ里の農家の屋根高くのどかに泳ぐ鯉  
のぼりかな

ふるさとを出でて男児のこころざし大きくなして世にもたらさん

武者人形かざりて鯉の滝登り子供に勇気を  
与え求めん

空高く泳ぐ二匹の鯉のぼり宅に二人の子ど  
もいるらし

風車くるくるまわしかけていくわらべに夕  
餉の明かりともれり

5月の連休は久しぶりに晴天に恵まれ、行楽地にはどこも多くの家族ずれでにぎわい、いよいよ終日を迎えるに至つた。4月29日から休みを取つた人は今日までだとなんと8日間の

長さになる。海外旅行を楽しんだ人も大型連休を満喫して、その数もきっと記録的なのではないだろうか。とやかく言わながらも、景気は徐々に回復を見せ、大手企業を筆頭に業績回復は史上最高値を更新するところが多く、賃金の昇給もあって、徐々にこそ野が広がってきている。法人税の納付が30兆円に達するという試算も出てきて、活況である。自分の持つているのは一向にさえないが、株式の上昇も手伝つて、消費景気に拍車をかけている。銀座界隈では連休に入る前から外国人観光客であふれるような時もあって、遠近を問わず内外から日本を訊ねてくる人たちでいっぱいである。めでたい限りだが、これには理由がある。日本は戦争がないから安心なのだという若者が話していたのが印象に残つた。確かにそうである。憲法9条があつて、日本国には戦争がないから安心して滞在し、むしろこれをきっかけにして永住したいという若者の明るいまなざしがあつた。

平和志向は今の若い人たちにとっては、最大の価値観としてとらえていると考えられると思ったのである。

#### 平和国家の経済発展

景気回復は、国の予算を戦費に使わずに、出来るだけこれを民生の安定に回しているという日本の理由づけは正しいかも知れない。

政府の経済政策の能力的優劣にもよるが、安倍さんのように政策立案について、しっかりと持つて経済知識を持っていること、そして実践していく勇気があること。これが重要である。しかしその安倍さんも、最近は経済一途から浮きをはじめ、外部環境の変化にもよるが、どうも何かと言い訳がましく講釈をつけて、世界の地域の抗争、対立に加担しようとしてきていていることは、安倍さんの功績を大いに損なうことにもなつてきていて、これについては残念な気がしてならない。先ほどの好意的な外国人観光客ではないが、日本のイメージが損なわれてしまう

ような気がしてならない。今世界各国を見ると大なり小なり危険地域に指定されている国があつて、毎日のように悲惨な犠牲者が絶えないからである。日本にはそうした事件や犠牲がないから幸運である。それは70年間に築き培つてきた貴重な財産である。これを軽々しく手放すことがあつてはならない。

日経新聞の一面に今、世界の株高な統いてきて時価総額9000兆円に達していると云う記事が載っていた。捉え方からすると滑稽だが、地球丸ごとの値段である。4月末の統計でも、世界のGDPの合計に匹敵する数字である。勿論史上最高値を更新するものであることは言うまでもない。主要国の金融緩和などを背景に、アメリカやドイツなどで史上最高値の株高が続いているからである。気前のいい話で明るい話題となつて結構ではないか。単純には言い切れないが、私はいつもオフィスで三菱UFJモ

ルガンスタンレー証券の美人乙女が持つてくれる、日米の株価の歴史的チャートを参考にして友人たちに話しているが、アメリカのニューヨークダウは尻上がりに理想的に上がってきて、資本主義的経済の本質的意義をも表現していると証言しているのである。それに引き替え、日本の東京証券取引所の日経平均株価のチャートは、バブル時期の25・6年前に付けた3万8915円の未だ半分以下である。又当時に就けたニューヨークの株価は今では8倍以上になっている。この際立つた相違は一体どこにあるかである。愚かなデフレ政策をとつてきて無策だった20年間もあるが、日本経済の構造改革が遅れているのではないか。同時に東北大震災で蒙った影響があるだろう。

こうした世界で、飲まず食わずの戦乱状態を経験している国々が絶えないこともおかしな話で、矛盾も甚だしい気がしてならない。優劣を極めた指導者によつて、国民の生活状況も天

と地、楽園と地獄の差である。欲を言い出したらきりがないが、戦争を回避し、戦争をしない国と、その逆の国と地域の差である。これは決して差別、蔑視ではない、賢者と愚者との差である。その時、賢者は貧しく慎ましく、愚者は奢侈で傲慢なものである。貧しく慎ましき賢者のもとで、国たみは栄え安寧の日々を送れる。奢侈で傲慢な愚者のもとで、国たみは苦しみ戦乱の日々を過ごす。おかしなもので、戦争を好みやくざ的な性格を持つ指導者が、得てして人間社会に現れてくるのも、突然変異の結果かもしない。

双極性発祥の躁うつ病患者が多いという。今に始まつたことではないが、近代でも近くには夏目漱石がいるし、太宰治はひどかつたといふし、氣違いじみた死に方をした多くはすべからくそうした病にかかった人間である。ピカソもそうであつた。天才にも愚者にも多い。普段は

見分けがつかないからである。そうした愚者の仕掛けにかかつた国民は、悲劇である。賢者だつたものが、次第に愚者になるケースもある。周囲の事情や環境がもたらすこともあるが、しかし潜在的にそうした素因があつて、それがある時期から自然と発生するときと、環境からの

刺激で表面化してくることもある。精神科医が

指摘している、両極性云々と云つた証明である。その見分けがつかないから、指導者の任期を定めた慣習、規則を盛つたところもある。それは社会によく採りいれられている部分である。任期と云われるものである。人間の欲望と寿命には任期を付けていない所は、面白い気がする。國務大臣の任期もあるし、一般社員の定年制は、その最たるものである。

肉体的限界を知らなかつた頃は、元気発散して連休を利用して海外旅行に出かけたものだが、最近は若ぶつて行動していくも、悔しいかな限界を感じることが多くなつた。友達の中に

は既に限界を熟知して、それにふさわしい生活をしているものが沢山いるが、中には限界を知り尽くしてグッズバイした奴もいる。健康維持にもそれなりの努力はいるのと同じように、若さを保つのも心身の努力が必要である。

#### 質素を旨とする精神衛生

幸い拙宅にはわずかの菜園があつて、野菜の高騰する今、大豊作に恵まれて、連日収穫に、食欲に、大変である。小松菜、春菊、大根はもとより、ホウレンソウが大きく育つて煮つけにして腹いっぱい味わっている。大根も身を食べるのでなく、むしろ葉っぱの方を目的に育てている。ホウレンソウも何だか馬鹿でかく育ち、薹の部分が太く高くのびて、これがまた実に柔らかく、茹でてあく抜きさせてから、胡麻和えにして食べるのが手がかからず、しかも極上に旨い。ホウレンソウを差し上げた先の人が、異口同音に言つているから確かである。自家製

でしかも無農薬の、大げさに言えば有機栽培だから何の心配もいらない。春菊などはつまんでその場で食べたりしている。菜園とは云いながら、もちろん食べきれるものではないので、近所に配つたりして大層喜ばれている。

土に育つ野菜だから、生育旺盛だと、それなりに水を補給しないと力を失つてしまふ。今年の大型連休は運よく快晴に恵まれた。畑には水分の補給が大切なため、日数をかけた外出は生き物を飼っている人と同様、不可能である。海外旅行を遠慮して、専ら近所を散策し、横浜や箱根などに遠出を楽しんで、家では野菜の収穫と、その後の苗の植え付けに精を出している。昨日はトマト、キュウリの苗を買ってきて、先ほどその作業を終えたばかりである。あつという間にすぎて、充実した大型連休であった。

友人、杉本さんの撮った霊峰富士山

それでも行つた先の箱根のフジビュー・マンションでは、写真家の杉村さんが、先刻見事に撮影した富士山ほどではなかつたが、時折姿をのぞかせてくれたので運が良かつた。一三日前から箱根山の大涌谷の温泉の湧出地周辺に、火山活動の微震の回数がかなり増加してきたという物騒な情報である。気象庁の話によると地下のマグマの活動が活発化して、地下で水蒸気が高圧化して上に押し上げられてきているという。観測結果では、山も少し膨らんできて、地下にマグマがかなり大きく移動しているとの話である。もしかすると水蒸気爆発を起こして、小規模の火山性噴火をする可能性があるとした。こうした情報が流れたりしてから、観光客が減り始めたという。

私はいつも長尾峠から箱根仙石原におりて芦ノ湖にまで車を飛ばしていくのが常なので、他人事でない気がしている。長尾峠からは、箱根の風景が一望できるし、中央の箱根山とそ

山腹の大涌谷に立ち上る水蒸気の白い噴煙を、  
目と鼻の先の眼下に眺めてきている。景観は雄

大であり、何千年か、何万年か前にできた箱根カルデラの絶景の一部なのである。仙石原と芦ノ湖を抱いて静かであるべき箱根山は、地下から猛烈に水蒸気を吹き上げて確実に生きている。今回、構造的には地下のマグマがガスを熱し、蒸気を膨張させ山を動かしてきている。異常に噴出してこなければいいが、少しずつガス抜きをしないと、あまり貯めてしまふと爆発の規模を大きくしかねない。そうした火山活動の一環が、大過なく収まつてほしいものと願つてゐる。半径300メートル周辺の立ち入りを禁止区域としているが、既に箱根山周辺への登山道は通行禁止となつて物々しい感じである。直接的な被害の影響はないとは言つても、大自然の営みのことゆえ未知数なものがある。火山性地震の、どすんと突き上げるような響きと揺れ

は、気持ち悪い。しばらくはフジビューマンションにも行けそうもない。

こうしたことから、さらに観光シーズンを迎える夏に向かつて、箱根山の観光地に与える影響も大きいから心配である。私も慣れた道とは云いながら、先刻フジビューマンションに行つてきたが、薰風さわやかに、青ぞらの中を飛び立つような気持で車を飛ばしてきただが、つい山の裏で山が動いて燃えているという物騒な話を聞いたりすると、何かいたたまれない気持ちである。去年、SECエレベーターの鈴木会長にお世話になつて、エレベーターを新品同様に全面改装したばかりである。組合の理事長を務めて早や15年になる。責任上、マンションの安全確認にも万全を期していないといけないわけだ。

今日の午後三時半からは、可愛いあきほちやん、ゆきほちゃんの二人の姉妹が英語の勉強をしに家にやつてきてゐる。この春に中学生に

なつたばかりの女学生である。勉強が済んだら、庭でバーベキューをすることになっている。二人の姉妹は連休にお父さんの車で那須にあるおばあちゃんの別荘に行つた後、仙台に行つてとんぼ返りをして帰つてきたそうである。那須で買つたお土産を、おじちゃんにと云つて持つてきてくれた優しい子たちである。勉強が終われば庭でバーベキューするが、外はみどりのそよ風で、初夏の光とさわやかさでいっぱいだ。そうだお土産には、一人ともほうれんそうが大好きだと云つていたので、帰りには沢山持たせてやろうと思った。孫と同じように可愛がつてゐる、あきほちゃんと、ゆきほちゃんとふたりである。家内に英語の勉強を、拙宅で教わっている。今年から中学生になつて勉教に自信がついてきて、表情が豊かに、綺麗さがましてきている。女性としてたしなみと賢さである。大きく成長していくのが楽しみである。

5月6日



作品 関根常雄

## 中国習近平体制の行方

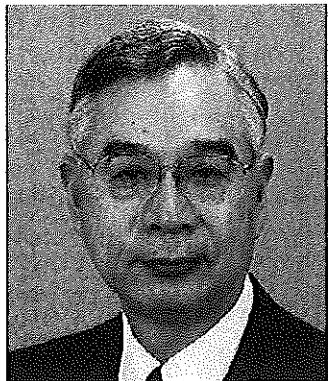
協調・強硬外交方針に矛盾

成長低下不満拡大も

日中首脳、早期に再会談を

元駐中国大使

宮本 雄二



中国の国会に当たる全国人民代表大会（全人代）の全体会議が15日に閉会した。全人代の位置づけは日本の国会とは根本的に異なる。中国は「共産党が（すべてを）指導する国」である（図参照）。党が方針を決め、立法、司法、行政などの国家機関が実施する仕組みとなっている。しかも各機関には党組織があり、指導者は原則、全員が党員である。全人代での討議も、あくまでもその仕組みに沿つたものとならざるを得ない。

この仕組みでは党のトップに権力が集中しないと、ものごとは決められないし、決めても前に進まない。2012年11月に成立した習近平政権は、まずトップへの権力集中（腐敗問題の処理）と党の方針確定にエネルギーを集中させざるを得なかつた。その間、国务院（行政）と全人代（立法）はあまり大きな役割を果たさなかつた。

\* \* \* \*

腐敗問題を利用した習主席への権力集中

も進み、政権はこの2年でかなり力をつけてきた。いよいよ立法院と行政府による党の方針の具体化の段階に入る。つまり構造改革であり、李克強首相の今年の政府活動報告は經濟体制改革に重点を置き改革を全面的に深化させるどうたつた。それを法治国家の建設、すなわち法律で制度と仕組みを作り、その実施も法律で縛り、監督も法律に従うことにしてた。

報告は「発展」の重要性を昨年以上に強く打ち出した。発展の速度は合理的なものであるべきだと断つた上で「中進国の罠（わな）」を克服するには発展に頼るしかないと明記している。そこには本年の經濟成長は昨年よりも難しくなったという判断がある。成長率見込みも昨年の7・5%前後から7%前後に引き下がった。それ故に改革をもつと進め、持続的な成長を確実なものにしなければなら

ないという報告の結論になる。

この基本認識は重要である。グローバル經濟の下での經濟成長、つまり発展をはからうとすれば、安定した協調的な國際關係が不可欠になるからだ。李首相は、記者会見では「中國は發展を第一の重要な任務としており、平和な國際環境を必要とする」と、明確に述べている。

\* \* \* \*

筆者は13年12月26日付の本欄で、中國の改革派は、ほぼ國際協調派と重なり、日本は改革派と連携し、中風の國際協調路線を定着させるべきだと論じた。同年10月の周辺国外交座談会における習講話を踏まえての結論であった。昨年11月開催の対外工作会议での習講話により、この路線は再確認され、補強された。

1つ目のポイントは、協力・ワインワイン

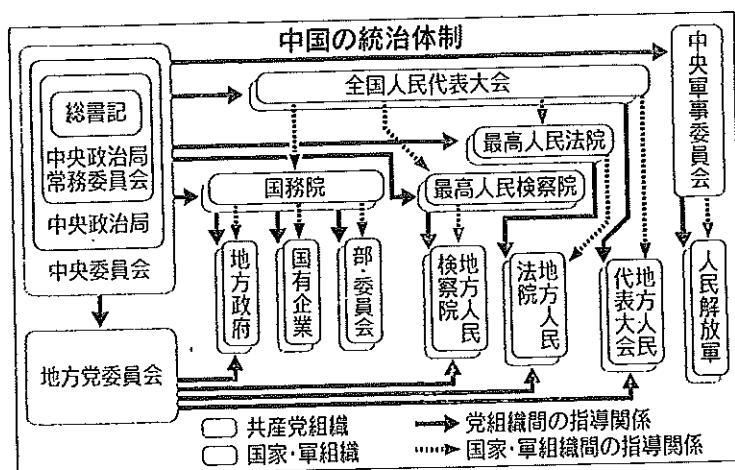
を中核とする新しい型の国際関係の構築である。これは経済発展を強く意識した方針でもある。

## 2点目は、中国式価値観の提起である。

「義利觀」（『大學』には「國、利を以<sup>リ</sup>もつ<sup>リ</sup>て利と為さずして、義を以て利と為す」とある）外交を唱えており、これは周辺国外交の理念として打ち出された親善、誠実、互惠、包容の理念とも重なる。中国外交が価値観、それも伝統的価値観を口にし始めたということであり、注目される。

問題は、中国のやることと言うことと違うではないかという点である。孟子は「力を以て仁を仮る者は霸なり」と言つた。口で立派なことを言つても力で自分の意思を押しつけるのは霸道なのだ。

3点目が新しい型の大國関係の推進と構築である。もともと既存の霸權国である米国と台頭する中国との不可避的な衝突を避ける



ために考え出され、現時点の内容は互いの核的利益は尊重し合うという段階にとどまる。そして最後に、領土、主権、発展の利益を断固として擁護するという、おなじみとなつた核心的利益外交がある。そして平和を強調し、紛争や問題を適切に処理することにも言及している。こうしたなかで軍事費の増大は続き、15年の軍事予算は前年比10・1%増となつた。確かに国内総生産(GDP)比では米国やロシアよりは低い。予算全体の増加率と同じというのも、どうであろう。だが、何のためにその軍事力を使うかについては、依然としてはつきりしない。

現代軍事理論は、脅威認識があり、それに対処するための戦略と戦術があり、それを支える兵器体系と部隊構成がある。民主主義国家では、まず国民にそのことを説明している。ところが中国ではここが曖昧なままなのだ。すでに日本の2倍をはるかに超えた軍事費

の急速な増大と半ば無意識に顔を出す米国への対抗意識を考慮すれば、中国脅威論が消えることはない。そして強い軍隊は、ナショナリズムの象徴であり、対外強硬姿勢の強い支援者となるのだ。

これらの総体が現時点における習外交である。まだ生成の途上にあるとみておいた方がよいであろう。特に価値観においては、そうだ。基本は、経済に重点を置いて協調的な姿勢に転じるが、必要な場合には強い姿勢をとることにちゅうちょしないし、そのためには、経済の下振れが強まれば強まるほど、協調的な対外姿勢が求められる。だが経済が想定以上に下振れすれば、国民の不満は増大し、ナショナリズムは高まりやすく、それは対外強硬姿勢となる。中国外交の抱える根本的な矛盾は残されたままなのだ。

\* \* \*

0周年と銘打つて国際的に大々的にやろうとしているのも、そのためだろう。

中国の対日方針の基本もこの大きな枠組みのなかで、ほぼ固まつた。基本は、日本との関係を改善するということだ。だが日本の中国外交における位置づけは低下し、経済的な重要性も下がつてきていることは、冷静に認識しておく必要がある。中国においても対日関係改善の動機づけは弱まっているのだ。このような状況のなかで、昨年11月のアジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議の際、日中首脳会談が実現した。その後、日中関係は前に進むはずだったのだが、戦後70周年の首相談話が出されることになり、中国側は警戒心を強めている。

同時に中国を戦後世界秩序の擁護者として売り込み、日本を秩序への挑戦者として描き、安倍晋三首相への圧力を強めている。中国が、わざわざ世界反ファシズム戦争勝利7

このように双方の疑心暗鬼はまだ続いている。だから両国政府は、自信を持つて前に進めないでいるように感じられる。だが安定した日中の協力関係が世界の平和と発展に欠かせないことは、ますますはつきりしてきた。両国首脳は、まず相手の信頼を得るよう

に行動すべきだ。そして、できるだけ早く再度会談し、昨年の4項目の了解事項を踏まえ日中関係を前に進める明確な意思を示すべきである。

みやもと・ゆうじ 46年生まれ。京大法卒。  
外務省に入り06～10年駐中国大使

## 宮本アジア研究所

代表 宮本 雄二



作品 関根常雄

## 2030年電源構成

原発依存度は15%程度に  
再エネ普及へ飛躍を

一橋大学教授

橘川 武郎



東京電力・福島第1原子力発電所の事故から4年近くたつて総合資源エネルギー調査会に長期エネルギー需給見通し小委員会が設置され、2030年の日本の電源構成および1次エネルギー構成をどう見通すかの審議がようやく本格的にスタートした。なぜ、こんなに遅れたのだろうか。

その理由は、政治的思惑にある。12年の総選挙、13年の参院選挙、14年の東京都知事選挙と総選挙のいずれの場合にも、自民党は原発政策について中長期的な見通しを明言しない方針をとった。原発に対する国民世論はいまだに厳しいと読んだうえで、原発政策を争点から外したほうが、勝利をより確実なものにできると判断したからだ。このような政治的判断に基づき、安倍内閣は14年4月に閣議決定したエネルギー基本計画でも、原発依存度を含む電源構成の策定を見送った。

\* \* \* \*

削減目標を明示することができなくなり、国際社会で孤立する。

電源構成をめぐる議論については、これまでそうだったように、これからも政治の影が色濃くつきまとうだろう。今年は4月に統一地方選挙が予定されている。これまでの手法からみて、政府・自民党は、それ以前には、30年の電源構成をめぐる具体的な数値案を示さないだろう。

しかし、さすがにその後は政治家や官僚による「先送り」は通用しなくなる。温暖化ガス排出量削減の20年以降の具体的枠組みを決定するパリでの第21回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP21）の開催が今年11月末に迫っているからだ。その5カ月前の6月にはドイツでサミットが開かれ、地球温暖化対策も議論される。それまでに原発依存度を含む電源構成を決めなければ、わが国は20年以降の温暖化ガス排出量

つまり、4月の統一地方選挙から6月のドイツ・サミットまでの間にあわただしく電源構成が決められる公算が大きいわけだが、この時期は通常国会の真っ最中である。この国会の焦点は集団的自衛権問題であり、同問題に関する自民党案に対して公明党サイドの抵抗感は強い。国会運営対策上、自民党は公明党にカードを切る可能性が大であり、そのカードに30年の電源構成における再生可能エネルギー比率が使われる可能性がある。この比率について、今のところ自民党は21%以上、公明党は35%と言っている。着地点が公明党寄りのその中間値ということになれば、「再生可能エネルギー30%」が盛り込まれることもありうるのである。

しかし、日本の未来を左右する電源構成の決定を、いつまでも政治的思惑に委ねていて

良いはずがない。るべき電源構成の姿を真剣に議論しなければならないが、その際参考になるのは、民主党政権時代に設置された総合資源エネルギー調査会基本問題委員会で12年に提示された3つの案だ（表参照）。

2012年の総合資源エネルギー調査会基本問題委員会で提示された2030年の電源構成の選択肢				
	原発	再生エネ	火力	コンエネ
選択肢(1)	0%	約35%	約50%	約15%
選択肢(2)	約15	約30	約40	約15
選択肢(3)	約20~25	約25~30	約35	約15
2010年度実績	26	11	60	3

\* \*

#### 表の選択肢

(1)は原発

反対派、(2)

は脱原発依存

派(3)は原

発維持派の主

張であり、筆

者は基本問題

委員会において選択肢(2)を主張した。

原発停止による火力発電所用燃料の輸入拡大により、膨大な国富流出や電気料金の大幅値上げが生じている現実をふまえれば選択肢(1)は支持できず、他方、原子力依存度を東日本大震災以前の水準にほぼ維持する選択肢(3)では、「可能な限り原子力依存度を減らす」という世論（それは安倍内閣の公約でもある）に反すると考えたからである。この立場は今も変わらない。

30年の電源構成における原子力依存度を15%と見通す根拠は、12年の原子炉等規制法の改正で、運転開始後40年を経た原子力発電所を廃止することが決まったことにある。この「40年廃炉基準」には異論もあるが、社会的受容性から見て、定着する可能性が高い。

「40年廃炉基準」を厳格に運用した場合には、30年末の時点で現存する48基のうち30基の原子力発電設備が廃炉となる。残

るのは 18 基 1891 万 3000 キロワットだけである。この 18 基に建設工事が進む中国電力・島根原発 3 号機と電源開発・大間原発が加わったとしても、30 年の原子力依存度は、10 年度実績の 26% から大幅に低下して 15% 程度にとどまる」となる（稼働率 70% として試算）。

なお、コーディエネレーション（熱電併給）を 15% とするのは、12 年の基本問題委員会で、原発反対派も脱原発依存派も原発維持派も一致して推薦した数値だからである。

筆者が提唱する電源構成のうち実現が最も困難なのは再生可能エネルギーの 30% である。再生可能エネルギーには、④稼働率が高く出力変動も小さい水力・地熱・バイオマスと、⑤稼働率が低く出力変動が大きい太陽光・風力の、二つのタイプがある。13 年度の電源構成に占める比率は④が水力を中心に 9%、⑤が 2% 程度である。

送変電ネットワークへの負担が少ないのは④のタイプであるが、水力には開発可能な地点の減少、地熱には自然公園法などの規制と温泉業者の反対、バイオマスには物流コストの大きさなどのボトルネックがあり、伸ばす余地はそれほど大きくない。30 年の電源構成において④タイプの再生可能エネルギーが占める比率は、多くとも 15% 程度にとどまるであろう。

そうなると、30 年に再生可能エネルギー電源 30% を実現するためには、稼働率が低く出力変動が大きい⑤タイプの太陽光発電と風力発電の合計比率を 15% 以上に高めなければならないことになる。確かに、技術革新の進展によって太陽光発電と風力発電のコストは大幅に低下している。しかし、14 年に電力各社が FIT（固定価格買い取り制度）で急増したメガソーラー発電のネットワークへの受け入れを保留したことで明ら

かになつたように、⑧タイプの再生可能エネルギー発電の普及には、暗雲が垂れ込めていく。

ここで明確にしておかなければならぬのは、最近の受け入れ保留問題は、あくまで FITにかかる問題だとということである。しかし、30年に再生可能エネルギー発電30%が可能か否かという問題は、FITにかかる問題ではなく、ポストFITにかかる問題だということを忘れてはならない。

そもそも、「げたを履かせて」導入を促進するFITに依存している限り、30年に再生可能エネルギー電源30%を実現することはできない。実現するためには、市場ベースでの再生可能エネルギーの普及が必要不可欠なのである。

\* \* \*

日本において、太陽光発電や風力発電を市場ベースで導入するうえで鍵を握るのは、送電線問題を解決することである。そのため、どのような方策があるのだろうか。

第1は、今後廃炉となる原子力発電所の送変電設備を活用することである。再生可能エネルギー発電の本格的な拡大に不可欠な送電線問題の解決は、原発廃炉によつて「余剰」となる送変電設備の徹底的な活用からスタートすべきである。

第2は、送電線を作る仕組みを構築することである。送電線を作るプロジェクトについて金融市場が的確に評価する、送電線敷設の対象となる地域での社会的受容性を高める、送電線投資に対して政策的に支援する。これらの仕組みを構築することが極めて大切である。

第3は、そもそも送電線を必要としない方式を導入することである。この点では、全国

各地にスマートコミュニティーを拡大し、電力の「地産池消」の比率を高めて、送電系統にかかる負荷を減らすことが重要である。また、再生可能エネルギー発電によって発生した余剰電力を使つて、発電地点で水の電気分解を行い、発生した水素を消費地に運んで利用する方式も考慮に入れるべきであろう。

きつかわ・たけお 51年生まれ。東大経済学博士。専門は日本経営史・エネルギー産業論

橋川 武郎



作品 関根常雄

えてくるのかについて考えてみたいと思います。

結論から申し上げますと、私には、次の3つが見えてきました。

中国主導 アジアインフラ投資銀行  
創設から見えてくるもの

NHK解説委員

加藤 青延

まず、中国の「一挙両得」そして「てんか・いふく、禍転じて福となす」策の登場。

次に、壮大なユーラシア大陸の経済発展をめぐる東西の思惑の一一致。

さらに、かつての冷戦構造とは全く異次元のねじれた国際環境の鮮明化であります。

まず、中国の「一挙両得」「禍転じて福となす」政策についてご説明しましょう。

中国が設立を呼び掛けたアジアインフラ投資銀行AIIIBは、アジアやヨーロッパなど六十か国近くが参加して創設されるとになりました。そこで予想外の展開を見せた創設の動きと、そこから、一体何が見

ところがインフラ整備は、飽和状態に近づき、いま中国国内には、鉄鋼やセメント

など材料の在庫が山積み状態です。おかげ

で、経済成長にもブレーキがかかってしましました。その一方で、外国との貿易で年々蓄えてきた外貨準備は大幅に膨れ上がり、その使い道にも困り始めていたのです。

一方、広大なアジアには、インフラ整備を求める声が山のように存在しています。そこで、これからは、あまたのモノと力を海外に投資することで、自らの経済成長を支えようという発想が生まれてきたのです。

ただ、中国には大きな不満がありました。すでにアメリカに次ぐ第二の経済大国になつたのに、国際社会の経済体制は、アメリカを中心にがっちり固められていて、中国

が十分な発言力を持てないという不満でした。

現在、世界経済の中心的な役割を果たしているIMF・国際通貨基金への出資比率を見ますと、アメリカが圧倒的に多く、中国はわずかにとどまっています。中国の出資枠拡大などIMF改革も動き出していますが、中国の思い通りには進んでいません。同様に、アジアでは、日米が主導するアジア開発銀行ADBが大きな力を持つてきました。ここでも、中国の出資比率は日本の半分以下です。

つまり中国としては、現状では過小評価されている国際影響力を示すために、国内に抱える大量の在庫と豊富な外貨準備を活かして、自分たちが主導するインフラ投資銀行を作ろうという、「一挙両得」、「禍

転じて福となす」という妙案に至ったといえます。

ただ、それは、アメリカを中心とした既存の国際経済体制に対する中国の挑戦とも受け止められ、アメリカをはじめ西側の多くの国々の警戒を招きました。それにもかかわらず、なぜ、多くのヨーロッパ諸国が国の呼び掛けに応じて参加したのでしょうか。

創設メンバーは57カ国です。ユーラシア大陸の東端に中国、西端には、EUという大きな经济体があり、まさにインフラ整備を求める新興国や途上国を挟み込んでいる形なのです。

そしてそこからは、ユーラシア全域の発展にあやからうという東西双方の思惑の一一致が見えてくるのです。ただ、今回の話が、

とんとん拍子に決まったかというと決してそうではありませんでした。実は、大きなかきっかけとなつたのが、イギリスだったのです。

中国はおととし秋、AIIIBの設立を呼びかけました。そして一年後の去年秋の段階で、参加を表明したのは投資を呼び込んだたい新興国や途上国など21カ国でした。ところが今年3月になつて、突然、イギリスが西側先進国として初めて名乗りを上げました。すると、それまで躊躇していたヨーロッパの主要国が「我も我も」と次々に参加を表明、一気に57カ国にまで膨れ上がつたのです。

アメリカと親しいイギリスが、なぜアメリカ主導の経済体制に刃向かうようにも見えるアジアインフラ投資銀行に率先して参加を表明したのでしょうか。そして、イギ

リスが手をあげると、どうしてほかの国々も次々に手を挙げたのでしょうか。そこには、互いに相手に負けられないというヨーロッパ内での競争もあつたでしようし、アジアとは別の「域外の国」として、少しの出資で大きなプロジェクトにあやからうという思惑もあつたものと見られます。ドイツはさつそく、A I I B のヨーロッパ拠点をドイツに作るよう名乗りを上げています。

ただ、私が注目するのは、真っ先に手を挙げたイギリスがアジアに保ち続けている歴史的な関与の深さです。

まず、中国でイギリスの銀行は、唯一、外国通貨と完全に交換できる通貨を発行しています。香港ドルのことです。それだけではありません。イギリスは、かつてアジアの広範囲に植民地を築き、それぞれの国が政治的に独立した後も、銀行や通信網を

基盤としたネットワークを通じて、その影響力を残してきました。

イギリスの銀行H S B C、つまり香港上海銀行がもつ支店網は、中国本土はもちろん、東南アジア、インドなど実に広範囲に及んでいます。そして、そのH S B Cこそが、金融立国イギリスを支える巨大な基盤でもあるのです。イギリスのA I I B 参加表明の後、H S B Cは、かつて香港からロンドンに移した本社を再びアジアに回帰することも視野に検討する方針を明らかにしています。実は、中国が打ち出している二つのシルクロード経済発展構想、そしてその中心的な裏付けとなるA I I B がカバーする地域とイギリスの金融面での影響力が及ぶ地域とはかなり重複しています。それが対立ではなく、協力になるのはなぜか。

私は、香港がイギリスから中国に返還された直後の1997年、それを狙い澄ましたかのようにアメリカのヘッジファンドが仕掛けて起きたアジアの通貨金融危機が、ひとつの教訓になつたのではないかと思ひます。

#### V・1997年アジア金融危機

当時、東南アジアの多くの国の通貨が急落し、やがてその波が香港にも襲いかかつたのです。その時、中国とイギリスは、IMFや世界銀行などの支援を受けず、二か国がタッグを組む形で、香港ドルの防衛に成功しました。

この時、イギリスは、香港に巨額の経済権益を保つ以上、中国とは金融面で、一連托生の関係にあると感じたのではないでしょか。

最後にAIIB創設からみえてくるものとして、冷戦構造とは全く異次元のねじれた国際環境が鮮明化してきたことについて申し上げたいと思います。

第二次世界大戦の後、世界は、アメリカとソビエトという東西二つの超大国が対立する冷戦構造に陥りました。この時には、両陣営の間は、鉄のカーテンで閉ざされ、軍事対立だけでなく、経済もそれぞのブロックの中で展開するという形になりました。

ところがその後、中国の登場で、安全保障面では対立。経済面では協力しあうとう、矛盾に満ちたねじれの構造が生まれてきたのです。中国は、政治的には共産党の一党支配体制を維持し軍備拡張を進める一方で、経済的には、外資や市場メカニズムを大胆に取り入れ西側との関係を抜き差し

ならないところまで構築するという手に出  
てきたのです。

アメリカなどが進める安全保障面からの  
中国封じ込め政策に対し、中国が今回打  
ち出した A I I B の創設は、経済によつて  
軍事包囲網を突破しようという中国の戦略  
とも見て取ることができます。異次元とも  
いえるねじれの構造は今後ますます顕著化  
するでしょう。

では、日本はどうすべきでしょうか。実  
は、中国はいまなお、日本の参加を歓迎す  
るという立場を崩していません。それは、  
日本が加わることで、銀行の格付けが上が  
るからです。

世界銀行やアジア開発銀行 A D B は、最  
近、A I I B とは競うではなく協力しあ  
つてゆく方針を示しました。もし日本が加

わることで、その中身に深くかかわること  
ができるのであれば、日本はアジアにおい  
て、A D B と A I I B という二枚のカード  
を手にすることになります。いずれにして  
も、安全保障と経済関係のねじれがありますま  
ず顕著化する新たな国際構造の中で、国の  
繁栄とその影響力を維持発展してゆくため  
には、これまで以上にしたたかにふるまえ  
る柔軟な英知が求められることになるでし  
ょう。

## 地震・火山列島と認識せよ



東北大学教授

遠田 晋次

火山噴火や大きな地震が続いた。

5月29日に鹿児島県口永良部島の新岳が爆発的噴火を起こし、30日には小笠原沖でマグニチュード(M) 8・1の地震が起きた。箱根や桜島の火山活動も活発化している。

こうした一連の出来事は、2011年3月1日に起きた東日本大震災の影響ではないかとも言われる。

だが、専門家の最新的知見をもつてしても、因果関係の有無や程度をきちんと説明できないのが現状だ。

確かに過去のデータを見ると、M9級の超巨大地震の後、数年、もしくは10年以上にわたって余震や周辺域での地震活動が続く。火山活動も同じで、地震よりも長い時間をかけて影響が及ぶと考えられている。

東日本大震災では、震源付近で最大50cmもプレート(岩板)がずれ動いた。ものすごい変動だ。ただ、東日本の地下まで延びるプレート

は、ゆっくりと数ヶも動いたところもある。巨大地震による一瞬の地殻変動だけではなく、このような深部の継続的な変動が、列島の地下にじわじわと影響し、火山活動を刺激するという見方もある。

さらに、火山の場合、地下深くの岩石が溶けてマグマになつたり、マグマが移動したりする過程に時間がかかる。どのぐらいの時間をかけて影響が出てくるか、まだよくわかつていない。ビールを搖すると泡が噴き出すように、すぐに噴火に結びつくという説がある一方、地下の状態はじわじわと変化するという考え方もある。

巨大地震の震源から離れるほど、火山活動への影響は少ない。今回の口永良部島や、活動が活発化している桜島は、東日本大震災の震源からかなり離れている。大震災の影響というよりも通常の火山活動ではないかと思われる。

震源に近いという意味では、富士山もその範囲に入る。大震災の4日後に富士山山麓の静岡県東部で震度6強の地震が起きた。今後、富士山の火山活動に影響が出てくる可能性も考えられる。箱根の火山活動が活発化しているのも、東日本大震災と全く関係とは言えない。

東日本大震災の余震はまだ全部終わつたわけではない。今後、M8級の余震が起きる可能性もある。地震、火山とともに注意が必要だ。

こうした一連の出来事から、日本列島は地震・火山の活動期に入ったという見方がある。だが、日本列島の美しい景観、温泉、資源などは、そもそも普段からの活発な地震や火山活動によつてもたらされた。

世界の地震の10分の1は、日本とその周辺で起きている。日本で起きている地震の10分の1は首都とその周辺で起きている。いかに日本列島に地震が多く、しかも人が住む場所で起きているかがわかる。

活発期に入つたかどうかと考えるよりも、すでにそのような危険要因を抱えた場所に住んで

でいることをきちんと認識すべきだ。それを前  
提に防災を考えていく必要がある。(聞き手・

読売新聞編集委員 知野恵子)

# 遠田晋次

東北大學教授。専門は地震地質学。東大、産業  
技術総合研究所、京大などを経て現職。近著に  
『連鎖する大地震』(岩波書店) 48歳。



作品 関根常雄

アジア投資銀  
日米不参加正しい方針

JR東海名誉会長

葛西 敬之



巨大な公共財であるインフラの整備には、長期的な視野に立った計画と財政的な裏付け、そして資機材・労働力の投入が必要である。完成した後も、運営・保守の負担は続く。すなわち、インフラの整備、維持、管理は、国家戦略そのものといつてよい。

中国の習近平国家主席が提唱するアジアインフラ投資銀行（A I I B）は、2020年までに8兆<sup>ド</sup>とも試算されているアジアのインフラ投資需要に応えることを名分としてはいる。しかし、いわゆる「陸・海のシルクロード構想（一帯一路構想）」と表裏一体となつて、「中華民族の偉大なる復興」という中国の夢を実現する手段であることは明白である。

A I I Bを巡る経過を見ると、中国は創立メンバーへの参加期限を一方的に3月末と設定し、4月末に創立メンバー候補国を北京に招集して、設立協定交渉を行つた。

さらに、歐州諸国など交渉参加を表明した国々の意向に関わりなく、6月末には交渉を終了し、年末までに設立する方針を変えていない。一方的な進め方は、交渉によるコンセンサス（合意）形成という国際機関の常識からはほど遠い。

これまでの状況から、設立後のA I I Bの運営が透けて見える。中国が突出した筆頭出資国となり、本部は北京、総裁は中国人と予想されるその体制の下では、中国の国策・国益に資するか否かが融資の判断基準となるのではないか。

数千億円とされる日本の出資金や、日米の参加により有利な条件で調達された資金が、中国の覇権拡大に必要な鉄道、港湾、空港などに使われることはあつてはならない。

オバマ米大統領は今年の一般教書演説で「中国はアジア・太平洋地域の通商のル

ルを自らの手で書こうとしている。それは我々の手で書くべきだ」と言及している。

中国は、東シナ海で日本固有の領土である尖閣諸島周辺に侵犯を繰り返すとともに、南シナ海でも南沙諸島の岩礁を強引に埋め立て、そこに滑走路の建設まで進めている。

こうした現実を目の当たりにしつつ、A I I B交渉に参加すれば、明白な国際法違反を既成事実として受容するような曲解を許すことになる。中国による東南アジア全体の秩序を乱す行動に力を与えかねない。

ゆえに日本と米国がA I I B交渉に参加しなかつたことは正しい。これからも一貫して「参加せず」「惑わされず」の方針で、日米の連携によってアジア開発銀行（A D B）の活性化や、環太平洋経済連携協定（T P P）締結交渉などを進める姿勢を貫いてほしい。

旧ソ連の崩壊により、米ソ冷戦という20世紀の枠組みが終焉を迎えてから、既に20年余りの時を経た。世界はいまだ21世紀の安定的な枠組みを模索中であるが、主な舞台がアジア・太平洋へと移行し、中国が新たなアジアの主役として登場する中、日米同盟の役割がより重要なになってきたことは明らかである。

その中国は、共産党の一党独裁の下、13億人の人民を統治する異色の大國である。「社会主義市場経済」あるいは「国家資本主義」の下で、外国の技術と資本を積極的に取り込み、急速な発展を遂げて経済大国となつた。

しかし、国有企业が主導する急速な経済拡大は、一方でバブル経済を、他方で過剰設備能力と余剰労働力を生み、同時に、共産党や政府内部での腐敗を進行させた。結果として貧富の格差が拡大し、大衆の不満

は頂点に達している。都市部には3億人に近い無戸籍流動人口が存在し、年間20万件にも及ぶ暴動が起きているという。

こうした状況の下で、いかにして共産党による一党支配の正当性を維持するかが、習近平政権の最大の課題だとされている。

習政権は、大々的な腐敗の摘発を行つて信頼回復に努めながら、増強された軍事力を背景に、既存の国際法秩序を自らの手で塗り替えることで大衆の中華思想に訴え、不満を外に向けようとしている。

さらに、「陸・海のシルクロード構想」を提唱して中央・東南アジアを勢力範囲に收め、太平洋・インド洋における米国の優越性にくさびを打ち込む戦略を展開している。

A I I Bは、こうした構想推進のためのツールであり、余剰生産能力と余剰労働力の「はけ口」作りをも狙つたものだろう。

鉄道、港湾、空港などのインフラを支配することは、その国を自らの勢力圏に組み入れることを意味する。

だが、そのための膨大な資金を中国単独では賄うことができない。国際金融機関の名の下に、他国の信用と資金を活用し、しかも経営・管理権を中国が掌握することにより、自らの構想実現に向けた資金調達に役立てる意図と見て間違いないだろう。A I I Bへの対処はすなわち、政治、外交、安全保障問題の一事象として捉えなければならない。

軍事的、経済的に膨張し、尖閣諸島への侵犯や沖縄分断に向けた野心を見せる中国と、安定的かつ理性的な関係を作ることは、21世紀の岐路に立つ日本にとって最大の課題である。

その際、留意すべきは、様々な挑発や侵犯行為を繰り返し受けつつも、日本が領土

保全の気概を強く持ち、日米同盟が不動である限り、中国には一線を越える意図はないだろうということである。

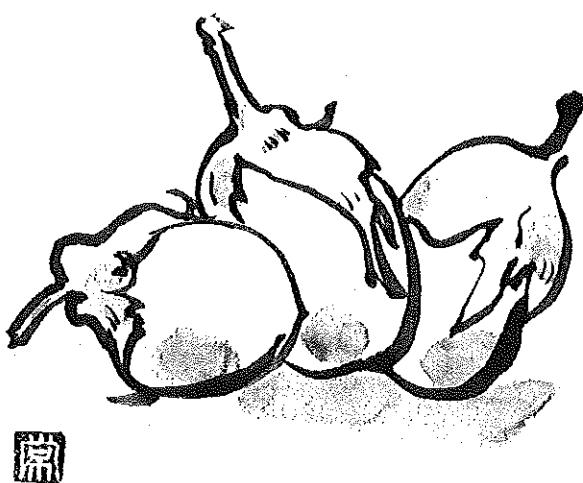
日本が究極の安全保障を米国の「抑止力」に依存しており、日本に米軍が基地を保有することが、米国の国益とアジア・太平洋地域の平和にとって不可欠である。そして日米は、民主主義・自由主義の価値観を共有していることが重なり合って、自然的同盟を形成しているからである。

20世紀の米ソ冷戦時代にも抑止力は機能した。21世紀における中国に対しても、また同じであろう。沖縄、横須賀、横田、三沢などに駐在する米軍の存在こそ、日本が核による威嚇を受けないための保障である。日米同盟が分断不能と認識された時に抑止力が生まれ、中国との間で勢力均衡が成立するのだ。日米中の関係を三角形と見る向きもあるが、その可能性を見て取れば、

中国は日本を自国の核の傘に引き入れるべく、軍事力による威嚇も含め、国内世論の分断と日米を引き離す動きに全力を挙げてくる恐れもある。A I I Bについては、こうした中国の野心的な基本的構図の一環だと認識して対処しなければならない。

葛西敏之氏 1940年生まれ。95～2004年、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）社長。同社会長を経て、14年4月から現職

## 葛西 敏之



作品 関根常雄

## ニュースな科学

国は2040年代以降の宇宙太陽光発電実現を目指しているが、実現性はどれほどあるのだろうか。

宇宙太陽光発電実用化へ一步  
天候に左右されず 建設コストが課題

日本経済新聞社記者

岩井 淳哉

無線給電は応用範囲が広い技術だ。通常の家電製品は電池または電源プラグをコンセントに差し込んで動く。屋内使用ならよいが、外出先で携帯端末の充電池が切れてしまえば使えない。無線で電力を送ることができれば使い便利だ。

その先にあるのが宇宙太陽光発電だ。1960年代に米国でアイデアが提唱され、国内外で研究が続いてきた。宇宙空間に浮かべた2キロ四方のパネルで太陽光を受けて発電し、その電力を電波に変換したうえで無線給電技術を使って地球に送る計画だ。

地上ではアンテナで受けた電波を電気に戻して使う。天候に左右されない利点があり、経済産業省は最大で原子力発電所1基分にあたる100万キロワット級の発電を見込んでいる。

宇宙空間に浮かべた太陽光パネルでつくつ

た電力を地球に無線で送り、日本のエネルギー問題の解決に役立てる。そんな壮大な計画の第

一步となる無線給電の実証実験に、宇宙航空研

究開発機構（JAXA）などが3月に成功した。

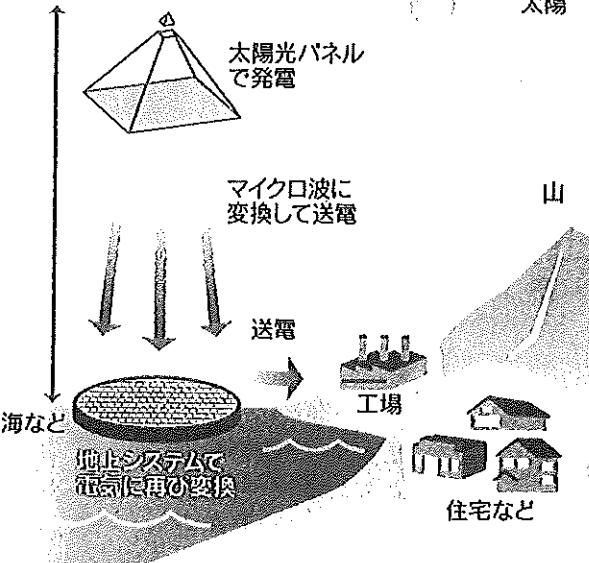
普及すれば、資源を持たない日本がエネルギーの輸出国になれるかもしれない。実現には電気を電波に、電波を電気にそれぞれ効率よく変える技術や、宇宙から3万6千<sup>キロ</sup>メートル離れた地上の標的に精度よく当てる技術などが必要だ。3月の実験では、電力を特定の場所にピンポイントで送る技術の実証を目指した。JAXAと宇宙システム開発利用推進機構

## JAXAなど地上実験に成功

### 宇宙太陽光発電は巨大なパネルを活用する

(イメージ)

地上3万6000キロメートル



### 宇宙太陽光発電の主な利点と課題

#### 利点

- ・昼夜を問わず発電できる
- ・天候に左右されない
- ・発電時に温暖化ガスなどが発生しない

#### 課題

- ・宇宙から正確に電力を地上に送れるか
- ・建設コストなどをどこまで下げられるか
- ・安全性の検証などはこれから

などが、55メートル離れた場所に無線で正確に送ることに成功した。

三菱電機の兵庫県内の施設で、電気エネルギーを電子レンジや携帯電話などに使う「マイクロ波」に変換してアンテナから送り出した。受電用アンテナで受け取った後、ノートパソコン

3台分の電源に相当する約300ワットの電力を取り出すことができた。アンテナ全体はいずれも面状だ。

宇宙太陽光発電向けのパネルは1辺が1メートル

の四角い板を並べる。送電用アンテナも小さな

アンテナを無数に並べて2キロメートル四方にする。今回実験では60センチ四方のアンテナを2・5センチにまで薄くし、重さを16キログラムに抑えた。

個々のアンテナの位置にずれが生じると、電波同士の作用で効率が下がる可能性がある。三

菱電機はアンテナごとに電波を送り出すタイミングを微妙に調節する技術を開発した。実証実験であえてアンテナを数センチずらして悪い条件をつくり出しだが、問題なく強い電波を送れた。三菱電機通信機製作所の本間幸洋さんは「宇宙で使える水準に近づいてきた」と胸を張る。

受電用アンテナでもI-H-Iエアロスペース（東京・江戸川）が縦2・6メートル、横2・3メートルの板に、直径3センチほどの丸い「パッチアンテナ」を約2300個並べた。電波をうまく受けられることを確かめた。

JAXAなどの実験とは別に、三菱重工業も無線送電実験に2月に成功した。今のところ宇宙空間ではなく、災害時に停電になつた山間部の地域などに電気を送ることなどを想定する。ただ「残る技術課題も多い。まず送電・受電の効率を高める」とだ。専門家らは宇宙で発電

した電力の50%を地表に送れれば実用化できるとみているが、今回のJAXAなどの実験では5～10%だった。効率を高めるには新たな半導体素子などの開発が欠かせない。

宇宙空間から実験しないと分からぬ点もある。JAXA宇宙科学研究所の准教授、田中孝治さんは上空300キロメートルの人工衛星から電波を地上に送り、送電効率や安全性などを調べる計画を進める。

この高度には太陽光で大気の分子がバラバラになつた「電離層」があり、電波の方向を変えたり吸収したりする可能がある。田中さんは「数年以内にプロジェクトを始めて確かめたい」と話す。

コストも大きな課題だ。巨大な宇宙構造物の資材は約1万トンに達する。日本の主力ロケット

である「H2A」で運ぶとすると、1000回以上の打ち上げが必要になる。100万キログラム級の宇宙太陽光発電を実現するには、1兆2436億円の費用がかかるとJAXAは試算する。宇宙研究は文部科学省、ビジネスは経済省、電波は総務省が管轄する。宇宙太陽光発電の研究に取り組む京都大学教授の篠原真毅さんは「エネルギー確保へ実用化に向けた協力体制を築けるかどうかが重要だ」と語る。

## 2030年の電源構成

再エネ 多面的意義活かせ

目標と手段は一体で

原発は社会的信頼に課題

京都大学教授

植田 和弘



エネルギー・ミックスの策定が急がれている。温暖化ガス排出量の2030年削減目標を早期に提出しなければならないからである。年末にパリで開催される国連の会議（COP21）へ向けた国際的な要請である。福島原発事故で原発が停止したことを理由に目標提示を遅らせてきたが、会議が迫り、時間的猶予がなくなってきた。公式には3月末提出だが、6月のサミットがぎりぎりの期限とされる。

しかし、先送りしたことでのエネルギー・ミックスの最適解を出しやすくなつたわけではない。前提として確認しておくべきは、エネルギー・ミックスの議論が電源構成の問題に限定されはならないということである。二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出は90%以上がエネルギー起源であり、エネルギー需給の見通しが温暖化防止に決定的な影響を与える。

\* \* \* \*

だが、日本のエネルギー消費の最終形態を見ると、電気は3割未満にすぎず、熱という形態での消費の方が多く、非電力部門からのCO<sub>2</sub>排出量が電力部門からよりも多い。温暖化防止目標を設定するためエネルギーミックスを議論するのであれば、熱利用の再検討は優先的に取り組むべき課題である。熱への取り組みはコーディネーション（熱電併給）という分散型電源の普及も促すであろう。

電源構成に限つても、各電源にはそれぞれ質的に異なる課題があり、すべての面で優れた万能な電源はない。

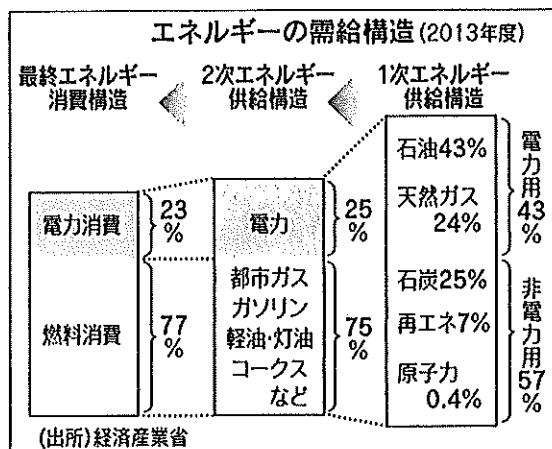
現状は9割を火力に依存しているが、国富流出抑制や温暖化防止の観点から依存度を減らしていく必要がある。火力の内訳も重要だ。石炭火力は当面安価な電源を確保しようとする動きから、建設計画が目白押しである。3月9日付日経社説によれば、計画は国内で約40件あるとされ、発電能力を単純に合計すると15

00万キロワット、原発15基分にもなるという。しかも、半数近くは環境アセスメントを受ける必要のない規模である。

仮に効率的な石炭火力であっても、CO<sub>2</sub>排出量は天然ガス火力よりもかなり多い。発電所は一度建設すると長期にCO<sub>2</sub>の排出が続く。石炭火力抑制という国際的な流れに逆行し、温暖化防止の観点からは、CCS(CO<sub>2</sub>の回収・貯留)の義務付けや炭素税の強化が不可欠になる。

原子力発電は、依然として不確実な電源である。政府は安全性が確認された原発は再稼働する方針だが、適合性審査を行うのは原子力規制委員会であり、何基の原発が審査に合格するかを政府が現時点で確定はできない。仮に適合性審査に合格しても、地元同意という難関が待ち受けれる。世論の多数は再稼働に反対である。原発再稼働のハードルが低いとは言えず、何基の原発が再稼働するのだろうか。

原発の事故リスクも課題である。規制委員会の規制基準を順守することでリスクはどの程度低減するのだろうか。政府は世界最高の安全基準としているが、異なる見解もあり、国民が納得する形での共通了解には至っていない。そもそも世界最高水準だつたらよいのだろうか。地震大国で福島原発事故も経験した日本の規制基準が、世界最高の厳しさを持つのは当然である。問題はその基準に基づく安全対策が、福島のような過酷事故を再び起こさないのか否かだとと思う。この問い合わせに対する明快な回答はまだない。加えて、放射性廃棄物の最終処分、汚染水対策、廃炉など社会的信頼を得る電源になるまでの課題が多い。



再生可能エネルギーに対する期待は大きい。廃棄物の捨て場探しに困る、いわば廃棄物約の時代にCO<sub>2</sub>も放射性廃棄物も出さないのは、普及すべき根拠になる。「資源のない」日本にとって豊富な国産品であり、エネルギーの安定供給を向上させる。バイオマスなどは地域資源なので地域活性化に貢献し、地方創生の観点からも魅力的である。

もちろん課題もある。風力は量的拡大が期待されるが、太陽光とともに変動性電源であり、系統安定化への対処が求められている。制度の見直しを明確にすることや系統の広域的運用システムなどソフト的対処が不可欠で効果的である。ITと結合したイノベーション、そして

規制改革ともあわせて、再エネの多面的意義を活（い）かす政策が求められている。再エネの拡大には当面は固定価格買い取り制度が核になるが、その進行管理を適切に行い、技術進歩やシステムの効率化によって競争力を持つことが基本である。

コジエネについては言及したが、その潜在力は大きく、系統への負荷は小さい。このほか、エネルギー利用の効率化や節電による創電も位置づけられるべきである。震災後、「節電所」が知られるようになり、実際に大幅な節電が進んだ。発電所は発電によって電気をつくるが、節電所は節電によつて電気をつくりだす。物理的な発電所を建設するわけではないので安価である。第四の電源と位置づけるべきだろう。

電力やエネルギーの消費はそれ 자체が目的ではなく、活動を行うための手段であり派生需要である。同じ水準の活動目的が達成できるなら、それに必要なエネルギーは少ない方が望ま

しい。節電による創電が活発化し、住宅やコミュニティーのスマート化が進行しているのを見れば、現代は電力消費量を減らしながら成長する経済への移行過程にあるといえるかもしない。

\* \* \*

固有の特徴と課題がある各電源・エネルギー源をいかに組み合わせるべきだろうか。その決め方が問題になる。従来のエネルギーミックスは、供給力整備計画的な要素が強かつた。大規模発電所が中心であれば、火力や原発がそれぞれ何基あるかわかれれば、設備利用率をかけて発電量を算出し、電源間の比率が導出されるというわけである。

しかし、30年の電力市場は現在とは様相が大きく異なる。電力システム改革が想定通りに進めば、発送電が分離し市場の自由化が進行している。電力の消費者や需要家は使う電源を市場で選択できるようになつていて可能性が高

い。その場合、電源構成は先驗的に決められるものではなく、消費者や需要家の選択に依存することになる。

消費者・需要家による電源選択がある世界では、電源構成は供給計画が決めることにはならず、需要側の選好が反映された選択の結果ということになる。30年における電源構成を計画的に決めるることは難しいと言わざるを得ない。

昨年4月に策定されたエネルギー基本計画も定量的記述は弱かつた。政府が何らかの定量的な見通しを示すことは、エネルギー政策の方向性を明確に示すという意味がある。

安定供給、安価、温暖化防止、復元力、地方創生などを全体として向上させる組み合わせは、どの価値を重視するかによって変化する。また、それぞれの電源が抱える課題をどれだけ解決できるかによつて、電源間の相対的優位性も変わるが、この点で政策の果たす役割と影響は大きい。

ミックスは政策目標といえ、再エネ、コジェネ、省エネ・節電の最大化を掲げ、実現のための手段と合わせて議論されるべきである。つまり、30年という時間断面でのミックスを議論するだけでなく、そこへの移行過程とその後の方向性も明らかにしなければならない。それが事業者や国民に対する明確なメッセージになるからである。

エネルギーミックスを決める」とは、日本の経済や社会の将来ビジョンを描くという作業そのものであり、公共的な選択過程が問われている。

うえだ・かずひろ 52年生まれ。京大卒。経済学博士、工学博士。専門は環境経済学。

不植

(田)

7/12

34

失敗恐れぬ起業支援を  
資金より人脉が重要

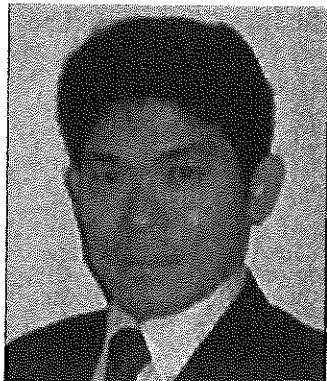
東京大学教授

柳川 範之

I T (情報技術) や人工知能の発達が、今後の雇用状況を大きく変える可能性について、最近マスコミなどでもしばしば取り上げられている。センセーショナルな論調も見受けられるが、経済学者による地道な検討も進んでいる。

米国の労働市場では、1980年代から高賃金層と低賃金層の雇用が増大し、中間層の比率が低下する二極化の傾向にある。米マサチューセッツ工科大学 (M I T) のデビッド・オーダー教授をはじめとする多くの研究者は、その大きな要因としてコンピューターの発達を挙げている。

オーダー教授らは、製造業において定型化された仕事に従事していた中間所得層がコンピューターにとって代わられ、コンピューターが代替しにくい低所得のサービス業にシフトせざるを得なくなっている構造を取り揃している。日本と米国では労働市場を取り



巻く環境は違うが、法政大学の池永肇恵教授の研究などによれば、日本でも労働市場の二極化の傾向がある。

注意すべき点は、人工知能の発達が想像以上に急速なことだ。今までは、オーラー教授が考えていたように、高スキルの労働はコンピューターでは代替されず、賃金がむしろ上がるとされた。しかし複雑なことをより正確に、しかも自ら学習することが可能になつたコンピューターは、今まで高スキルとされてきた労働の代替もしてしまう可能性が高くなつてゐる。

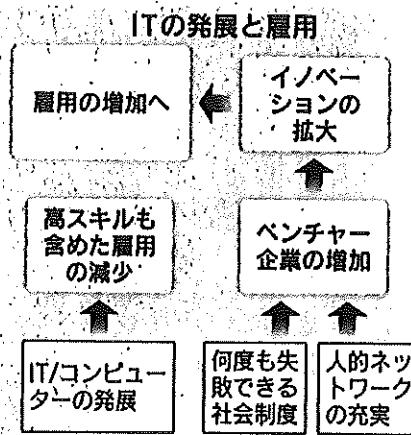
もう一つは、さまざまなもので社会全体で行い、イノベーション（革新）を起こして生産性を上げ、新たな雇用ができるだけ生まれしていくことだ。より多くのベンチャーエンタープライズの参入は、このような経済全体に関する長期的視点からも重要なとなる。著書「機械との競争」で話題を呼んだMITのエリク・ブリニヨルフソン教授らも近著で同様の主張をしている。

このような時代において必要なことは何か。一つはコンピューターに代替されない能力をできるだけ身に付けることだ。しかし、代替されない技能や能力の範囲はなかなか

もちろん、イノベーションにはベンチャー企業だけでなく、大企業の役割も当然重要である。ただ、新しいアイデアを実現しようとすると場合、大企業内では限界が生じがちな

\* \* \*

も事実だ。企業内の論理で受け入れられるものしか認めず、既存業務の延長線上でしかアイデアが実現しないとすれば、イノベーションは滞ってしまう。既存企業においてはこのような傾向に陥らない工夫が一層求められる。



イノベーションを起こすうえで考慮すべきポイントの一つは、アイデアの真価はある程度実行してみないと分からぬという点だ。

もう一つのポイントは、アイデアを事業化する際に人的ネットワークがカギを握る場合が多いという点である。ニューヨーク大学のアレキサンダー・ヤングビスト教授らが明らかにしているように、ベンチャーキャピタルの重要な要素は資金提供だけでなく、むしろ人的ネットワークを通じた人脈や経営アドバイスを提供することにある。

この点で興味深いのは、スタートアップ段階の企業に資金提供するシードアクセラレ

である。もちろん、そのアイデアが成功することは限らない。かなりの割合で結果としては失敗することになり、その失敗をある程度許容することが必要となる。日本では特に「目利き」という言葉が重視されるように、成功できるアイデアをピックアップするところが重視されがちだ。しかし成功できるアイデアのみを選ぼうとしすぎると、結果として無難なものしか選ばれなくなってしまう。

ーター（以下アクセラレーター）という組織である。欧米では近年急速に拡大しており、日本でも増えつつある。米ドロップボックスや米エアビーアンドビーといった著名な新興企業がアクセラレーターから資金提供を受けていたこともあり、注目されている。

ニューヨーク大大学院生のサンディ・ユウ氏の論文によれば、米国のアクセラレーターが個々の企業に提供する資金は平均で2万ドルを超えないレベルである。その代わり重要なのは、メンターと呼ばれる起業経験者や投資家などによるアドバイスの役割だ。アクセラレーターは研修プログラムを提供し、その研修でメンターが様々なアドバイスをする。経営上の問題点などを指摘され、経営手法など学んだあとで、資金提供を受ける仕組みになっている。

その後うまくいった企業はベンチャーキャピタルなどから資金提供をうけ、さらに成

長していく。しかし、アクセラレーターから資金提供を受けた企業は、通常のスタートアップ企業に比べて早々に撤退しているケースも多く「失敗」の投資もかなりある。つまりアクセラレーターは、メンターによるアドバイスを提供しつつ、比較的少額でアイデアを実験的に実行させる役割を社会的に担っていると考えられる。日本でこれからスタートアップの一層の増大を考える際には、このアクセラレーターの機能から学ぶべき点は多いようと思われる。

当然、このアクセラレーターのような組織を公的に提供することも考えられる。しかし、日本でもアクセラレーターは育ちつつあるし、公的なスタートアップ支援は既にかなりある。むしろ、公的資金をスタートアップ企業に提供する際には、収益を上げることでのきない企業を退出させる強いメカニズムの構築が求められる。

最近は、多くのベンチャー企業が立ち上がり新規株式公開（IPO）も増えている。それでもまだまだ起業をためらう若者が多い大きな理由は、資金調達が難しいことよりも、むしろ将来の安定性に対する不安があるからだ。

この点からすると、政策的に考へるべきは、事業に失敗した人が過度の不利益を被らないようとするための社会制度だ。法制度や資金提供者側への規制、倒産に伴う社会的評判の低下などを含めて、トータルにこの点を見直していく必要があるだろう。

シリコンバレーの強さの一つに、会社を倒産させたかどうかという点以外の評価軸があり、倒産させたけれども優秀だという評価が周りで成り立ち得る点が挙げられる。つまりここでも人的ネットワークが重要な役割を果たしており、こうした客観情報以外の情報や評価が活用され得るようにネットワー

クを充実させていくことも求められよう。

ただ、そうはいつても、何度も失敗できる社会制度を導入することは容易でない。我が国における次善の策としては、大企業からの積極的なベンチャー企業への支援や、大企業出身者によるベンチャー企業の立ち上げなど、大企業との良い形での連携に期待する面も大きいと考えられる。その際には、兼業や出向を積極的に認めるようにする必要があり、この点における制度改革などを考えていくことも必要になるだろう。極端にいえば、大企業に所属しつつ兼業で起業するような活動を促進させる対策があつてもよいかもしない。

いずれにせよ技術変化のスピードはかなり急であり、制度変革は喫緊の課題である。

## 格差を考える

戦後日本 富の集中度低く

「平等社会」成長に課題  
最適バランス求め議論を

一橋大学教授

スタンフォード大学客員教授

森口 千晶



「成長と格差」の問題は経済学の重要なテーマだ。成長は貧富の差を生み出すのか。持続的な成長はやがて格差を縮小させるのか。富の蓄積は革新の推進力か。それとも富の偏在は逆に成長を阻むのか。研究上の困難は理論を検証するための長期的データがないことだった。例えば所得の不平等を示すジニ係数の算出に必要な大規模家計調査が始まつたのは、先進国でも 1960 年代にすぎない。

そこに新風を吹き込んだのがトマ・ピケティ氏（パリ経済学校教授）である。彼は理論家でありながら、税務統計と国民所得計算から所得占有率という格差の指標を推計する方法を編み出し、自らフランスの歴史統計を駆使して新たな事実を明らかにした。

この方法は瞬く間に世界の研究者に広がり、現在では新興国を含む 30カ国について同様の指標が推計されデータベースとして公開されている。同氏の革新的な手法によって富裕層

に初めて分析の光が当たり、「成長と格差」の研究は各国の長期統計を基礎とする実証研究へと大きく展開した。

\* \* \* \*

本稿では、筆者がカリフオルニア大学バークレー校のエマニュエル・サエズ教授とともに、行つてきた日本の分析結果を最新の推計を含めて紹介し、わが国における格差の長期的な変遷を明らかにする。

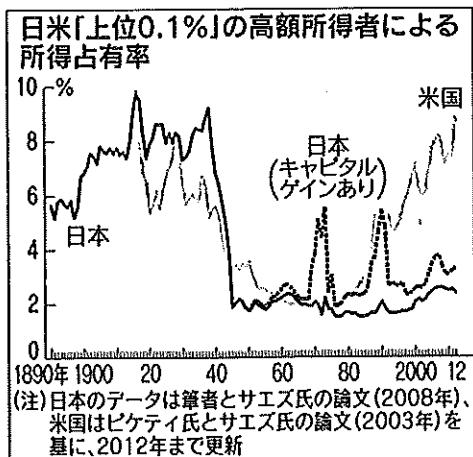
日本のデータは以下の点で注目に値する。まず、明治政府は欧米に先駆けて1887年に所得税を導入したため、125年にわたる、どの国よりも長い時系列データが得られる。さらに、19世紀中葉には産業革命が進展していくいた歐米とは異なり、近代成長の全過程がこのデータ期間に含まれる。日本は、欧米各国が1世紀半かかった産業化のプロセスをその倍のスピード

で駆け抜けた。このような急激な成長は、所得や富の集中を伴つたのだろうか。

そこで、成人人口の上位0・1%の高額所得者を「超富裕層」と呼び、彼らの所得が総個人所得の何%を占めるかを示す「上位0・1%シア」について、1890年から2012年までの推移をみよう。ここで所得とは課税および公的移転前の市場所得を指す。株や不動産の売買から得られるキャピタルゲインは、実現時のみの一時的な所得で取得者の変動も激しいため通常は除くが、図にはそれを含めた系列も示す。ただし、戦前は譲渡益が非課税だったため、データがない。

キャピタルゲインを除いた系列をみると、産業化初期の急成長期（1890～1938年）に超富裕層への所得の集中が急激に進み、第2次世界大戦前夜にはシェアが9%を超えたが、戦中に急落し、終戦時には2%にまで激減した。その後、驚異的な成長率を記録した高度成長期

(55～73年)にも超富裕層のシェアは低位で推移し、安定成長期にさらに1・5%まで低下、バブル期の頂点でも終戦時と同じ2%にすぎない。



以上のデータは、日本の高成長は戦前には「格差社会」、戦後には「平等社会」のなかで実現したことを明確に示す。すなわち「格差と成長」の関係は一意的には決まらない。これは驚くべき事実だが、日本の経済システムは戦前と戦後で全く異なるものだつたとする多くの先行研究と優れて整合的である。

明治・大正期の経済発展のダイナミズムは、  
①資産家（商工業者・地主）による財閥系大企業への資本投下②企業から大株主への高配当による利潤還元と、高額の重役報酬③資産家による富の蓄積とその再投資——にあつた。

それでは、何が戦前から戦後への劇的な変化をもたらしたのか。1938年に始まった軍事統制は、直接生産に従事する農民・労働者を保護する一方で、資本所得（地代・配当・利子）と重役報酬に厳しい制限を加え、さらにインフレと都市部の空襲が資産を破壊し、超富裕層の所得に大打撃を与えたのである。

だが、上位所得シェアはなぜ戦時ショックからすぐに回復しなかったのか。その理由は占領期の民主改革とその後の制度変化にある。土地・

改革・財閥解体・臨時財産税は大規模な土地・株式・家計資産の再配分をもたらし、富そのものの集中を解消し、長期的に資本所得を平準化した。さらに、戦時の高度に累進的な所得税・

相続税がそのまま制度化されたことは、富の再集中を困難にした。また、教育改革と労働法改革は、人的資本と労使関係を平等化した。

このような制度的基礎の上に花開いたのが、高度成長期の「日本型企業システム」である。そこでは、個人資産家に代わり系列企業とメー

ンバンクが株式を保有し、オーナー経営者は内部昇進によるサラリーマン経営者に置き換わった。従業員も企業別組合を結成して企業統治に参加し、戦前に比べて配当・重役報酬が大きく低下した。

ブルーカラー社員にも人的資本投資を行い、

ボトムアップの生産性向上を目指す日本型人事管理は、高度成長期から安定成長期までの「格差なき成長」の原動力となつた。

しかし、キャッチアップの時代が終わり、バ

ブル崩壊後、日本は新たなシステムを求めて長い模索期に入つた。90年代以降、非正規雇用の増大など低位所得層の拡大がみられるが、日本でも米国のように所得分布の「二極化」が進んでいるのだろうか。図によると、日本の超富裕層のシェアは90年代半ばから上昇に転じ2008年に戦後最高値を記録したが、それでも2・6%であり、リーマン・ショック後は低下傾向にある。

これに対して米国では、80年代からシェアが急伸し2012年には実に8・8%に達している。同年の日本での超富裕層の平均所得は約5500万円だが、米国ではその7倍の3億8000万円だ。

キャピタルゲインを含めた系列もみておく

と、日本では物価高騰期やバブル期には一時的に超富裕層のシェアが5%を超えていたが、1年時点のシェアは3・3%にとどまっている。

今後のデータで「アペノミクス」の影響を注視する必要はあるが、その他のデータも総合すると、日本の上位所得シェアは歴史的にも国際的にも依然として低い水準にあり、ピケティ氏が警告する「富裕層のさらなる富裕化」が起こっているようには見えない。

\* \* \*

それでは、成長を高めるために日本は上位所得における格差を容認すべきだろうか。

高度成長期に日本が作り上げたシステムは個人の卓越した才能よりもチームワークを重視し、トップダウンよりもボトムアップの革新を奨励するシステムであり、多くのメンバーから高い意欲と生産性を引き出すのに優れてい

る。その半面、傑出した個人に十分な誘因や報酬を与えないため、労働市場がグローバル化すれば才能の流出を招く。

例えば、プロ野球のダルビッシュ有投手の打球移籍は、日本の格差を縮小し米国の格差を拡大したが、もし「平等社会」の背後に人材の流出があるとすれば、社会の活力が失われる危険が大きい。

他方、米国のシステムは、競争を勝ち抜いた個人に大きな報酬を与えるスター・システムであり、シリコンバレーの起業家にみると、創造力や独創性の育成に威力を發揮する一方で、残された大多数を顧みない。また、米国の超富裕層の6割を占める大企業経営者は多くは、才能と努力ではなく幸運によって巨額の報酬を得ているという分析もあり、留意が必要だ。  
21世紀の日本はどうちらのシステムを選択するのか。あるいは試行錯誤のなかで新たなシステムを編み出すのか。私たちは「成長と格差」

の最適なバランスを求めて真撃な議論を重ね  
ていく必要がある。

もりぐち・ちあき京大卒、スタンフォード大  
博士（経済学）。専門は比較経済史

千林 口 千 日 晶



圖

作品 関根常雄

## 南シナ深海狙う中国軍原潜

本丸

中国は、南沙諸島で七つの岩礁を事実上支配し、昨年1月頃から埋め立てを始めた。

哨戒開始へ・SLBM米射程に

最大規模の人工島は、ファイアリー・クロス礁だ。3000kg級の滑走路を建設中で、米国防総省は2017～18年には完成すると見ている。

読売新聞社記者  
福元 竜哉

広大な南シナ海に3000kg級滑走路を持つ意味は大きい。港湾、燃料貯蔵施設と合わせて運用することで、戦闘機や爆撃機の展開・補給拠点になるためだ。

中国が南シナ海・スプラトリー（南沙）諸島で、岩礁埋め立てを加速させ、米国や周辺国との緊張が高まっている。人工島の軍事基地化による中国の実効支配拡大は、日本を取り巻く安全保障環境にどのような変化をもたらすのだろうか。「本丸」と言える。

中国が南シナ海・スプラトリー（南沙）諸島で、岩礁埋め立てを加速させ、米国や周辺国との緊張が高まっている。人工島の軍事基地化による中国の実効支配拡大は、日本を取り巻く安全保障環境にどのような変化をもたらすのだろうか。「本丸」と言える。

国際社会には、人工島を拠点にした防空識別圏（A D I Z）設定への懸念も広がっている。中国は南シナ海で、北からU字形の領有範囲を主張している。防衛省内には「いずれ中国が主張する領有範囲に沿ってA D I Zを設け、東シナ海同様、他国のすべての航空機に指示に従うよう求めてくる」との見方が出ている。

### 聖域化

中国が南シナ海を重視するのは、日本同様、中国にとつても大事なシーレーン（海上交通路）で、天然ガスなど資源確保の思惑もあることに加え、地形的な理由がある。

南シナ海の特徴は「深さ」だ。東シナ海が沖縄トラフまで水深約200mと浅いのに対し、

南シナ海は地形が複雑で、深いところは約400mあるとされる。海洋作戦で欠かせない潜水艦にとって、敵から逃げるための「行動の自由度」が高まる。

元海将の金田秀昭・岡崎研究所理事は、「出

撃した潜水艦は、短時間で深海に潜れる。南シナ海は『聖域』にする地勢的条件が整っている」と指摘する。

深い海域では、音がまっすぐ伝わりやすく、敵に探知されやすいというデメリットもある。米軍は南シナ海で、哨戒機などによる中国原潜の探知活動を行っている。このため中国は、南シナ海の制空権を握り、米軍への妨害を強める狙いもあるとみられる。

安全保障の専門家らの間で、中国の「隠された狙い」として指摘されるのが、将来、核戦力である戦略弾道ミサイル搭載の原子力潜水艦（S S B N）を南シナ海から太平洋などに進出させることだ。

中国は、海南島・三亜の地下基地に、潜水艦発射弾道ミサイル（S L B M）「J L 2（巨浪2）」を搭載した「晋」型原潜を「少なくとも2隻」（金田氏）配備しているとされる。米政府は、同原潜が初の哨戒活動を年内に始める可

能性が高いと分析している。

JL2の射程は現時点で7000キロ程度とされ、南シナ海から撃つても米本土到達は無理だ。だが、パシース海峡を抜け、太平洋中部北極圏に近いオホーツク海やベーリング海周辺に展開すれば、米本土の東海岸まで射程に入る。

香田洋二・元自衛艦隊司令官は、「中国は、米本土への核攻撃を複数の方向から相当自由にできることになる。容認できない米国は、中国のSSBNを、南シナ海という『鳥かご』から出さないようにする。そのせめぎ合いだと語る。

新たな日米防衛協力の指針（ガイドライン）には、南シナ海情勢も念頭に、共同ISR（情報収集・警戒監視、偵察）活動が盛り込まれたが、具体策の検討はこれからだ。

自衛隊が協力する場合、哨戒機などの増強が欠かせない。政府は、安保法制の範囲内で協力策を探ると同時に、周辺国と連携を強め、中国に自制を働きかける必要がある。

## 日本 対応策の検討急務

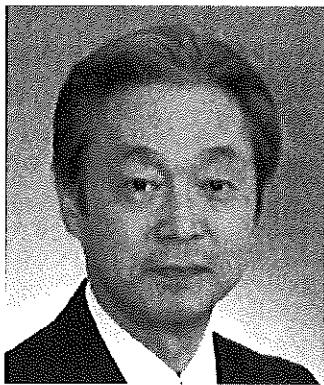
南シナ海が「中国の海」となれば軍事バランスは激変し、日本の安保環境が悪化するのは必至だ。

2015年

## 内外経済を展望する

三菱UFJリサーチ＆コンサルティング

経済評論家 五十嵐 敬喜



五十嵐氏　日本の景気自体は、先ほど申し上げたように消費税を先送りしているので消費税が2%上がつて、昨年の物価上昇率は小さくなるので、結果的に景気にはプラスなのです。しかし景気が去年に比べて少しよくなつたときに、黒田さんが言うように、物価上昇率が2%に近づいていくかどうかそこが問題です。日銀は近づくと言つているし、我々民間は近づかないと見ていています。特に私の研究所では1%にも行かないとみています。1・5といつたら、2%には届いてはないけど、まあ近づいてきたのではないかということですが、1%にすら届かないということになつたら、それは約束が違うだらうと、約束が違うというよりは、こうなつたら物価が上がると言つていたその考え方が間違つてゐるのではないかと、そういうように思わ

れるとよろしくありません。

○会員発言 私、一般社団法人の日本中小企

業団体連盟の専務を務めさせていただいて  
おります。私は、昭和経済会とは非常に古い  
ご縁で、佐々木理事長とのご厚誼を得て三十  
数年になります。

昭和経済会は歴史と伝統を誇る公益社団  
法人として今日まで広く公益活動を行つて  
きて常々畏敬の念を持つております。非常に  
古い団体です。今日の有意義な講演の会とそ  
の後の懇親の会もそうですが、普段懸命に事  
業活動に挺身されている会員の方々にとつ  
ては、とかく忘れがちな勉学の機会を得て切  
磋琢磨してさらに活躍の場を広げていくこ  
とが出来るわけでありまして、伝統の昭和経  
済会ならではの活動ぶりに感銘を覚えてい  
るところであります。皆様のますますの御繁

栄と御健勝を祈念し、なお昭和経済会のます  
ますの御発展を祈念いたし乾杯をとらせて  
いただきます。乾杯。

○会員発言 五十嵐先生、分かりやすい解説  
と有意義なお話を聞くことが出来有難うござ  
いました。私は長いこと、人間教育、人材  
育成を仕事としてきていて経済に疎いもの  
ですが、今日の先生のお話は非常に明快でわ  
かりやすく、納得しました。

実は私は昭和経済会の会員としては非常  
に古く四十七年のおつき合いになります。私  
現在八十六歳になります。おかげさまで健康  
に恵まれ今、人生最後の夢にかけて、あるグ  
ローバルな事業を手がけております。今年か  
らそれが本格化する予定の中で動いていま  
す。結論から言いますと、政府とかいうもの  
は、全然頼りになりません。自分の身は自分

で守る以外にありません。まず企業、それから個人ですね。一般でいう個人主義ではあります。

自分が幸せにならないと人を幸せにできません。自分が幸せにならないと人を幸せにできません。そうした意味では生き方として、まず自分自身を守ると同時に、あとゆとりがあつたら色々な方にお役に立つていただくようになりますことは大事なのだと思います。今まで、どうなのでしょうか。政府がそういうことを決めたのか、経産省あたりでお役人さんがそういうことを教えたのか。先生の発言力で何とかならないものですか。今のお話を聞いていたら、全くそのとおりだと思い100%納得しましたので。だからそういう力のある方が国を変えていかないと、国民は大変じゃないですか。安倍さんたちはお金持ちですから、貧乏人の気持ちはわからないでしよう、そこが問題なのだと思いますが、先

生のお考え、お力をかりしたいのですが、いかがでしょうか。

○五十嵐氏 私にそんな力ないのですが、ただ私がこういう場で、今日はそこまで行きませんでしたが、いつも必ず申し上げているのは、政府を当てにしても無駄だと云うことありますう。

○会場発言 本当にそうだと思います。

○五十嵐氏 アベノミクスのおかげで株式相場が動いて、我が社にとつていい風が吹いていると思われるのであれば御同慶の至りですが、まだ恩恵が及んでないという方にとつては、これからも良い風が来ないというふうに思つておかないといけません。当てにしていると、当てが外れることがあるかもしれません。そういう意味で、自力で何とかすべきというのが、一応私がいつも申し上げていることです。

○司会 今日御出席の会員、各それぞれの方なんかで金融関係の方もいらっしゃいました、多分、五十嵐先生にもいろいろとすばりお聞きになりたいこととかあるのではないかと思います。

○会員発言 五十嵐先生、今日のお話、本当にありがとうございました。私たちはお客様からお金を預かっている商売の者ですけど、今、現実起きていることを言うと、半年前、一年前は、これだけドルが上がったのだからもう売ろうというお客さんが多かつたのですね。つい最近は、ドルが余りそだからドルをまた買おうとか、ドルが足りないという法人さんが増えてきているというのが現状です。まさしく先生がおっしゃった思惑という分ですけど、今後の思惑というのはどこへ辺まで行くのか。為替関係だと、私たちから見ると、もう政府とか日銀が簡単には操作で

きないような動きになってしまつてゐるような懸念がいたします。大きづばで今後の見通しみたいなものを教えていただければ幸いです。

○五十嵐氏 思惑のことですからわからぬのですけが、大きな方向としては、まだもう少しドル高、円安に行くのだろうなという感じはします。思惑が今、一生懸命に注目しているのはアメリカです。アメリカの景気がよくなつてきて、今までアメリカもお金を供給するという政策を続けてきて先月で終りました。今年はいいよ利上げだと。アメリカが利上げして、日本は金融緩和を続けますから、日米間で金融政策に差が出てきます。この差はドル高の理由だと言われていたので、そこまではみんなわかっています。

問題はいつ利上げするのか、どれぐらい上げるのかというところについては、まだ意見

が割れています。例えば年の半ばぐらいに利上げするというのが大方の見方だとしたとき、いや、春先に上がるかもしれないということになると、これはちょっと見方が変わることです。従つて思惑を刺激してドル高になる。年央だと思っていたのが、いや秋とか、いや昨年はない、再今年に延ばされるとかいうことになつたらドル安になるとか、こんな動きなのかもしれません。結果としては、そういう意味で、少しドルが今よりは強くなるということが言えるかなと思うのです。

それからもう一つは、GPIFという年金の運用が外債の比率、海外の金融資産の比率を高めるということですから、そうすると円を売つてドルを買わないと、そういうことができないので、そのことも何かドルを上げる、円安を維持する力になるのかなという感じがします。なかなか円高というシナリオは考

えづらいですね。

○会員発言 私も金融関係のほうに勤めておりまして、特に今回の日銀の追加決定の部分で、私どもは非常にそういうニュース等々で動く思惑のほうに神経を使う職業なもので、今日の先生のお話を聞きまして、実際の日銀の量的緩和について、このまま継続していくても景気に効果がないという考え方があるのだなということを、改めて勉強になりました。

特に米国経済のほうを非常に重視して見ていくのです。アメリカの場合はこういったQEの効果が資金の供給量をこれから減らしていくと、それだけ景気が回復基調に入ってきたと見てているのですが、日本も同じような量的供給について、従来の国債の買い入れをしていても、アメリカと同じような動きにならないというか、今、先生のお話で、株は

上がっているが、ドルは逆にドル高という形に今なっている中なので、こことの違いといふのはどういう違いがあるのかなという疑問があります。あと、ヨーロッパに関しては、これから景気が減速するということで、ドライバー総裁などはこれからまた国債の買い入れをやるのではないかという報道がされています。先生はその辺の、歐州の動向という部分を少しお聞かせていただければ幸いです。

○五十嵐氏　今の御質問の趣旨で、私なりに捉えますと、日本はお金の供給をふやすといふことで円安になつたのです。アメリカも同じようにお金の供給を随分ふやした割には、円安どころかドル高じやないかということですね。これこそがまさに私が言う思惑で、お金の供給をふやせばお金の価値が下がるというのだから、日本でも円安、アメリカではドル安になるはずです。ところがそうな

らなかつたというのは、お金の供給をふやすということとは、実は本当は関係ないのです。ただ思惑を刺激するかどうかです。アメリカの場合は、お金の供給をふやすという政策をとることが、金利を下げるとかいうことを通じてアメリカの景気を持ち上げる。アメリカの景気がよくなるならドル高だと、アメリカの景気がよくなるならアメリカの株価も上がるし、株価が上がるならドル高だと、こういうような受けとめ方だったと思うのです。日本の場合は逆に、デフレ回避のためにこの大胆な金融緩和をするわけだから、大量のお金の供給というのは、やっぱり円高だから、デフレだという人が多いわけなので、そういう意味では、この供給をふやすということは円安にすることにつながるんだと、こういう理屈が勝つたというだけです。いずれにしろ思惑を刺激するということなのだと思いますの

です。

おっしゃったように、アメリカの景気は多く、少しずつですが着実に、これからもよくなっています。その意味からすると、ドルは上がりやすいし、アメリカの株価がそんな急激ではないにしろゆつくりまだ上がつてくということは、日本の株式を引っ張つてくれるということからすると、今年（2015年）は、今よりは日本の株価ももう少し高くなる、為替はもう少し円安になるというような、一応そんなシナリオが描けるのかなと思っています。

欧洲につきましては、欧洲はやっぱり景気が悪くて、もともとが債務問題というのがある、財政赤字が大きな理由になっています。さかのばれば、アメリカの不動産、住宅バブルのさなかにつくられたサブプライムローンを種にした怪しげな証券というものを大

量に買つたのが欧洲でした。これが暴落することによって大きな損が出てしまいました。景気が大変なことになると黙って、財政からふんだんに金を出してともかく景気を支えたということが、欧洲で財政赤字が一気に膨らんでしまったという問題につながったのです。

欧洲としては、ユーロで仲間を組んだときに、仲間入りする人たちに必ず条件がありました。借金の残高がGDPの60%以内だという、こういう約束でユーロをつくったのです。今、守れている国は一つもない。一番優秀なドイツでもはるかに上回つて80%、90%とか言つていますので、借金の残高の比率を60%以内にするという一応の旗はおろすわけにいきません。そうすると、財政はできるだけ赤字を減らすこと。そのため歳出を切り詰めるし、必要な増税はするという、

ともかく財政から景気を刺激することはできない、非常にやりにくいという状況です。そうしたときに、景気が悪くなつたらどうするのだということです。もう金融政策しかないわけです。デフレ先進国の日本は量的緩和をやつて、一応金融の世界ではよくやつてあるという評価を受けています。だったら欧洲だつてそのうち日本の後追いをするのではないかということで、何らかの形で量的な金融緩和をやつてくると思います。

ただし、欧洲の問題は、国債を買うというときに、どの国債を買うのかということです。国ごとに国債を発行しているし、ドイツの国債だけ買うというわけにはいきません。その意味からすると、実際にどういうやり方でもってお金の供給をふやすかということが、すごく悩ましいのですが、とはいえてくるのではないでしょうが。そうすると、欧洲が

いよいよ一段の金融緩和をするということは、ユーロ安になるということです。思惑はユーロ安です。だから、すぐではないが、今年（2015年）のどこかで欧洲が追加緩和をするということが行われそうだとか、行われたということになると、ユーロが今よりも安くなるということではないでしょうか。

○会員発言　五十嵐先生　大変ためになるお話を、ありがとうございました。今回のお話、思惑が経済を動かすというお話として、大変興味深いお話をでした。

今回、年末から今年にかけて、アベノミクスというのは非常に株価とか、そういうものを意識した景気回復だと思います。脱デフレというのを掲げて、株高、そして円安というような方向に向かっていくとは大体のシナリオです。そういった中で、国が思惑をいかにどのようにして刺激して、これから先動

かしていくのかなという、その辺について教えていただきたいと思います。

○五十嵐氏 私の見方は、国や中央銀行が思惑を左右するような政策をとつてはいけないと思います。さつき申し上げた、マーケットには投機的な需要と実需があると申し上げました。実需を動かして円安にするとか株高にするというのならないと思いますが、中身が伴わない、思惑でもって、ともかく株が上がればいい、為替が円安に行けばいいといいうのが、これまでとられてきた政策ではないかと思うのです。それではだめだと思うのです。

ところがお金の供給がふえるから、銘柄なんか関係なく、ともかく株価が上がるのだから、輸出企業であれば円安でもう上がるに違いないとかいふうになると、「これはもう明らかに思惑だけの取引になります。」そういう意味では、実需としての株価の上昇を、これからも持続的に続けていくために誰が主役になるかといったら、それはもう企業そのものであります。国の出る幕ではありません。中央銀行の出る幕でもないということです。我々自身がこういう実需としての株高を目

よりあしたというようにだんだん将来収益を拡大させていく、成長の可能性を高めていくことが株価の上昇につながるわけです。この企業の株価といつたら、きっとこの企業、将来もっと成長するから株価も上がるに違いないというのが、やっぱり実需ではないかと思うのです。

そういう意味で、実需として例えば、株価が上がるというのは、個々の銘柄というか、その個々の企業が収益を高めていくと、将来収益の現在価値が今の株価だという理屈からすると、将来の収益を昨日より今日、今日

指していくことが必要ではないでしょうか。

為替については、円高に行つても円安に行つても、必ず利害に反する人たちがいるわけです。為替を動かして何とかしようというのもおかしい話です。さらに言うと、例えばグローバル企業、トヨタもそうですが、グローバル企業が円安で利益を出すというのも考えてみればおかしな話になります。グローバル企業であるなら、ドル建てで見て収益が拡大してこそグローバル企業だと思うのです。そうしたときに円安が起つたらどうなるかといつたら、国内の業績、円ベースの業績は、ドルに直せば円安だつたら縮むわけです。海外のドル建ての商売というのは、円安になつても、それはドル建てであれば関係ないわけです。結局円安が進めば、ドルベースの収益というのはむしろ減つてしまうというこどすらあり得ます。

ただ、例えばトヨタの場合は、販売台数をふやすとか、実態的な部分で業績を上げているので、でき上がりの収益ももちろんいいのですが、単純に為替差益という形で何か業績が向上していくというようなことがあるとすると、それはグローバル企業としては恥ずかしいことではないかなとおもうのです。

そういう意味で、申し上げたいことは、やはり企業自身が自分で何か売り上げ、収益をふやしていくという、この聖域を目指すことをしないと、きっと世の中全体がうまくいかないかなと思つております。

○会員発言 余談を交えてお話しいたしますが、実は最近のテーマとして地方活性化ということがあります。石破さんがその担当大臣に就任したくらいで、そちらの影響も大変重要な課題ではないかなと思つております。私ごとになりますが、富士箱根の十国峠の手

前にスカイラインが走っていて、そのところに白亜の白い六階建てのマンションが建つております。50世帯がリゾートとして使用しております。壯麗な富士山を見事に展望できるリゾートマンションです。マンションの下にベルビューゴルフクラブと御殿場ゴルフクラブの二つのクラブコースがつながっております。ゴルフを趣味とする人にとっては絶好の保養地です。私はたまたま、そこのマンション組合の理事長を一五年間務めてきております。年1回の総会の開催をはじめ、隨時運営に関する会議を開いたりしております。管理費をはじめとして経常の経費はそれなりにかかりますが、改修工事や何かに、相当の予算が計上されることがあります。なかなか優良な入居者であります。滞納者もなければ、そういう補修工事や、改築工事の際の拠出金というものをちゃんと

支払ってくれています。なかなか内容のいいマンションだなど。もちろん各自の所有物になつております。それで、実は過去にも全面改修の際、一億二、三千万の予算を立てました。各自二五〇万ぐらいの拠出 それもばつと出してくださいました。このマンションをみんなが大事に活用しておるようです。

それで、昨年になつて実はエス・イー・シーレベーターさんに、エレベーターの全面改裝をしていただきました。東芝、三菱、日立、エス・イー・シーの四社が参加されまして、管理組合としての総会決議で、衆議に諮り決議したところ、エス・イー・シーエレベーターに受けさせていただきました。同社は古くからの昭和経済会の会員ですが、今日副社長の高橋さんがお見えになつてます。講師の五十嵐先生の話にも出てきましたが、実物経済の実態、即ちエレベーターの需給関係にもか

かわり、商売の成り行きいかんによつては、五十嵐先生がご指摘の実体経済に及ぶものと思ひます。一言、業界の状況などを説明していただきます。

○会員発言 皆さん、今晚わ。私、エス・イー・シー・エレベーターの高橋と申します。本日は、五十嵐先生、貴重なお話、ありがとうございました。

私、エレベーターの事業と実体経済のほうと、どのようにリンクするかということは非常に難しいのですが、現在、エレベーターの市場がどういうものであるかということでお話をさせていただきます。

全国にエレベーターは、エスカレーターも含めまして約七〇万台ございます。その10%が毎年エレベーターの更新時期に突入しております。もともとこのエレベーター業界といいますのは、大手の五大メーカーさん、

三菱さんであるとか日立、東芝、日本オーチス・エレベータ、フジテック、この五大メーカーがほぼ日本のシェアの大半を占めております。また、三菱さんのお話で恐縮なのでですが、今から四十五年前に、うちのオーナー、創業者が三菱電機ビルテクノサービスのエンジニア上がりでございました。そして当時のエレベーター業界といいますのは、親会社が製作したものは自動的にグループ会社がメンテナンスをすると、こういうような仕組みになつております。日立製作所がつくつたものは当然日立ビルシステムがメンテナンスするということ、これが当たり前のようになります。これまで世間で受け入れられておりました。これがある時期に至つて、そういう仕組みに風穴をあけましたが、私たちのエス・イー・シー・エレベーターの創業者の鈴木孝夫でございます。当時、エレベーターの保守料

金の余りの高さに違和感を持つていました。月々の保守メンテナンス料が、契約形態にもよりますが、高いところで十万前後でした。月1回、技術員が現場に行ってメンテナンスをするだけで10万円、これが相場でございました。それを何とか適正価格にということです独立し事業化にござりました。今、全国で約4万台のエレベーターを管理させていただいております。エレベーターのリニューアルが月に大体25件ほど受注し、今はエレベーターの改修事業もやらせていただいております。安ければいいということでもございません。安からう、悪からうということではなくて、メーカーさんが今までやってこられたこと、これと同じことをやって、同じ土壤において、それでは幾らになるのだ、どちらの金額が相場なのかという問題になります。

そこで私どもは、ありとあらゆるメーカーのエレベーターを管理させていただいておりますので、そのメーカーさんの長所、短所ということは誰よりもよく知っているわけであります。そしてそのいい部分を見習つて切磋琢磨の仕事をさせていただいております。自社開発した製品にそいつた設計思想を取り入れていき、そして高品質、低価格のエレベーターというものを自社開発しまして、今、広く皆様に支持をいたしております。このたび佐々木理事長様にもお世話をいただき、マンションのほうもつい先日完了、お引き渡しをさせていただきました。非常に乗り心地がよくなり、スマーズな上りおりするということで皆様からご好評をいただいております。

そして時代も変わりますと、当然企業も変わらなければなりません。そうしたときに、

その時世に合ったエレベーターの価格といふものが、どういふものなのかということもやはり企業努力をしながら、お客様のニーズに合わせて喜ばれる結果を出していかなければなりません。そして最終的には皆さんの資産をお守りするお手伝いが、どれぐらいできるのか、ということにもなるのだと思ひます。多くのお客様に喜んでいただける企業かどうか、これはずっと続いていく、これから永遠のテーマであります。いかに相場を下げていくか、そして高品質なものを世に送り出していくか、といふことが、一番大事だと思ひます。やはり誠心誠意、安全第一、信用第一が私どもの商売の原点でございます。

また、今後いろいろな大きな激変するような経済情勢がまた起ころり得るかもわかりません。稚拙な質問でございますが、今、原油価格がどんどんどんどん急落しております。

す。産油国、OPECの盟主であるサウジアラビア、そしてアメリカ合衆国の対応にも激しいものがあります。これはシェールガスの革命で相場がどんどん下がっているということです。でも背後では、サウジアラビアとアメリカは多分裏で連携していると思えるのです。これは対イラン、対ロシアに対しても思うのです。そしてこの原油価格の暴落が、日本にどのような影響を及ぼすのか。

そしてまた、今、世界第二の経済力をつけてきた中国の台頭です。中国も今盛んに資源をあさっています。やはりあれだけの巨大な人口を抱えておりますから、経済力に物を言わせて、また軍事力を背景に、今、南シナ海であるとか東シナ海の非常に、サンゴ礁の島を蹴散らしたり、非常に懸念される事態がございます。シーレーン防衛とか、いろいろそ

の海上輸送ルートの確保と、そして今後の原油の価格の暴落がどのように経済に影響しているのかということを、私の簡単な説明とともに、先生に御質問させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○五十嵐氏　いきなりすぐ難しい質問をいただきましたが、原油価格の下落というのには、例えば日本みたいに輸入している国にとってはもう間違いないプラスです。さつきも申し上げたように、私の考えは、円安になつて、輸入物価が上がつて、おかげで国内物価にまで波及してくることはもうマイナスだということです。国内の所得が奪われてしまふということだからです。

原油価格が下がることによつて物価を落ちつかせる効果もあります。今、円安と原油価格とどっちが大きいかというと、原油価格の下落のほうが大きいのです。したがつて、

物価はおかげで落ちついています。日銀はデフレ脱却を目指しているから、それはちよつと実は困つたことだと思つてゐるみたいですが、そんなことはなくて、我々にとつてもう間違いないことが起つています。株価が上がり、円安に行つたら、円安のマイナス効果があるのだけど、円安のマイナス効果は、原油価格が消してくれて、株価の上昇だとか、あるいは円安で輸出企業が潤うといふところはプラスになるということなので、随分いい形だなと思つています。中国にとりましても、今や輸入国ですから、やっぱり価格が下がるというのはいいことだと思うのです。

問題は、これは輸出国にとつては収入が減るということを意味しているので、例えば今、ロシアが相当苦しいことになつてゐるので、ロシアが苦しくなるとロシアの輸入が減

ります。ロシアの輸入が減ると、欧洲の輸出

が減るということです。欧洲の景気が悪い一端は、原油価格が下がって、そのことは欧洲にはプラスだけど、でもロシア向けの輸出が伸びないので、これが例えばリーダーのドイツの景気を悪くするとか、こんなことにつながっているのです。

さらに言うと、原油価格がもつと下がっていくと、財政の収入のほとんどを原油に頼っているような国にとっては、今まで大盤振る舞いしていたことができなくなります。そのことが社会不安につながっていったりするのです。いわゆる地政学的リスクというのか、経済だけで論じ切れない、何か社会が不安定になることで、そのことが何かほかの国々にも悪影響を及ぼすようなことになつてくると、ちよつと具合が悪いので、この辺でとまつてくれるのが一番いいのではないかと思

っています。

となる可能性は十分にあります。このところの下げというのは、夏ごろに120とか言つていたのが、80になるような猛烈な下げが起こっているわけで、これはもう明らかに投機です。アメリカでシェールガスが出てきて、シェールガスが採算とれないぐらい下げてやつたらシェールガスの開発がとまるから、実はそれやつているのだと、サウジなんかは、もつともつと安くても耐えられるから、そういう意味で、アメリカを始めとするシェールガスの開発をとめてやろうという話があるのだとかまことしやかに言われて、それは本当かもしれません。そういう話を言つて、一緒になつてもつと原油を売ろうやといふような、こんなことをやつている投機家たちも結構います。そうすると、この人たちはもう先物をどんどん売つて、最後は買い戻して

もうけようとしているわけです。買い戻すと  
きに、逆に売ってくれる人が必要です。だか  
ら今よりさらに下がったところで、なお売ろ  
うという人から買い戻してもうけを確定し  
たいですから、話としてはまだまだ下が  
るよということを作りたがっているのでは  
ないかなと思うのです。

そういう意味で、そろそろ終わるのではな  
いかと思います。でもまた100ドルを超え  
ていくような、そんな戻りをするかというと  
ちよつと考えにくいので、結構この辺で、こ  
れ以上は行かないかもしぬないけど、低目の  
水準でいくから、輸入国にとつては大変ハッ  
ピーナ話ではないかなと思つております。

○司会 そうしましたら、話の流れで、オイ  
ルの世界市場に精通されている、元サウディ  
石油社長を務められました佐々木様に一言  
コメントをいただきたいと思います。

○会員発言 かなり前にサウディ石油化学、  
これはナショナルプロジェクトで、サウジの  
当時の石油採掘権の延長を何とか実現した  
いという経産省、あるいはエネルギー庁の強  
い要望によって、一時期そういう活動もさせ  
ていただきました。

当時、原油価格は1バーレル10ドルと、  
とてもない安い時期でありまして、これは、  
今お話しのサウジアラビアにとつては、どん  
なに頑張っても收支バランスが赤字に転落  
する。何とかこれを改善したいという時期が  
結構続きました。

そんな中で、国の政策は、アラ石を何とか  
存続させると。国と企業との間の問題は何と  
かいけど、サウジアラビアは頑とし  
て言うことを聞かない。結局いろいろありました  
けれども、それは失敗に終わって、アラ  
ビア石油は探掘権の延長に成功しなかつた

わけですが、当時からサウジアラビアは、自分たちの埋蔵量は世界最大で、1,000万バレル以上はできるよと、こういうことだつたわけですけれど、当時10ドルでひいひい言つてた。それがだんだんOPECの盟主として活動したお金で、

それが20ドルになり、30ドルになり、50ドルになり、70ドルになり、70ドルというレベルは、サウジにとつては非常に大き過ぎるのですね。高過ぎるのです。シェールオイル問題が出てくる。これは余りにもインセンティブを上げ過ぎると、こういう評価はずつと持つておりました。

次号に続く



作品 関根常雄

## わが回想記

案内してくれた図書館長がいった。

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

「いまカードをボックスにもどす作業をして  
います」

「カードのプロレタリア的整理方法とやらが  
ありますか」

と私が聞いたら、

「いや、元と同じにもどしているだけです」

図書館の玄関前に立ちながら、こんな問答を交わした眼の前にそびえていたのが、文革中に建てられたこの巨像であった。

北京大学は中国共産党の成立、変遷と不可分にかかわり合っている。一九一七年に同大学文科科長であつた陳獨秀が二一年の中国共産党成立大会で中央委員長に選ばれて以来のことだ。

一九八二年八月三日、私は北京大学を訪問して、図書館を見学させてもらった。「文化大革命」の先頭に立つた紅衛兵は文献カードの分類方法がブルジョア的・反動的だ、といってカード・ボックスを引つくりかえしたそだ。

それが文革期に入ると、突然「反党グループ」の巣窟として攻撃的にされた。一九六六年五

月二十五日、大學構内の「大字報」（壁新聞）が学長の陸平らを厳しく糾弾。これを受けて六月二日に『人民日報』が「北京大学大字報に歓呼の声を送る」という評論をのせた。翌三日、北京大学党委員会は改組され、陸平、宋碩らは追放され、北京大学は文革派の手に落ちた。

それ以降はもう研究教育機関としての機能は

実質上停止し、校内は荒れ果てて、大小の毛沢東像が乱立、「反党教授」らが胸に罪状カードをつけて引きまわされる始末となつた。

一九八一年の夏には、中国は文革の恵夢から醒めてはいたが、その否定的な評価がまだ現在ほど確立していなかつた時期だ。図書館の玄関前で、私と同行していた米国帰りの工学部教授が流ちような米語でささやいた。

「いまはもう毛主席像は、これとほかに少ししか残つていません」

「毛沢東像がたくさんあれば、学問の進歩が促進されるというものではありませんね」

と受けたら、彼はにつゝうございました。

それから八年、毛沢東のコンクリート製の偶像が破壊されると、今まで時世は進んだ。

次の段階、マルクス主義の「無過誤性」という「心の偶像」をぬぐい去ることだが、社会主义中国にとっての最大の難関、最終の歴史的課題であろう。

(88. 4. 23)

良心的侵略主義者？の怖さ

奥野国土庁長官の発言（二十一日記者会見）が国際的な波紋をまきおこしている。

「白色人種がアジアを植民地にしていた。だれが侵略国家が。白色人種だ。何が日本が侵略国家か。開国してみたら軍事力強化の立場に迫り、ま

れていた」（「朝日新聞」二十六日）

十九世紀に西欧列強がアジアの大部を植民地・半植民地としていたことは歴史的事実である。そのなかで独立を維持して近代化の途を歩み始めた日本には、「一つの選択肢があつた。孫文は一九一四（大正十三）年に神戸へ立ち寄つて「大アジア主義について」という講演をした。彼は「われわれの説く大アジア主義」とは「王道を基礎とし、不平等を打ちこわすものである」とを強調して、次のように結んだ。

「日本民族はすでに歐米の霸道的文化を手にしているが、アジアの王道的文化の本質をも持つてゐる。今後、西方霸道の番犬となるか、東方王道の牙城となるかは、日本国民自身が選ぶべきである」

すでに中国大陸に利権を「霸道」的に拡大しつつあつた日本に対し、アジア民族解放を目指す国際連帶の「王道の牙城」となることを期待した呼びかけであつた。

日清戦争、日露戦争、韓国併合、対中国三十一  
カ条要求、満州事変、支那事変、太平洋戦争と振りかえつてみれば、日本は孫文の期待に背いて敗戦に至つたといえよう。

その歴史のひとこま、満州事変について、筆者は、関東軍參謀、石原莞爾を思いだす。彼は一九三一（昭和六）年九月十八日の柳條湖における満鉄線路爆破事件の主謀者の一人であつた。これを中国軍の仕業だとして北大営を攻撃、満州国というかいらしい國家を作り上げたのである。

なぜそういうことをしたのか。彼には一つの信念があつた。國難到米を予言した日蓮を信仰していた石原は、やがて訪れる國難「世界最終戦争」を勝ち抜けば日本を中心とする世界平和が訪れるとして考えていたようだ。その準備として満蒙を支配下に置く必要があるという論理で、目的のためには手段を選ばず、謀略工作に走つたのである。一九三六（昭和十一）年、彼が參謀本部課長であつたとき、筆者は朝日新聞記者としてインタビ

ユーレーした。

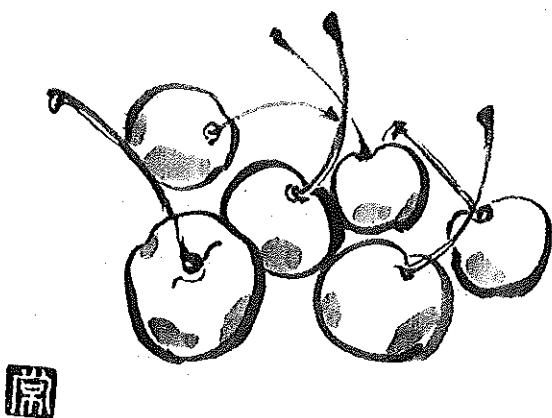
「兵隊は必死になつて演習せんべしといへば必ず戦争に勝てる。民間人も軍隊教練と同様の意氣、ノミで仕事をせよ。連隊は各地の国民道場になる。そこで初めてこの重大時期を大飛躍の段階に導く」とがやでわる……」

ヒューラ調子で、世界最終戦争を前提とした日本「兵部官國家」論を聞かされた。

彼が真剣、誠実、良心的にその時このんぢやないことは、その言動から明らかであつた。しかし、この狂信が日本を侵略戦争に引きずりこんだのである。

奥野国士序長官の発言も、信念に基づいているとのことだが、その信念そのものを客観的に洗い直してやる必要があつた。

(88. 4. 30)



作品 関根常雄

## Nonverbal Communication

「」　岩本  
(米国ジャーナリスト)

目付き、話し方、行動、姿勢などだけでなく、色（服は元より身につけているもの全て）、かたち（ヘアスタイル、めがね）などなど、人が言葉以上にその人（の本性）を伝える、と思う様になった。

私達の生活は、コミュニケーションに始まり、コミュニケーションで終る、と言えるだらう。

若い頃の私は、コミュニケーションのツールは「言葉」と思っていた。ところが年を取る「」と、言葉は確かに重要なツールではあるものの、コミュニケーション（伝達）のほんの一部に過ぎないと思うようになった。言葉以上に言わざして伝えるモノ、つまり

nonverbal（言葉以外）の要素——表情、

心臓外科医だった兄が、「患者が入って来た時に、大体この人はど」が悪いと解ると言うのを聞いて、「え……」と、学生時代の私は半信半疑だった。しかし社会人となつて、ふとしたことがら就職活動に来た人をインター�したことが、目から鱗の体験となり、兄の言葉は本当だった、と気付く事になつた。

私が勤務していたアメリカの大手広報エージェンシー (Ruder&Finn) で、人事部長のローズが、ある日就職希望者のインター�ューを手伝つてくれないと私に言つた。忙し

しくつて手が回らないから助けてくれないか、の打診である。国際部でジャパン・デスクの director をしていた私は、面白い体験と引き受けた。その面接は 2 日後に予定されていて、私はローズからその人の略歴その他の書類を受け取った。しかし読む暇の無いうちには直接となってしまった。

当日の私は、準備せずに試験場に望むようないもやもやした気分を禁じえなかつた。面接に来る人に、彼が一生懸命準備したに違ないレジメに目を通しもしなかつた自分を申し訳なく感じていたからだらう。それで、せめてものつぐないに、誠心誠意込めて面接しなければ、という心境になつていたようだ。

が、私は彼を全身目にして凝視していくに違いない。彼の表情、歩く姿勢、背広やネクタイの色などなどから、彼の性格や好み、自信度といった風なことが伝わってきたので驚いた。人間としての彼の本性の 50% が見えた気がして驚いたわけだ

不思議な体験だったので、面接後しきりに考えることになつた。結論は、私の中に彼に関する予備知識が全く無く、故に頭の中が空っぽだつたから、彼が無意識に伝達していることが速やかに、あるがままに、私の意識の中に入ってきた、としか言いようが無かつた。

以後、時々ローズからの面接依頼を手伝つたが、最初のインタビューでの体験を重視して、渡された履歴書は意図的に読まずに面接することになった。ローズが「この人は、第 2 のキッチンジャーといわれる○○さんの

姪よ」など教えてくれても、その知識をあえて意識の中から消す努力をした様に思う。

#### 和製英語

「最近のニュースは解り難い」と祖母が言つた。

私が留学生する前のことだから、多分50年代のことだつたろう。理由は新聞やラジオ（当時はまだテレビは登場していなかつた）のニュースにカタカナ英語が増えて……だつた。

面接者が、どんな有名校の卒業生か、そうではないか、社会的に名のある家系の人物かどうか・・・などに関係なく、本人自身の意欲や耐え努力する心構えのほどを見極めたく思つてのことだつた。営利重視のビジネス界では、多分に、私のアプローチはマイナス要素が強いかもしれない。

ともかく潜在意識なしで人と接するアプローチで生きてきて時々思うことは、私達は

名詞など要らないな、ということ。何故なら、みな「名詞」を着て歩いている様なものだから。

将来物書きになることを意識していた私の中に、「高齢者が解るよう書く」との指針が誕生したきっかけになつたに違いない祖母との会話だつた。

あれから半世紀、私はその大半を海外生活となり、ビジネスをこなしながら、日本の新聞や雑誌に毎年コラムを執筆する身となつたが、常にこの、自分に課したガイドラインを守る努力をしてきた。カタカナ英語で書いてしまつた方がずっと楽な場合でも、辞書を引いて日本語（漢字）で書く

よう努力してきた。でも近年、そういう私自身が、

「これ、何のコト?」と首を傾げる日本語が増えてきて、日本の高齢者は大変なストレスであろうと懸念する。ストレスはまだ良い方で、「ついていけない」と諦め、世捨て人気分の高齢者も増えているのでは、とやるせない気分にとらわれる。

日本人は「和製英語」が得意な様だ。メーキャップは「メーク」などはその良い例。

また、ちよん切つて平氣で英語として使う。車のタイヤがパンクチュアしたから「遅れました!」と一生懸命「パンクド!」とやつてもアメリカ人には通じない（実話）。

「ブレスト」は胸＝お乳だ。この人達、昨夜大騒ぎの芸者遊びをしたっていうの？！

あまり仰天したので私は「へえ、そうですか？」と言うに留め、彼らが話すにまかせ、その中、彼らの言うブレストはブレインストーミング（頭をつき合わせて喧々諤々アイデアを出して検討）のコトと理解し、ほつとした次第。彼らは私がどうほど仰天したかは知らない。

随分以前のことになるが、電通の幹部が数人打ち合わせにニューヨークにやつて来て、着いた翌朝の私との会合で、開口一番、「RANKOさん、僕たち昨夜は凄い『ブレスト』をやりました」と言った時、私は心底ぎょっとした。

## 昭經俳壇

### 悟風

新涼やつかず離れず雲と歩く

森林浴ＳＬ軋む昭和かな

大太鼓雲がおどろく山開

うたたねの夢に入りくる蟬時雨

百日紅擦り傷残る膝小僧

遠雷のごとく山彦遠花火

青春の流れるごとし天の川

赤蜻蛉群れて夕日に呑まれけり

### 剣太郎

山門を出で蜩の遠ざかる

燕の子挽曳競馬の足太し

滴るや深田久弥の百名山

葛飾や矢切の渡し軸先に鶴

震災の港にあがる初鰐

大獄に散りし人らや凌霞花

大揚羽「解体新書」ここに出づ

H・ドッペル  
フェルト

小塚原首切地蔵や梅雨入りの日

露光る梅雨中休み陽の強さ

京子

叢にくつわ虫啼くかくれんば

葉のひきに雨の空あり枇杷うるる

衣替え去年のにおいナフタリン

新茶、古茶心模様を人知らず

常緑樹新芽の光沢著し

皆やさし子燕の巣仰ぐとき

やまなみは遙けき空に梅雨の雲

風わたる蜜柑の花のかほりして

カタツバタ紫・白で湿地帯

庭師来てすっぽり落す松の芯

追い追はれ梅雨の晴間のつがい蝶

降つて晴れ梅雨の日癖に何着よか

そよ風は波を作りて麦秋や

着て脱いでおしゃれも楽し更衣

美秀

野鶴

紫陽花に雨降る頃の小庭かな

菖蒲湯や今年生れし孫男の子

紫陽花の雨の恋しき夕べとも

斑鳩の塔を遠見に鯉のぼり

仕事場のエアコンきかず猛暑日に

嵯峨野径ゆきて卯の花腐しかな

瓢仙

木の芽煮るにはひや京の馴染み宿

衣更へて喜寿の瘠脛いとほしむ

雪加啼く水路の芦の一ニ尺

菖蒲ふくや峠の川風さわさわと

紫泉

楳若葉石佛薄目して在す

何はともまめに働けいぬふぐり

窓越しの轟りを聞く朝餉かな

転んでも笑つて立てりいぬふぐり

墓と墓つなぎて蜘蛛の糸ひかる

矢車のリズムにのりて歩きけり

枝豆や戦友がうたう黄河の唄

母と子の日焼の鼻の光りおり

卯月野の旅も終りやひとり酒  
雨はれて峠の宿の五月富士

どんぐり

茅葺の軒深くして牡丹かな

田草刈夕餉のたにしどりにけり

さへづりのいつまでつづくひばりかな

田螺ころころ動く籠の中

水芭蕉讚美歌歌ひつ尾瀬をゆく

すげ笠に小雨浸みくる田草取

湯本までよたよた歩き山笑ふ

ゆであげて湯氣と匂えるふきのとう

菖蒲湯に孫と二人のふざけあひ

三郎

宮神輿担げぬ年の三社祭

お神輿の過ぎたるあと神酒所かな

兄おしり老人ホームの青田風

四五日の旅に倦みたる夏野かな

納骨のあと昼餉や青田風

## 太平洋興発株式会社

取締役社長 佐藤幹介

〒111-0011 東京都台東区元浅草二丁目六番七号

電話 ○三一五八三〇一一六〇一  
FAX ○三一五八三〇一一六一三

超安全  
エレベーターの新設・リニューアル工事には  
ダブルフレーキ式等上機  
(業者登録登録第51464598)

SECエレベーター株式会社

代表取締役社長 西村裕志

〒110-0016 東京都台東区台東二丁目一十八一三

SECビル

TEL ○三一五二五六一一七一 (フリーダイヤル)  
FAX ○三一五二五六一一七二

生きる力を育む介護  
だんらんの家

日本介護事業株式会社  
フランチャイズ本部

代表取締役会長

西村公統  
Kiminori Nishimura

本社

〒130-0015

東京都墨田区横網1-2-28

TEL: 03-5608-3636  
nishimura@nihonkaijo.co.jp  
www.danrannoie.com

有限会社 日本橋会計事務所  
税理士法人 日本橋税経センター

税理士 松下敏雄

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町三ノ三ノ六  
人形町ファーストビルB三階

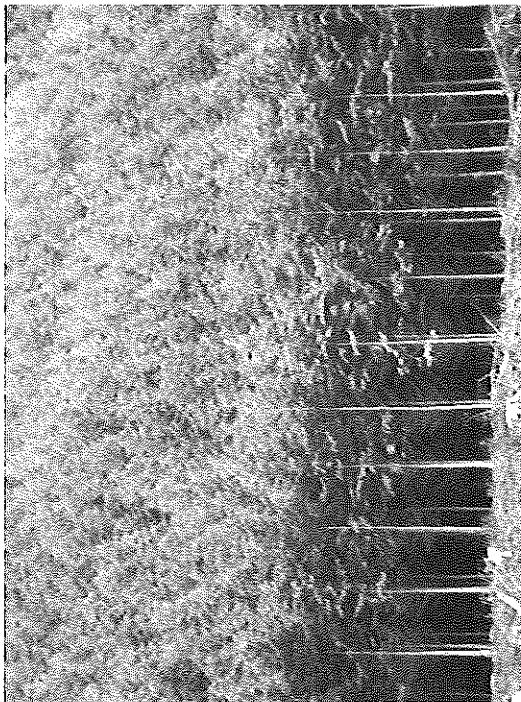
TEL ○三一三六六二一七七〇一

# 徳川の森

徳川の森は1101四年文化庁より

「ふるさと文化財の森」として認定を受けました

「徳川村」は大能林業有限会社の登録商標です



材木・薪のご用命は下記まで  
TEL:0294-72-4571 / FAX:0294-72-4575  
MAIL:mori@tokugawa.gr.jp 担当 石井

大能林業有限会社

代表取締役 徳川賀正

まよ想

あかくこの世を  
おもすへ  
かくすれど  
知るへ  
よきとひらめく  
性とゆきよ  
一日、新聞  
あるへ

飛物道人

飛物道人

まよ想

「書を書かせて日本」、「うたを詠ませて日本」と豪語して、それに異論を唱える人は誰もない。それ程に会津八一の作品は、斯会の巨峰を成すにふさわしく躍如として、もはや他言を要しない。

八一は大正三年九月春、豊川町にある草庵、秋艸堂に、数名ほどの学生を預かり、草庵の前の表札代りに「秋艸堂」なる文字を書き、これを本額としてかけた。

ここに書かれてある八一の学規とは、学問と人生に対する姿勢を説いたものである。根本的思想としては、人間、努力と精進以外に何ものもないと云うことである。そして学問の世界も、実業の世界も同じであり、日々の厳しさに耐え、一流となることである。この学規は学生のみでなく、一般の世人にも広く通用するすぐれた教訓である。

佐々木誠吾

## 後記隨想

佐々木 誠吾

### 庭畑の作業

本から得た知識もなければ、学校で教わった知識でもなく、少年のころから何となく身に付いたもので、大げさな話に聞こえてしまうが一年を通じて、土を耕し肥料を足し、種をまいたりして植物の成長を楽しんできている。趣味と効用を同居させた形で、心身の健康にもなつてゐる。縁と運とタイミングが良かったのだろう、混雜氣味の浅草から今の等々力の場所に念願の住まいを得てから、早や40年がたつ。以来ここを生活の本拠地として、生活の糧を得た生活をしている。大学を卒業した後、いつたいどうような人間として社会生活をしていくのだろうかと、確たる思いも自覚もなかつたが、紆余曲折を経て今の状態である。もとよりやり得なかつたことで残念なことも数えればきりが

ないが、先ほどから外で小鳥がさえずつているよう、氣付かなかつた小生の不平不満を代弁してくれていい気がする。わずかな菜園を通じて近所に、心身共に唯一の友人である三井さんが人生の友として与えられているので、こんな幸せなことはない。今も家内が下で、三井さんのおじちゃんが来てくれたわよと云う声がして下りて行つた。庭の散水機のホースが破れて使えずに困つていたところである。家内は新しく買った方が良いと、租きりに新しい商品を口にしているが、小生は、古くなつているとはいへ、たかがホースがキレた位で買うほどのこともないと思つてゐるのである。そうした折に聞きつけた三井さんが直しに見に来てくれた。下りて庭に出たら既に三井さんが道具持參で散水機のホースの取り付けをしてゐる最中であつた。途中からホースをわずかに切つて散水機の金具の口にはめて、針金がないかと云つてゐるので、家に飛び込んで道具箱を探したところ

幸いにも針金が見つかって、手柄に思いながら、これをおじちゃんに渡すと、これで何とか間に合つたと言われて、何だか学校の先生に褒められた生徒のように嬉しかったのである。

はめたホースの口元をしつかりと結びつける作業を手伝つて、修理が速やかに終了したわけである。ちよつとした満足と嬉しさを心の中でかみしめていた。庭にあるテーブルの椅子に腰かけて、ひと時のお茶を飲んでいた。おじちゃんと話をしている間に、家内が尾山台商店街の甘味店で柏餅を買ってきておじちゃんにおみやげとして差し上げた。柏のおいしそうな匂いがした。おじちゃんの、随分沢山苗を買ってきたねと云う話で、先づ新たにトマト7本とキュウリ2本の苗を買ってきただばかりである。苗を売っているとどろき花苑のばあさんが、これまでずいぶん食べますねと云つていたが、すべてがそうなるわけではない。苗が悪ければ途中で、トマトは正直だから木の先が縮んで生

育が止まってしまう病気があるので、3割は覚悟しなければ駄目なんですねと話してきたばかりである。しかし連作を続けているところした病気が流行つてくることにもなるので注意しないといけない。園芸博士のおじちゃんに、苗の植え方と場所を指定してもらおうと訊ねたので、それを参考にして植えるつもりである。あとからきっとおばちゃんが見えて、本格的な補修をしてくれるに違いない。植えた苗が7月から8月、9月と沢山実る頃が楽しみである。ところで追加に買ってきた苗木はトマト、キュウリで9本である。過日植え付けた分と合わせると結構な広さを取ることになつてしまふ。合計すると全部で16本で、おじちゃんがびっくりしているのも、むべならぬかなと思つた。苗が毎年に比べて見栄えのした大きく立派なものだつたので、衝動買いが多少あつたかもしれない。既に黄色い花をつけたりしていて、丈夫そうに見えた。

## 母の日と、娘の明子

そして今日は母の日である。娘の明子から妻に約束の連絡があつて、六本木で夕食に上等のステーキを出してくれるレストランで予約を入れてあるので、6時に地下鉄日比谷線の六本木駅改札口に来てほしいというのである。庭畠の土いじりをして仮眠を取った後なので、意気揚々として家を出た。所定の改札口に出ると修平君と明子が赤いカーネーションの大きな花束を抱えて出迎えてくれた。六本木のアマンドは古くから待ち合わせの目印であったが、今もつて健在なので安心した。アマンドの店の交差点を、狸穴の方角に向かつて歩いていくと、懐かしいVIVIクラブのあるロア・ビルの前を過ぎて行つた。途中にあつた後藤花店はなくなつていて、当世はやりのカラオケの店に代わつていた。VIVIクラブには以前から会員に入っていたが会員権は今は紙べらである。アスレ

チック・クラブであつたが、私はおオフィスの帰りに専らそこのサウナに入るためを使つていた。サウナも癖になるとひどいもので、一種の習慣病になつてしまい、夕方の決まった時間になると、体が行きたくてたまらない症状になつてくるのである。サウナに入ると前後して決まってコメディアンのフランキー堺が居て、気持ちよさそうに汗をかいていたものである。別段交際している中ではないが、私を見ると先生・・と云つて互いに挨拶を交わしていたが、何びとかに勘違えしていたのだろう。あるいは場所柄プロデューサーか、ディレクターと間違えていたのかもしれない。それ以上の会話はなく、いつも陶酔状態にいて汗をかき、快く通り一遍の挨拶を交わしていたものである。私は途中から医者の忠告で、サウナ通いから次第に遠ざかつて、完全に行かなくなつてから久しい。そんな思い出が一瞬、脳裏をよぎつたのである。VIVIの先を行つた向かい側の通りに、有名

な青葉会館の大きなビルがある。敷地千坪、8階建ての立派なビルである。

この青葉会館を所有していた友人からビルで売却を頼まれて、当時の外資系の大手金融会社が債権者だったが、バブル・金融危機で潰れたリーマン・ブラザーズと、今もつて健在のメリルリンチを相手に交渉した思い出がある。百億を超す商いで、小生の活躍の独壇場となつて血潮の沸き立つ思いだったのである。持論の信用と誠実と忍耐がいかに大切であるかを、身を以て裏づける仕事であった。小生を心から信用して活躍の場を与えてくれたオーナーの社長には、いつも感謝しているし、その社長も益暮れには、いつも時候の挨拶を忘れずに、律儀に訪ねてきて下さるのである。立派な男である。

話題の話のビルの手前を右に折れたところに、今日の訪ねるレストランがあつた。なかなか予約を取るのが難しい店とのことである。入

った途端、その贅沢な店内と、それでいて明るく華やかな雰囲気に、一瞬思ひだした場所がわかった。ニューヨークマンハッタンはブロードウェイの、ある大きなステーキのレストランに入つた時の光景である。アメリカ的でどことなく活気に満ちて、なにがしか雰囲気が似ていて懐かしく思つた。テーブルに案内されてから、明子にそのことを云つたところ、お父さん、その通りだわよ。ブロードウェイの店がここに出したのよ。ピツタリだわと、如何にも誇らしげに言つた。それじやあ、今宵はニューヨークに來たつもりで大いに楽しもうと云いあつたのである。ウェイター、ウェイトレスらは日本人、外国人が共に息があつて忙しそうに働いているが、清潔で礼儀正しく、マナーの感じよいのが客の満足にも大きく影響している。

カウンターの奥から二丁拳銃を持った保安官、扮するは名優グリークーパーが颯爽と姿を現すような、そんな勇ましい雰囲気も想像する

ようなところがあった。憧れの西部開拓時代を再現したアメリカ映画を、豪華に思い出す感じである。ステーキの注文は娘夫婦に任せたが、勿論我々の趣向を知り尽くしているから安心である。

大きな陶器のプレートに分厚く大きなステーキが運ばれてきて、そのボリュームに先ず圧倒された。レアの焼き方を好んで注文したが、ボーイがナイフを入れてそれぞれの皿に分厚い肉片に切り分けてくれ、柔らかく美味しそうな赤みの肉が食欲をそそつて、たれをつけて先ず口に入れた時の感触と旨さは抜群であった。アメリカ式、ニューヨークから来た店なので、アメリカ産の牛肉であることは間違いないが、日本産牛肉に決して引けを取らないうまみである。むしろこの大らかなアメリカ魂に負けないような質とボリュームの良さを、何とか日本産牛肉にも取り入れていく必要があるようと思ふし、それがこれから日本人の趣向にもある

つていくような気がしたのである。つまり高級な牛肉を親しく身近に賞味していけるような内容を求めて行けば、市場の拡大は自ずと開けてくるようと思うのである。牛肉を賞味した後の、たっぷり感、満足感は、心身の健康にもつながって、日ごろの気力、体力の回復につながってくるし、母の日に誘つてご馳走してくれた周平、明子夫妻に、特に散財をかけた周平君の好意に感謝するところである。

昨日は昼食に得意先の上客の招きで、日本橋の室町で老舗の饅頭をご馳走になつたばかりである。このところ栄養を付けすぎだよと云つたところ、そうした栄養を消化していくお父さんの胃袋も大したものねと云われて、まんざらでもない気持ちだったのである。明子の働き具合と近況を聞くのも、小生にとつては大変勉強になるし、大いに刺激を受けるところであるが、毎朝5時45分から始まるモーニングサテライトをなかなか見ることが出来ず、残念である

が、多くのビジネスマンにとつて必見の経済番組であり、時々ビデオで見たりしているが、大変且つ重要な仕事をよどみなくこなしていると、その仕事ぶりに驚きを以て見ていている。多くの内外の経済人やエコノミストと接見して論陣を張つて記録にとどめ、時局を踏まえてこれを編集しテレビに流す、いうなれば世のため人の為に活躍する仕事だと思つて責任も重いのではと、いつも体を壊さないようにと願つてゐるのである。そして私はこの日、妻のための母の日に便乗して、久しぶりに夜の六本木界隈の若者たちの群れに入つて帰り道を楽しんでいた。青春時代を振り返りながら散策できたことも、今日の母の日の大きな収穫であった。

ニューヨーク滞在の日を思い出に合ふおもむきの店の構へに素晴らしき食卓につく六本木レストランでの趣きのよき

白いばらより頂きし薔薇の樹に薄桃色の花のひらけり  
清らかに咲く桃色の薔薇のはな今に育てて嬉しかりけり

母の日の赤きカーンメーションの花束を抱えて妻の喜びあへり  
みどりもゆ五月の花のさまざまに薔薇こそ盛り咲きて匂へり  
庭に咲く大輪の花きはだちて今朝の光に咲きて匂へり

ステーキを豪快に食み乾杯と繰り返し干す  
ワイングラスを

面白き店の気配に何氣なく異国にありし心地なるかな

薰風のそよぐあしたに明子より母の日だよ  
と声のかかりぬ

妻と余をめでたく誘ひ母の日に夕餉のとき  
を楽しまむとや

保安官扮するグリーケーパーが突如奥より  
出でし気配に

魅力なりアメリカ西部開拓のころの映画を  
繰り返し見ん

六本木青葉会館のその先に見え懐かしく覚  
ゆ商ひ

われが手に大き商ひを任されて心を碎き務  
めはたせり

夜もなきほどに働くわれを見て無理をする  
などのたまひし母

メリルリンチ、リーマン・ブラザーズと対峙し  
て大き商ひをまとむあの日よ

百億を超す商ひを成就してひとり六本木を  
歩く若き日

あのころの人ら如何おわせしや無事にさや  
かに過ごしあるかと

六本木歩道を意味なく眺めつゝVIVIの  
サウナにしきり通ひぬ

気持ち良きサウナに通ひ病み付きにやがて  
医者より注意されるに  
何事も過ぎたることは及ばざる箴言により  
処していくべし

六本木青葉会館の商ひに外資の資本とひと  
りたむかふ

母の日を寿ぐ日にそ娘より妻にさそひを電  
話にて受く

スマホンを持ち得意げの我が妻の若やぎお  
ればそのままにせむ

スマホより机に向かふ青春をチラシ広告の  
予備校の然り

予備校の宣伝広告にスマホより机に向かへ  
と諭すあたりは

車中にてスマホにううつを抜かす人十中八、  
九と数へたまげぬ

六本木改札口に出で立てば周平・明子が人混  
みに見ゆ

花束の赤のカーネーションを妻の手に祝ひ  
て渡す明子と周平

### 大阪都構想の否決

頼もしき明子・周平の仲の良き夫婦を見れば  
われら二人も  
特大のステーキを食む豪快にアメリカ産の  
旨し肉なり  
不夜城のブロードウェイの活況に惹かれて  
入りぬ人の群れにも  
ステーキを食めば余に湧くアメリカの開拓  
精神の大きいなるかな

5月9日

本人は自分の人生をかけた仕事に満足して  
いると強がつて見せ、すつきりしたかもしれない  
が、翻弄された市民にとつては傍迷惑も甚だ  
しい。大敗したことを逆手にとつて、逆説的に  
民主主義の素晴らしさ、勝利を意味するものだ

維新の党と、橋本徹市長が賭けに出た大阪都  
構想を問う住民投票が、5月の17日に行われ  
たが、大阪市民からノーの意志表示を突き付け  
られて、構想はあえ無くお流れとなつた。破天  
荒な発想で市政と市職員、さらには多くの関係  
者を巻き込んで物議をかもし、大げさに振る舞  
つてきた橋下のおっさんと、踊らされてきた大  
阪市民の金と時間の浪費は何と大きいことだ  
ろうか。その間の市政は渋滞し、市民を二分す  
る戦いを演じ、翻弄されてきた。大げさに振る  
舞つてきた六年間を取り戻すには大変なこと  
が徐々にわかつてくるだろう。

と、他人ごとのように云われてみても今更なんだと云いたい気持ちにもなる。意地つ張りもい加減にしてほしいものである。まるで小学生を相手に諭すように見えて選挙民をなめた話である。強がりもここまで来ると、人をなめすぎるにもほどがあると云いたい。そもそも投票に参加した半数が否定に回ったということは、如何に市民の多くが橋下姿勢とビジョンにはつきりとノーを表明したかの方が、ずつしりと重く眺ね返つてくるのである。見通しの判断もなく、やたらと住民投票にかけたりして世の中を騒がせ、単に税金を無駄に使つてきたことにもなる。

そもそも、制度を見直すこと自体、いくら二重行政だが三重行政だか知らないが、体制を根本から変革することであり、落ち着いた論議を諧るべきなのに、前後の見境いなく功を焦つたきらいがある。政治をするのに我が物顔に振る舞つて功を焦り、市民と多くの関係者を巻き込

んだ責任は重いと云わなければならぬ。マスコミでは僅少の差と云つて惜しむ声もあるが、六年間もかけて、政治生命をかけて、一か八かを打つて賭けに出た勝負だとしたら、九割近い賛成票を得るくらいの見通しと自信がなければ、問題にならない。本人は政界引退と大見得を切つているが、もつと早くから引退してもらつていた方が大阪市の為になつたし、大阪市民は人が良すぎる氣がする。やり放題やらせて、遊ばせるだけ遊ばせて引導を渡したのかもしれない。劇場政治の最たるものである。タレント上がりだから威勢よくがなぐり立て独演場となつたつもりでいたが、しつかりした知識を持つていれば、途中で気がついてもよさそうなものである。三文役者を仕立てたどさ廻りの田舎芝居を見る程度のものにしか映らない。確かに雰囲気は勇ましく、てきぱきした意氣込みは結構なのだが、いかにも胆略である。自己満足の為に政治をやられたら、たまつたものではな

い。政治家は用が無くなつたら切り捨てられればいいとしても、維新の会なる政党はどうしたらいいか、これからが問題である。党利党略で集まつてゐる政党だが、それでも野党第二党である。維新的名が聞いてあきれるが、身内の問題を抱えて勢力争いを演じ、瓦解しないとも限らない。橋下徹にそつくりとは言わないが、これと似たひとり相撲を演じていた人物に最近では東国原が居た。タレント出身だからどうのこうのとは言わぬが、半ばお笑い番組辺りで人気を得て、本気になつてしまふ人間が多いことも事実である。

しかし今回、大阪市民は賢明な選択をしたと思つてゐる。このまま橋下徹のおっさんを勝たしたりしたら、じやじや馬ならしの世の中になつて、あたかも橋下だけがいいのだという風潮がはびこることだつてある。政治家はある意味で独裁者でなければ何もできないと云つては

ばかりないくらいである。まして先に云つたように八割以上の賛成票を取つたとしたら、まるで徳川家康が天下を取つたような時代感覚であはれだし、あの調子でいかれたら、ますます增長し、ヒットトラームみたいな感じになつてきても困つてしまふ。地方自治を踏み台にして彼の野望はますます悪性化して、最右翼の石原慎太郎と一緒になつたりして世間を騒がせて混乱させる、その素質と傾向は侮れがたい。昔、銀座の数寄屋橋の交差点で赤尾敏が毎日のように街宣車に乗つてマイクを手にがなぐり立てていた。元気のいい旦那であった。通行人に對して、朝日新聞の本社に對して、独演会を開いていた。むつ鉄砲なことを云つてはいるので、よく注意して聞いていたりすると結構面白かつたが、所詮はお笑い番組程度のものであつた。経歴としては社会主義者であつたのが戦後右翼に転向、辻説法を繰り広げていたのが印象であつたが。

選挙運動中の都構想賛成派は、専ら橋下徹市長の唯我独尊的な振る舞いと、芸能的演説に興味を持つて聞くだけで、都構想の内容についてさしたる理解を持たなかつたきらいはあるものの、大阪市民は、ここで単なる二重行政を問われる選挙だけにとどまらないことを感じていたに違ひない。極端な改革の舌鋒に乗せられていつても、その急進的な思潮は膨らみだして国政の舞台にまで広がっていく可能性無きにしも非ずであった。大げさに大阪発信の社会の大構造改革と称して、専ら彼が目論む野望を、大阪市を使ってそれをもくろんでいることを、賢明な大阪市民は見抜いていた。橋下の発想は、手堅く地方自治の行政に関する問題を、中央政治の政治的活動に利用しようとするもので、住民の生活意識に根差した堅実で真面目な論争ではない。私はひたすらそれを危惧していたのである。ひよつとするとひょうたんから駒で、将来に日本と国民にかかる問題にまで

発展しかねないと、大げさにすぐ考えていたのである。

時代を駆け抜けた風雲児の如く表現した大手新聞もあつたが、むしろ異端児と表現した方が適切かもしない。普通の人が考えるようなことではない思考、人のできないことをやるといふことはそれなりに評価してもいいが、今の時代と、幕末・明治の時代とでは雲泥の差がある。維新を掲げる風潮が、吉田屋騒動ではないが、血氣に燃えたところがあつて危険な思想の一端をのぞかせていいなかつただろうか。今の時代、今の日本が民主主義の繁栄を受けていることを認めている点は、彼の認識にもあるから、一つの救いでもある。ひとりのワンマンに利用されないためにも、そしてそのワンマンを追放した大阪市民の良識にならつて原点に帰り、党名を「みんなの党」に戻した方が分かりやすくていいのではないか。維新の党には国政を担う理念と使命があるはずである。

おりしも日本の進路を決定づける安保法制の議論が国会にかけられており、日本の防衛と軍事力、そして海外派兵の問題は現実味を帯びてきている。巨大な勢力を国会に持つ安倍政権であるが、こうした問題について看過しておれない国情である。安倍政権に対峙した野党の健

全化と、国運を左右する岐路に立つ日本を、もつと凝視して国政に参画してもらわないと困るわけである。先日ＮＨＫテレビで、軍神と云われた、山本五十六・連合艦隊司令長官の回顧録なるものがあつた。合理的根拠にたつて対米宣戦に反対する強い意思を持つていたにもかかわらず、日、独、伊三国の軍事同盟を結び、時の東条英機ら主戦論を唱える勢力に対して、信念を堅持することが出来なかつた山本の苦悩を好意的に美化したものであつた。結果、周囲の意見に押しつぶされて、無謀にも真珠湾の奇襲攻撃に踏み切つたのである。彼の指導者としての誤算も甚だしき結果であり、意志薄弱な欠

陥をさらけ出したようなものである。当時の指導者らの無知蒙昧と報道管制に、国運は凋落の道を歩み続けた。資源大国の米国を相手に、慢心と過信が決定的となつて、日本の運命は奈落へと転げ落ちていくきつかけとなつたのである。

同じよう今、日本は重大な岐路に立たされている。いまさらワンマンショウの劇場政治でもあるまいに、人騒がせな風雲兎、否、猿回しに等しい橋下おっさんの登壇であつた。そんな暇などないはずである。彼はそれを読み切れなかつたのである。いまさら彼の実力をそこまで買いかぶる必要はないが、如何にも若者のアジテーターの弾みで、亡靈の如く石原慎太郎殿みたいなのが何人も出てきても傍迷惑である。大阪市民が日本の為に急進的にならずに良かつたと思う。彼が云うように、保守的思想の台頭で、最後の僅差で敗れたかの如き感想を述べたが、保守的ではない。そう決めつけたりす

るところが、彼の怪しい見方なのである。今回は、大阪市民が地方自治の正しい意識をもつて冷静に判断した結果である。橋下市長は、地方行政と政治を足掛かりにして、国政の論議に飛び躍させようとするところに問題があることも、気を付けなければならない。正々堂々と国会議員になつて国政の場で活動すべきであつた。行政の改革、改善は市民の総意を基にして着実に進めていくところに民主主義の良さがあり、彼がいみじくも告白したように、ひとりの独裁者が劇的に決めつけたりするものではない。前時代的発想と手法が、彼の中には渦巻いて、一種刺激的で魅力に映るが大変危険なところもあるのではないだろうか。これに対しても彼が売り物にしてきた傲慢な振る舞いこそ問題である。これに惑わされずにノーを突きつけた大阪市民の勇気と民主主義を見習つたようであり、市民運動の勝利として、知的レベルが勝つた選挙結果と評価したいところである。

都構想浪速の空にぶち上げて失速の末打ち果てにけり  
居の幕をとじたり  
独裁を夢見て立てる異端児の泡沫候補と変わらなき末  
ちんぴらとおぼしきものがさわぎたてしまふをだましけむにまきたり  
振り返ることも愚かし都構想大山鳴動鼠一匹  
チヤツプリン演じる映画の独裁者チンピラ者がこれをまねたり  
演説をぶちあげながら陶酔し責任の無き下劣政治家  
騒ぎ立てまくしたてたる演説の空回りして何も得ざりき  
6年もやり放題の政治家のやくざまがいの喧嘩しけつ

日本の民主政治を褒め上げつ負けも大負け

### 春の尾瀬沼

敗退の弁

抗す大阪市民を二分して結果の惨敗なるに等しき

われこそは正義の味方と見せかけて無垢の民衆を己が楯とし

大衆を無知蒙昧と見下して己がりやくに煽る政治家

志なかばに道を引退す無念の胸のうちもあるべし

人生の山谷あれば出直しも異端児の名をほしいままにし

弁護士の資格をもてる才知にて道の裏表も知り尽くす身に

まだ若き年に恵まれ活躍の人のためにも己がためにも

初なつの風そよぎきて尾瀬沼に雪どけ水の湛へかがやく

若者のすばやし動作を見習ひて我が行動も若き目指さん

天つ日のさつきの空にかがやきて尾瀬の木道を妻と行くなり

晴れあがる尾瀬の沼地の青ざりて燧ヶ岳の光る雪かな

やすらかに寝そべる春の至佛山きらめく尾瀬の沼ゆながめつ

山道を登り峠に妻とたち木の間に眺む尾瀬の沼はら

あかぼしのくれない染むる上越の空ほのぼのと明けたちにけり

さすらひの旅にしあれば麦の穂の貧しき飯もありがたきなり

5月11日

上越の空にさまよふひとひらの雲の行方に  
思ひ託せむ

せせらぎにゆらぐもぐさのはかなさにされ  
どさだめとまかせをるらし

雪解けの水そぞぎ来てまこもかる淀に魚の  
泳ぐ影かな

録蔭の露したたりし木道を妻と踏みつつ温  
原をゆく

さえずりに喜びみつる森にきて奥まに水の  
と聞くもさやけき

大清水登りてつきぬ長藏小屋むかしの姿し  
のぶ夏の夜

ひるさがる日差しに白き日傘さし淑女が尾  
瀬の木道をゆく

山小屋の窓にくれないの入日さし今宵の月  
のあきらけくこそ

夕映えの入日の赤く燃え立ちて燧ヶ岳の影  
におちゆく

思へらく世の雜ごとにかかわらず正しきこ  
とを為してゆくべし

聖靈のわれがあたりに留まりて神のご意思  
を常に伝へり

山裾の森の奥より重々しふくろう博士の声  
のひびくに

花びらの打ち重なりしほふたんに白玉の露  
置きし今朝かな

ばふたんの白き花びら重なりて秘めたる奥  
に神おはすらし

あかばしのくれない染むる上越の空ぼのぼ  
のと明けたちゆきぬ

朝ざりの晴れ行くあしたほのぼのと雲間に  
出でし燧岳かな

山道を妻とともにども辿りつき喜び充ちて眺  
む尾瀬沼

とろとろと燃えて落ち行く天つ日の大法界  
のおきてゆるまじ

満天の星をあほぎて億兆の隅なきはてに神  
の在りしも

雪解けのさらめく水のきらめきて尾瀬の沼  
ちに注ぎあふれり  
かつこうの遙か遠きゆ聞こへきて尾瀬沼は  
らに霧わたりゆく

5月25日

### 夏の盛りに熱い国会論戦

麦の穂の黄金になびきひろらかに空にひば  
りのさえずり高き

### 頻発する火山噴火

今年も早や六月に入った。生まれ故郷の浅  
草に夏を告げる三社祭が一週間前に終わつ

て、祭りのあと寂しさをそこはかとなく感  
じていたが、月が替わつてしまふと、そうし  
た感傷的な気持ちも薄らいで、これから迎え  
る猛暑の躍動感があふれ出でてくる感じであ  
る。見上げた空にはもくもくと沸き立つ白い  
雲が、勇壮な夏の訪れを告げている。今年の  
暑さは異常気象の仕業と云われるほどに、五  
月だというのに30度を超す真夏日が一周  
間以上も続いて、記録的な暑さがすでに始ま  
っている。こうした折にも南は鹿児島県の屋  
久島町、口永良部島の新岳の火山が、猛爆發  
した。噴煙は上空九千メートルに達した。繰  
り返す噴火で噴煙が空高く上り、吹き出る真  
っ赤なマグマが湯釜に見られるように、生き  
た地球の活動期が、とりわけ日本列島の随所  
にみられる。生きている火山が、この狭い列  
島に五十か所以上もあるという。これでは日  
本の地表が熱いわけである。

いち早く危険を避けて、大方の島民が用意されたフェリーで屋久島や鹿児島県に避難し、ひとりの犠牲者もなく済んだことは幸いであつた。日ごろの訓練の成果であると高い評価を得て、いざと云う時の模範的な事例である。マグマが直接噴き出す火山性噴火と云われているが、火山性水蒸気爆発と云う見方もある。大量のマグマが四方に流れ出して、海岸にまで達している兆候である。爆発がいつ終息するかわからず、長期の避難生活を余儀なくされる見方もある。

先週の土曜日の午後8時42分には、東京をはじめ関東地方に震度5の地震が起きて、日本中がゆらりゆらりと揺さぶられた。振動周期が結構長く感じられたが、震源地が深かつたために広範囲にわたつてのんびりとした揺れが広がつたらしい。震源地の深さも最初は470キロと発表されていたが後に5

09キロ、さらに618キロと訂正されるほどに、漠然とした数字であつた。地震の規模を示すマグニチュード8・5は、プレート内部で発生した文字通り巨大地震である。巨大地震の揺れに乗つて、この時私は何だかハンモックに寝そべつて緑陰を楽しんでいる時のように悠長に感じていた。それと云うのも、日中、夏野菜の手入れと土起こし、それに庭の手入れと掃除に終日働きずくめだったので、夕方風呂に入り、綺麗になつた庭と、庭烟を眺めて椅子に腰かけて夕涼みをたのしんでいたが、いつの間にか寝こんでしまつていた。日中の日照りと暑さは、灼熱の度を増して、肉体労働に汗を流していく後なので、快い解放感に陶酔の境地で居眠りを満喫していたのである。その後の夕食にビールを飲み干して居間に寝転んで、のびのびとしていた時の地震だったので、まるで振りかごに居るような感じでいたのである。テレビの速報

を見ながら、地震に弱い日本の交通機関であるが、新幹線をはじめとして一般の交通機関も一斉に止まってしまい、いつもながら復旧には時間がかかるてしまい、現場では多くの混乱を生じる結果となつた。足止めを食らつた乗降客たちは閉口氣味であつた。

世の中が騒がしく感じるのは、何も天変地異のことだけではない。国会で論議されていきる重要な安保関連法案の集中審議に見られるように、与野党の論戦が白熱している。世の中が、世界が激しく動いているだけに、安閑としていられないのは事実で、それに対応した政策立案と、準備と、実行が必要になつてくる。問題は実行する段階で、日本国と日本人にとつて何が利益し、何がリスクとなつて負いかぶさつてくるか、その法案の審議をするなかで明確かつ正確に議論し、過ちの無きことを期さねばならないのである。まやか

しや、一時逃れの論議であつてはならない。

今、中国が出鱈目な海洋進出を図つて船だけでなく、サンゴが生育する岩礁を破壊し、浅瀬を埋め立てて、軍事目的の島の造成に血眼になつてゐる。力による現状の変更や、周辺地域の秩序破壊で、動向を懸念し、警戒を強める米国をはじめ、周辺諸国に緊張をもたらしている。一方で中国は、アジア投資銀行なるものを作つて世界に資本参加を呼び掛け、国際協調の姿勢を示してゐる。この二面性がどうも解しがたい。何しろ13億からの人を統制しなければならないから、中央と地方との連携や、政策の伝達が円滑にいっていない、国家体制の未熟さがあるかもしれない。中国も北朝鮮も、軍事優先で、一党支配の独裁政治であることは共通してゐるので、良し悪しに係わらず、暴発されることが怖いところである。民主主義国家との根本的な相違である。

## 民主主義の徹底した我が国の政治について

### 白熱の国会論戦

ても、油断は禁物である。権力の座にあるものは、鶴も自分の糞の上では王様であるとの故事名言ではないが、つまらぬ人間は自分が一番偉いと思っているのが大方である。ましてや、権力の座にあるものはなおさらである。それと一緒であって、いつ豹変しないとも限らない。安倍さんの座っているところがくそだとは言わないが、座る人物が鶴だと名言が的中してしまうことになる。鶴は三歩歩くと忘れてしまうこともある。すべてのことについて答えなければならない安倍さんも大変だが、何しろ1億2000万人の国民の生活が懸かっているから仕方がない。鶴群の一鶴、安倍さんの基本的姿勢である平和的政治の手腕、積極的平和主義の貫徹を願つている。

いやしくも与党の答弁を聞いていてもおかしいし、矛盾をさらけ出して答弁になつてからしつかりレ・監視の目も怠らず、新聞やテレビニュースからニュースソースを求めて自分なりにはつきりした見解を持つよう努めている。

いないし、安倍さんが質問者に対し仮に、早く質問しろよといった、的屋まがいのヤジを首相席から飛ばしたからと云つて、野党の諸君が国会軽視と叫んで質問をボイコットして議場を退場していくたら、それこそ政府与党側の思う壺であつて、法案審議は単独で進められていってしまうことになる。それは知る権利を持つ国民にとって、置いてきぼりを強制するものであつて、国益に反することである。

今の野党の諸君には、そんな旧態然とした国会戦術を取つてもらつては困るのである。徹底的に論議を尽くし、国民の利益優先で国会の審議を進めて行つてもらいたい。多忙から出た焦燥の念で、品の無い野次で応戦した首相と、冷静に質問をする野党諸君を見比べたら、おのずと明らかである。野党の諸君の質問によつて、政府が考へていることはどうもおかしいのではないかと云つた点をあぶりだすことによつて、間違いを正す結果

にもなるし、政府の諸君は、難しい回答をしながら場合によつては、自分のしていることがどうも狂い始めているということにも気づいてくるかもしれない。要は子供だつてわかる問題である。わかる問題をことさら難しく組み立てて、判らなくさせているとしか思えないことも沢山ある。否、全てそんな感じである。

どちらかと云うと、今回の安保関連の法案と、集団的自衛権の行使に関する法案は、他人の喧嘩にわざわざ入り込んで、自分が当事者になつて殴られたり蹴られたりして満身創痍になつていくような面もあるので、国民としては心配である。なるべくだつたら危険を冒す行為は避けたいというのが人情である。利己主義に走るわけではないが、できるだけ自分の精力を消耗しないように上手に、利口に振る舞うべきなのに、頼まれもしない

のに好き好んで他国の紛争の仲間入りをしたがっているようにも感じる。他人の喧嘩に

割って入り、大きな傷を負つてきても何のとくにもならないし、馬鹿じやないかと云われても仕方がない。その前によく考えて知恵を出し合つてみたらどうだと、助言してやる手立てもある。抑止力も効果もそうだが、その前にある話し合い、それが外交と云うものだ。国際社会でもそuddash;だし、我々の社会生活でもそうであるように、決して自國のみで生存が確保されているわけではないし、自分だけで生活が成り立つているわけでもない。お互に依存し助け合っていく関係にあることも十分わかっていることである。それでもなおかつ、余計なことに口出したり、手出しをしたりして毛嫌いされたり、あらぬ傷を負つたりすることもある。国会でいろいろと論議されている問題に、そう言つた矛盾をはらん

だりしていることはないだろうか。甚だ疑問である。

他人の喧嘩を傍観するわけではないが、わざわざ他人の喧嘩を賣つて出ていくこともなかろうに、わざわざ無理やり理由づけて、言いがかりをつけて喧嘩の仲間入りに割り込んでいくのと同じで、所詮、全く意味がない話になつていってしまう。集団的自衛権の行使にしても、後方支援にしても、どこまでが範囲であつて、どこまで及ぶのか、つまり誰が敵であつて、どこまで攻撃するのか、自衛隊の判断が、戦闘の戦闘員が、リスクを負つていかなければならぬのである。隊員に生命のリスクがないとは言えない。戦場は所詮、敵味方に分かれて相手が打ちのめされるか、白旗を上げるまで撃ち合いになる。さもなければ自分がやられてしまう。ましてや、集団的自衛権なる法律は、同盟国が襲われているのを助けなければならぬし、自國の存

立が脅かされると判断した時には敵国に攻撃を仕掛けると云つてゐるのだから、これは戦争である。正しく判断するのは政府であり、軍隊では上官の命令である。当然犠牲者だって出てくるだろう。総合的に見て、これはもはや憲法第九条に抵触する。

(萬葉びとに真似て詠む)

いついづこにもしれものばつこしてうち  
あひのあといのちおとせり  
たたかひのすきなやからがあまたゐてすえ  
はならくへみなおちにけり  
さつしそうを見るはよしともかかはりをき  
らふかたきはふつふなりけり  
なにかにといひあふうちにけんぱうのいは  
んにきづきあはてふためく  
おろかなるしぐさにあけてくりかへしひと  
をあやめてうちはてるひと

せんだつのけんぱうせいしんにそむきつつ  
わがくにたみをだますなかれと

へいわしゆぎみんしゅせいじをりねんとす  
わがくにけんぱうをまもりゆかんや  
とつこうにひとりむすこをおくりだしそ  
このはははいきてさりしも

ひめゆりのたうをたづねておとめらのれい  
をなぐさむすめらぎのたび

たたかひにわかきいのちをおとしめしあま  
たのたまをいまにわすれじ

おのがためあまたのたみのいのちをばうせ  
しむせいじをくひてやまとざる  
げんぱくのひがいにあひしとものゐてわか

くゆきしへくちほしきかな

ひろしまのひばくにあひてそののちのやま  
ひをいまもかたるともあり

はるさめのおとにめざめてさよなかのゆめ  
にげんぱくのせんこうをみん

## 分らない集団的自衛権の行使

ひのなかをくぐりにげゆくしようねんのや  
かんくうしゅうのみとのまちなか

ヒットラーとどうじょうひできとくるひも  
のいでじせいのおぞましきかな  
イスラムてふわけのわからぬむれがいでひ  
とをあやめてよをみだしおる

さはあらむぶつよく、せいよく、きんよく  
と、しはいひよくよりせんそうへゆく  
あさのひにかがやきそむるふじやまのけだ  
かきみねのひかりはなでり

わらべらのはらにあそぶたのしさにいき  
るまことのみちをまなべり

集団的自衛権の解釈でも、拡大解釈が行な  
われて、いざ緊急事態と云う時の、迅速な攻  
撃が必要な時に、はすみで行く可能性がある  
ことが、即リスクにつながっていくものであ  
る。米軍の友好国Bが、敵Aの攻撃を受けて  
いる時に、米軍がこれに応戦している。米軍  
の対応が不足し始めて、いとしたら日本が  
援軍を送ることになる。そんな時戦況の変化  
で米軍が作戦上すり抜けたときに、即ち撤退  
した時に、日本が取り残されてBを守るた  
めに一時Aとを敵国と想定して戦闘状態に  
なる可能性がある。敵国Aはもともと日本と  
は敵対関係になかった。なのに相対する戦場  
となつた。また別の考え方からすると、自衛  
のためと称して、実はそうでない場合が生じ  
てくる。他人のしでかした戦争に、地球の裏  
側に入つてまで参加することになる。他国が

互いに戦争しあつてゐる中に無理やり入つて、自分も加担していくことだつてある。自國の、國民の生命が脅かされる動きがある場合に、専守防衛と称して、相手方に攻撃を仕掛けることも出来る。相手側が日本に対しても攻撃する意思がなくとも、同盟国が攻撃に晒されていれば、自分の國に攻撃を仕掛けたとして、その國に対して日本が攻撃することだつて可能になる。戦争だからはずみで、實際にはどこまで拡大していくかわからぬ。法案的には重要影響事態と称するもので、どこまでを重要影響事態と認識するか、どこの地域まで拡大されるか、これが問題である。とにかくわからない言葉が多すぎる。眞面目に論議しているようだが、これを以てまやかしであり、これを以て屁理屈と云うのである。

戦争の好きなやつは、どんな危険を冒してもやりたがるし、常軌を逸して行きたがる。これは人間の半ば避けがたい戦闘本能である。好きなやつには好きなようにさせておけばいいのだが、國同士となるとそうもいかない。そのため前以て準備をしておくこと、抑止力を期待することが出てくる。自國の安全と存立のためとは言いながら、そのための戦争行為を、時期と、地域と、規模において、どこかで歯止めをかけておく必要がある。今国会で論議されていることは、簡単に言えばそうしたことなのである。仕掛けられても、仕掛けても困ることゆえ、兎に角、戦争の惨禍をこの國にもたらしてはならない。屁理屈なしで、額面通り受け止めて、日本國は安倍さんが世界に提唱する積極的平和主義で臨みたい。これこそ政治家の崇高な理念として、おのおのがたが、肝に銘じ、胸に刻んで努力願いたい。

書にてがく学童疎開の天皇の平和国家建設とあり

雄渾の書体をてがく天皇の氣概を示す少年のころも

戦争の慘禍のあと七十年平和国家を目指す我が国

心境の書に少年天皇の平和国家建設とあり

人の世の政治に悪制を敷くものの地のそこ  
ここにありておぞまし

軍国の優先政治に北専の民は貧しき日々に  
あへぎぬ

日本の平和憲法の精神を広め母国を崇め見るわれ

大観し戦争の無き世の発展を期す我が憲法  
を守りゆかまし

天皇の続く慰靈の旅のそら即平和国家建設  
の道

尚づづく飲まず食わずの戦場に命を落とす  
この矛盾とは

明らかに憲法九条に抵触す安保関連法案の  
議

原爆の唯一被ばくの日本の核廃絶は悲願な  
りけり

安倍さんの云ふ積極的平和主義そのまま強  
く歩むこの国

さまざまな誘惑に克ち戦争のなき日本を築  
きゆかまし

集団も個別も敷かず戦争を断ち平和への道  
を拓かん

顧みて武器よさらばの上映に少年時代の思  
ひいまだに

6月2日 続

あづさいの咲くしもたやを探し行く小雨降  
る日の墨東の町

お天気の予報官によると、関東地方の梅入りは今日から始まつた由である。解説はされていないが朝日新聞の夕刊を見ると、一面の右下端に6月8日9時現在の天気図が載っている。それを見ると、梅雨前線が東西長く延びて九州地方にかかるており、このため九州から四国にかけて既に梅雨入りしている。前線がこのままゆっくりと北上していくので、関東地方でも夕方から雨が降り出して、今夜半から明日にかけて一時激しい雨となるらしい。これから約一か月間ほど毎日のようにお天気が崩れて、うつとおしい雨模様となつて、通勤の足元を煩わすことにもなる。

降つてもらい、昼間には陽が差して、遠くから来たお客さんたちを楽しませてもらいたいと願つている。

拙宅の近所には、大きく花の房を付けた紫陽花の花が沢山咲いているのを見かけているが、梅雨入りに咲いている紫陽花の花には、ひとしおの風情が味わえて楽しみである。紫陽花の花は、梅雨の時期を告げる花である。咲いている間に花の色が七つ変わりするというほどに、移ろいやく色の味わいには、限られた花の生涯を通じてそこはかない感じがしてくる。鎌倉の明月院に行くまでもなく、近くの九品仏境内に咲く紫陽花の花には、しつとりとした風情が沁みていて、雨つゆに濡れたむらさきの花が見る目にも鮮やかである。どこにでも見られる花だが、鎌倉の明月院に紫陽花を見に行つてきたと云うことを行つたと云うこと

聞くと、どことなくしつとりとした情緒が窺えられるから不思議である。

箱根のフジビューマンションに行くときには、東海道を小田原から箱根湯本に出て、登山電車に乗つていくコースもあるが、今の

時期、登山電車は紫陽花の花のなかをゆづくりと通過していくことになる。線路の両側の長い堤が隠れるくらいに続いて咲いている紫陽花に触れながら、登山電車に揺れて行くのも又、何とも言えず、優雅な風情である。やかましい巷の騒音を避けて、しばらくの間、紫陽花と一緒に静かな梅雨の間を楽しむこともあつてもいいのではないかと思う。今年は箱根大涌谷で火山性噴火の兆候があつて、箱根全体がいかにも危ないかのように思われがちだが、決してそうではない。火山活動を鑑識する専門家によると、危険区域の指定も大涌谷の噴煙地の半径300メートルの立ち入り禁止となつてゐるくらいである。登

山電車の花見客も減つてしまつてゐるようだが、電車から見る紫陽花の楽しみは大平台駅辺りまでだから、心配無用である。箱根温泉街は綠豊かな自然の宝庫に囲まれて、日本有数の景勝地であり行楽地である。

フジビューマンションの建つ長尾峠に立つて当方の景色を眺めると、古代に大噴火した後のカルデラの原形をとどめて、眼下に箱根全体を展望することが出来る。文字通り、箱根の全容が広々と眼下に広がつてゐる。その一部、箱根の又ほんのわずかな一部の赤茶けた山肌が、大涌谷の源泉地であつたりする。片や、長尾峠のトンネルを抜けると眺める先は荒漠たる大地に聳え立つ富士の靈峰である。これからは蕭々として煙るような霧雨の中で、あたりの景色はむしろ音のない沈黙の世界に寝静まつてゐるに違ひない。静かに降りしきる梅雨の雨に、今、紫紺に染まつた紫

陽花の花が趣きを添えて感傷をそるので  
ある。

続

あじさいの鑑賞

あじさいの味はひ深く色増して小夜の小雨  
に迎ふ朝かな

降りしきる雨の三日の過ぎしのち艶めき染  
むるあじさいの花

あじさいの薄桃色に咲きしのち濃きむらさ

きに移る今朝かな

きりさめに紫陽花の濃く色そめてともるタ  
べとなりにかるかな

きりさめのそば降るあした紫陽花の咲く尼  
寺にひとり訪ね来

鎌倉の明月院に行かむとや妻が誘ひぬ小雨  
降る朝

あじさいの花咲くみちをゆく女のさりげな  
くさす傘のゆかしき

降りしきる雨の二日の過ぎしのち艶めき染  
むる紫陽花の花

あづさゐの咲くころあひに思ひけむ別れし  
ひとの姿にもにて

あづさいの移ろひやすき花のいろ別に七変  
化と人の申して

ひとめさけ咲く紫陽花の花の色今朝べにい  
ろに納屋の裏かな

ひそやかに雨に染まるあづさゐのタベの  
色の濃むらさきかな

あづさゐの咲くしもた屋と教へらるおとな  
ふ人の住まい聞きしに

あれ草の屋敷にあはれ紫陽花のあるじの今  
は去りしあとにて

いろあひのさまざまに映ふあづさゐの濃き  
紫の時に降る雨

あづさゐを切りて素焼きの壺に活け置く床  
の間のゆかしかりけり

人知れず咲く紫陽花の花の色タベの雨にけ

ぶる仮の夜

花びらをまろく丸めて愛々しあじさいの咲

く尼寺の庭

あじさゐを一輪挿しにさしておく宿のおか

みのけしきおぼゆる

緑陰の隅に植えたるあづさゐの昔妾宅の庭

に咲きたる

ふるさとの浅草にきて紫陽花の花置く茶屋

に入りし宵かな

花街の通りをいろふあじさいの鉢にすずし

き打ち水のあと

小雨降る夕べに妻と傘さして咲く紫陽花を

見にもゆかむや

6月8日

中国指導の

アジアインフラ投資銀行の構想

日本、アメリカ、カナダを除く世界の 57  
カ国が参加することになった中国指導のア  
ジアインフラ投資銀行の設立が世界の注目  
を浴びている折、設立協定の内容が明らかに  
なった。それによると、資本金は 1000 億  
ドル、日本円で 12 兆 3000 億である。そ  
のうち 75 パーセント アジアや中東地域内  
の国々が出資し、25 パーセントを欧州など  
の地域外の国々が拠出することになった。中  
国は 25 パーセント超の最大出資国となつ  
て最大の議決権を得、重要事項を決める際の  
拒否権を持つことになった。

出資額は各国の国内総生産・GDP など經  
済力を基に算出されている。結果、中国は 2  
97 億ドル、約 3 割弱で最大である。中国の  
世界経済に力を誇示する姿が如実である。例

えば国際金融機関・IMFのアメリカの出資額は17・7パーセントであり、アジア開発銀行の日本が15・7パーセントと比較すると今回の中中国の大きさはダントツである。更に総裁には中国財務省のOBが就任する予定である。中国色を深める今後の運営が焦眉の点である。

運営については透明性が重視されるが、ほかにも懸念すべき点がいくつも挙げられている。各國は今後策定されるプロジェクトや融資基準など専門的な問題点をあぶりだして、公明性を重視したいところだが、既存のアジア開発銀行や、世界銀行などの水準をいかに保てるかが注目されるところである。設立の趣旨は明白であり、アジアの貧困の解消と経済力の向上を促し、且つ経済社会の後進性の是正を図って生産力の近代化と力を高め、交易拡大に寄与することであり、その時代的意義と力は大きなものがある。既に上位

出資国の中中国を出頭にインドやロシアが運営の中心となる理事の選出を果しておらず、12人の理事の配分の状況も大いに関心のあらところである。経済力を世界に拡大する中國の布石であり、これから世界経済は中國の動きについて、基礎と体制がはつきりと構築されるまで目を離せない状況が続くかもしれない。

一方で、大規模に浅瀬を埋め立てて海洋進出を図り、現状の秩序に対しても力を以て一方的に変更しようとする行動を戒め、専ら軍事大国に傾斜しない民主化への努力をしてもらいたいものである。このA I I Bには、出来るだけ早い時期に日本、アメリカ、カナダなどが参加して、運営の近代化、民主化に協力、寄与すべく、適切な時期を選択する必要がある。中国の独断的運営を注意するためにも、又、世界が経済的結びつきを強化することによって、紛争解決のための大きな手法を

選択する道筋を作つていくことになるからである。

### 共産主義の教義

共産主義的社會主義の金科玉条とするマルクス主義の学説の神髄を為すものは、かの有名な階級闘争による社會的構造論である。經濟的、生産的諸關係の下部構造の發展が、政治的、思想的、文化的なあらゆる精神的產物としての上部構造を変容構築していくといふ發展過程である。即ち、人間社會のあらゆる要素は、この經濟的生産的システムによつて決定されるという理論である。だとすると、國際的な連携のもとに構築された經濟的、生産的諸關係は、國際的な政治的、思想的、文化的な上部構造を一様性をつくりながら構築していくことになるだろう。その結果、今回のような國際的な連携によつて打ち立

てられた經濟的生産的諸關係、即ちその原動力たるA I I Bこそは、一様にして國家間の差異を解消していくだろうし、國際的なスキームを漸進的に構築して、対立、抗争の無い社會に育て上げていくことが出来るはずである。

つまり一定の下部構造に立てば、それに対応した一定の上部構造を作り上げることが出来る。逆手に取るわけではないが、大きい観点からものを見て判断する必要がある。それは政治家の判断である。ふと思ひだしたことをじつっていたマルクスの本の中に、唯物史觀の合法性の一端を見抜いたものである。それまでの意識が存在を決定するのではなく、存在が意識を決定すると逆転的発想をしたマルクスに熱を上げる青二才が沢山いた。そして矢鱈赤旗を振った東大や早稲田の諸君が仲間にいたものである。マルクスは老年の思想

も変えて、今A—I—I—Bを通じて唯物史観を駆使して、逆転の発想を大胆に發揮すべき」とを、安倍ちゃんとオバマちゃんと諭しているのである。この好機をつかまない手はない。思想を変えるには、生産的諸関係を変える以外にないというわけか。

終結的には戦争を回避し、国家間や民族間、そして広くは宗教間に於いても一つに収斂していきながら、巨大にして一様性を成就して、抗争、対立の無い社会を理想として掲げていくことにもなる。そうした意味合いからも、経済大国としてのし上がつてきている中国の思惑に対し、聰明な判断をして、大局的な見地から日本も、アメリカもこれに参加してスキームに確たる地盤を作り上げることが必要である。喧々諤々の集団的自衛権の、行使を容認しない社会の構築も実現できる

かもしれない。発想の転換こそ、時代の盟主たる状況を作っていくことになるう。

6月17日

#### 日韓友好関係修復の好機

戦後 日本と韓国が国交を正常化して50年を迎えた。しかし、今日に至るも相互理解が得られないままにぎくしやくした半世紀が過ぎたのである。しかし、ここにきて両国の首脳の間に冷然とななる両国の国交樹立以来の、この時をとらえ、両国間の悪化を食い止めないことには、これから先両国の友好関係の構築をうけないばかりか、悪化の一途をたどるに違いと云ふ心配が、日韓両国

民はもとより、政府高官の間にも眞剣にとらえるようになり、落ち着いた良識が広がってきた様である。めでたいことである。そうしたこともあるてか、今日の日経平均が大幅高となつたことは、記憶にとどめていてもいいのではないだらうか。

歴史問題を含め、余りにも「だわりすぎた解釈の披靡が、両国にもあつたようである。振り上げたこぶしを勝手におろすことも出来ずに体面を気にしすぎて、お互いが意地を張りあつてきた幼稚な子供のようにも思える。胸襟を開いて話し合えば簡単に済むことである。一刻、国民の信託を得た指導者がそんな他愛ないことで騒ぎ立ててしまいには国家間の紛争までに発展して、手が付けられないほどに傷口を広げてしまうことだつてある。一番近い隣国同士である。狭隘な気分を捨て去り、大乗的な見地に立つて状況を判断しないと、時間を無駄にして長きに亘り無益な対立に巻き込まれて、挙句に大きな犠牲をもたらすことにもなる。そうしたことはこれまでの幾多の歴史

が教えるところである。そうしたあとの犠牲を蒙るのは、何の関係もない善良な国民なのである。指導者はしつかりした判断と勇氣を以て、国民のための政治を行なつて行つてもらいたいものである。

歴史認識についても、日本は過去に於いて謝罪を繰り返し述べている。それもあまり執拗に迫られたりしていると、感情的になりがちになつてお互によくない結果になる。それよりも未来に向かって新しき世代を展望しつつ発展的関係を構築していく方が良い。国の事情もあるかもしれないが、國のトップに立つ者同士がいつまでもいがみ合つていては、良好な結果をもたらすことはできない。そうでなくとも、韓国は祖国を南北に分断されて、それとの対立が先鋭化して、常に軍事衝突の危機をいまだに続けていている。そうした現実的な見方をして、近隣諸国との友好関係を築いていくことは喫緊の課題である。

そうしたことを踏まえて、この度の日韓国交<sup>5</sup>

0周年記念祝賀会が、両国において期せずしてそれぞれ行われ、日韓首脳がそれぞれに出席して祝辞を述べあうことが出来たことは、両国民の冷静、的確な判断と良識が勝つて得た勝利の結果である。今までのような相手を非難することばかりやっていたのでは、いつまでたっても埒が明かない。慰安婦問題がいつまでも尾を引いているが、臭いものにふたではないが、何度も蒸し返されないと氣分が悪くなるようなことは、お互いにとって決して利益にならない。広く考えてみても、國民としての品位を落とすことにもつながつてくる。一方は戦後処理は済んだというし、他方はまだだといふし、云いあつていてる両方に面子もあることだ。こうした時はお互ひが勝ち負けを決めるのでなく、歩み寄つて常識的に考えて手を打つことが肝心である。とにかく接して話し合うことだし、話し出して気分を悪くするようなことは、そろそろ止揚する」とが大切である。

6月22日

平成二十七年七月二十一日印刷  
平成二十七年七月二十四日発行  
第六十六巻  
昭和経済第七号

佐々木 誠 吾

印刷所 日本印刷株式会社

発行所 公益社団法人 昭和経済会

事務局 〒100-0018 東京都中央区八重洲二丁目十一ノ一

T E L (六八二〇) 六〇〇〇番  
F A X (三三七一) 三一〇四番

e-mail:info@showa-ecor.jp/  
<http://www.showa-ecor.jp/>

## 國民の行く方

短歌同人誌・淵主宰 佐々木 誠 吾

国会の法案審議のやりとりにうそごまかしの論議うとまし

終戦の心境の書に天皇の平和国家建設とあり

国会が呼ぶ参考人の学者より安保法制の違憲との弁

経済に優れし手腕を發揮せる安倍氏におごる姿あへなし

戦争の慘渦を忘る国民の戦後七十年の世の仕儀なれば

安倍さんの早く質問しろよの弁、おごりたかぶるさまの口惜し

敗戦後七十年の時なれば戦争体験の者も消へゆく

性こりもなく戦場の惨劇をまだくり返す人のおろかさ

戦ひを好む輩も時にいてそやつが指導す世のみじめなり

日本国平和憲法の精神を広めこの国をかえりみる我

戦争のなき世の発展を定めたる日本憲法を守りゆかむや

北鮮の軍事優先にくにたみの悲惨な日々の生活あはれ

荒れの地をさまよい民の貧しさの上にあぐらをかく独裁者よ

軍国の優先政治に北鮮の民は貧しき日々にあへぎぬ

人の世の政治に悪を敷く者の地のそこここに在りてまどわし

経済の政策運営に抜群の安倍政権のおごりたかぶる

ゆるぎなき日米同盟の堅持にて戦後七十年の経済も立つ

枠を越ゆ日米同盟は日本の国益ならずリスク負ふのみ

交戦権放棄は自衛を否定せず無益な戦争に参加せずの意

国会に猿が沢山いると云う吉田茂の言の如く実に

戦場に立つ能力のなき者が専守防衛を口に云ふなり

これまでの枠を越ゆれば国益をそこなひリスクを抱きかねなし  
意外なり自民が推せる参考人憲法学者の違憲なりしと

戦場に立つ状況は殺生と向きあふ没価値・没人間性にて

バラバラと落ちくる火の粉は焼夷弾地上を火炎の海となさしむ

水仙の匂うあしたの教会にオルガンの音ききて立つ我

国会の審議に矛盾をさらけだす安保法制の違憲あかせり

屁理くつとまやかしに過ぐ国会の安倍法制の論議中にも

馬鹿馬鹿し論議に時間を費やして無駄に血税を使ひはたせり

カウボーアハツトを被りさつそうといでし我が身に熱き太陽

麦わらの帽子が似合ふと野づらにて百姓姿なればなほこそ

出しやばりて他人の喧嘩に割りて入り障害容疑で逮捕されたり

出しやばりて他人の喧嘩に口出しし傷出を負ひて逃げ果てにけり

げんばくのひがひにあひしとものいてわかくゆきしづくちをしきかな

ひろしまのひばくにあひてそののちのやまひをいまもかたるともあり

雷雨の音に目ざめてさよなかの夢にげんばくのせんこうを見ん

せいさんの式に臨みてうたひけむ高く讃美歌に感謝する朝

火のなかをぐぐりにげゆく少年の夜間空襲の水戸のまちなか

さよなかの夢をくだちて原爆のせん光今も映りくるとも

ひるさがる尾瀬の木道をゆく先にかつこうの声遠くきこえ来

ゆきどけの水の池面に小さかなのたわむれをりし影のきらめく

あまたなる世のこうかつな弁護士に損をこうむる人も近くに

火の山をあかす噴煙のたちのぼる箱根の山を眺む峠ゆ

ひめゆりのたうをたづねておとめらのれいをなぐさむすめらぎのたび  
たたかひにわかきいのちをおとしめしあまたのたまをいまもわすれじ

箱根山大涌谷の噴煙のまさか爆発の兆しありとは

おのがためあまたのたみのいのちをばうせしむせいじをいまもかなしむ

キリストの肉と血潮を授かりしイエスと共に在りし我我が身

日本の反戦平和の憲法を世界に広め安寧を期す

月刊誌掲載者・昭和経済論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十七年七月）

原田正二 大正大学教授

豊田雅孝

当会顧問

大内義一 早稲田大学名誉教授（巻頭隨筆）

安井謙

当会顧問

荻原伯永 （株）日本経済社 日経専務

窪田真也

第一勵業銀行産業調査部長

牛場信彦 外務省顧問

宝生あやこ

劇団手織座

通産省手織座

広瀬嘉夫 NHK解説委員

山本幸助

通産省産業政策局長

安井謙 参議院議長

山田勝久

通産省商政策局国際経済部長

加藤寛 慶應義塾大学教授

岡松壯三

通産省電子政策課長

豊原兼一 NHK解説委員

村山祐太郎

鈴木金属工業㈱会長

斎藤栄三郎 参議院議員

堀江忠男

早稲田大学名誉教授

岡村和夫 NHK解説委員

寺島祥五郎

当会理事

石井義昌 個桂川精螺製作所 社長

糸川英夫 組織工学研究所所長

当会顧問 自民党最高顧問

宮本四郎 通産省産業政策局長

安井謙

当会議員

豊田雅孝 （社）日本中小企業団体連盟

田山晃 元 読売新聞政治部次長

元税務大学教官 税理士

安井謙 前参議院議長 自民党顧問

鈴木三子郎

元税務大学教官 税理士

大来佐武郎 対外経済関係 政府代表

竹下登 大蔵大臣

衆議院議員

藤原弘達 政治評論家

福田赳夫

衆議院議員

堺谷太一 作家

斎藤榮三郎	商学博士 法学博士 文学博士	水谷研治	東海総合研究所 理事長
河野洋平	参議院議員	バツラフ・ハベル	チエコ大統領
前川春雄	衆議院議員	平野憲一郎	日本経済新聞 マニラ市局長
前 日本銀行総裁	大月短期大学学長	吉田和男	京都大学教授
黒田眞	通商産業省 通商政策局長	石川忠雄	慶應義塾大学名譽教授 学長
堀江忠男	東海銀行常務取締役 調査部長	中曾根康弘	元首相
水谷研治	東京都知事	中山素平	日本興業銀行 特別顧問
鈴木俊一	東京国際大学教授	北岡伸一	立教大学教授
田村次朗	東京銀行会長	島田晴雄	慶應義塾大学教授
目良浩一	東京大学教授	吉田和男	京都大学教授
行天豊雄	東京大学教授	塩野谷祐一	一橋大学名誉教授
吉川洋	東京大学教授	宮沢喜一	元首相
竹中平蔵	慶應義塾大学教授	山田伸二	NHK解説委員
加藤寛	慶應義塾大学教授	石井明	東京大学教授
原田和明	三和総合研究所 理事長	加藤寛	千葉商科大学長
鶴武彦	東京大学教授	政府税制調査会会长	青山学院大学教授
大山昊人	東京国際大学教授	伊藤裕章	朝日新聞ワシントン特派員
井浦康之	元 N H K 解説委員	小宮隆太郎	東京大学名誉教授
企業コンサルタント	元 N H K 解説委員		

島田晴雄	慶應義塾大学教授	ランコ・岩本 ランコ・インター・ナショナル代表
樋口廣太郎	アサヒビール会長	ジエームス・D・ウォルフエルソン
奥野正寛	東京大学教授	世界銀行総裁
橋本大一郎	高知県知事	シモン・ペレス イスラエル外相
福川伸次	電通総研研究所所長	山口光恒 慶應義塾大学教授
鈴村興太郎	一橋大学経済研究所教授	岡崎久彦 元駐米公使 駐タイ公使
清水啓典	一橋大学教授	ポール・サミュエルソン 経済学者
高橋伸彰	立命館大学教授	大野健一 政策研究大学院大学教授
中谷巖	一橋大学教授	佐々木和男 サウディ石油化学㈱社長
金大中	韓国大統領	ドナルド・ラムズフェルド 米国防長官
佐和隆光	京都大学教授	イアン・ジョンソン 世界銀行副総裁
茅陽一	慶應義塾大学院教授	竹森俊平 慶應義塾大学教授
吉田和男	京都大学教授	山本清治 経済評論家
榊佳之	東京大学 医科学研究所 大学院教授	朱建榮 東洋大学
高橋伸彰	立命館大学教授	アレクサンドル・パノフ 駐日ロシア大使
月尾嘉男	東京大学教授	林光夫 ナショナル日系博物館ヘリテージセンター 理事(前理事長) 日系プレース基金理事
北岡伸一	東京大学教授	ハワード・H・ベーカー 駐日米大使
石原慎太郎	東京都知事	山本清治 経済評論家

ステイーブン・ゴマソール 駐日英國大使	佐藤隆三	ニューヨーク大学名誉教授
山口義二 立教大学経済学部教授	東京大学客員教授	
公文俊平 多摩大学情報社会学研究所所長	曾根泰教	
伊藤元重 東京大学教授	平野雅章	
アルビン&ハイディ・トフラー	早稲田大学教授	
米未来社会学者	若田部昌澄	
中曾根康弘 元首相	東京大学教授	
ハワード・H・ベーカー 前駐日米大使	大西隆	
竹森俊平 慶應義塾大学教授	浜田純一	
岡部直明 日本経済新聞論説主幹	中西寛	
加藤寛 千葉商科大学学長	高木新二郎	
山口光恒 帝京大学教授	前産業再生機構委員長	
斎藤惇 産業再生機構前社長	野村證券懇顧問	
渡辺智之 一橋大学教授	京都大学准大学教授	
土屋堅二 入江昭	ハーバード大学名誉教授	
山崎正和 林良造	東京大学教授	
福江等 お茶の水女子大学教授(哲学)	クリスティーナ・アーマージャン	
前ナザレン神学大学学長	一橋大学教授	
今井賢一 東京大学教授		
大田弘子 スタンフォード大学		
経済財政担当相	名譽シニアフェロー	

吉川弘之	東京大学 元学長	深尾京司	一橋大学教授
池尾和人	慶應義塾大学教授	山本 獅	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
林 良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居丈朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稻田大学教授
脇坂 明	学習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
関 満博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	力ナダ財務相
古谷 浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨 貴	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	緒方貞子	東京大学教授
山内昌之	東京大学教授	田中素香	国際協力機構（JICA）理事長
高安秀樹	明治大学客員教授	申 珙秀	中央大学教授
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	駐日韓国大使
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	新宅純二郎	神戸大学教授
植田和弘	京都大学教授	岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
松本 紘	京都大学総長	若宮啓文	朝日新聞主筆
大西 隆	東京大学教授	中沢克一	日本経済新聞社 中国総局長
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長		

猪木武徳	青山学院大学特任教授	有田 哲文	朝日新聞編集委員
長山浩章	京都大学教授	柴田 直治	朝日新聞国際報道部
石川城太	一橋大学教授	竹森 俊平	慶應大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授	磯田 道史	静岡文化芸術大学准教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト	橘川 武郎	一橋大学教授
篠崎彰彦	九州大学教授	伊藤 元重	東京大学教授
翟 林瑜	大阪市立大学教授	山内 昌之	明治大学特任教授
横山 彰	中央大学教授	白石 隆	政策研究大学院学長
小林慶一郎	一橋大学教授	土屋 英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
原 真人	朝日新聞編集委員	戸田 悅造	懸賞論文 優秀賞
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	青山 康慶二	早稲田大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授	瀬口 清之	キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
須藤 繁	帝京平成大学教授	今井 賢一	スタンフォード大学名誉シニアフェロー
翁 邦雄	京都大学教授	田中 伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
下斗米伸夫	法政大学教授	宮本 雄二	宮本アジア研究所代表、外務省顧問
吉川 洋	東京大学教授	菅原 宅	東京大学先端科学技術研センター准教授
渡辺 博史	国際協力銀行副総裁・元財務官	白石 隆	政策研究大学院学長
澤田 康幸	東京大学教授	野中郁次郎	一橋大学名誉教授
北岡 伸一	国際大学学長	矢作 弘	龍谷大学教授



福元 竜哉 読売新聞社記者	山田勝之 通産省国際政治部長
当会・講演会 講師（敬称略）	鈴木幸夫 テレビ東京解説委員長
昭和五十三年（平成二十七年五月）	山室英男 N H K 解説委員長
堺屋太一 作家	佐野忠克 通産省宇宙産業室長
栗栖弘臣 統合幕僚長	河野洋平 河野洋平
加藤寛 慶應義塾大学教授	寺島祥五郎 衆議院議員
糸川広洋 組織工学研究所 所長	大蔵省官房審議官
大来佐武郎 対外経済担当大臣	長富祐一郎 中小企業庁長官
斎藤栄三郎 科学技術省長官	中沢忠義 大蔵省官房審議官
柿沢弘治 衆議院議員	吉國隆 農林水産省大臣官房企画室長
浜田幸一 衆議院議員	天谷直弘 （財）産業研究所 顧問
木元教子 評論家	元 通産省審議官
岡松壯三郎 通産省電子政策課長	黒田眞 東京都知事
稻川泰弘 通産産業省政策局	鈴木俊一 通商産業省 通商政策局長
藤原弘達 商務サービス産業室長	上野明 通商産業省 通商政策局長
山本幸助 政治評論家	前川春雄 野村総合研究所 主任研究員
岡松壯三郎 通産省産業政策局長	大山晃人 前日本銀行総裁
岡松壯三郎 通産省生活産業局長	野坂昭如 N H K 解説委員
水野哲 作家	水野哲 作
藤原弘達 通産省産業政策局	産業政策局総務課長

堀江忠男	早稲田大学名誉教授	杏林大学教授
梅沢節男	国税庁長官	L・A・チジヨーフ 駐日ロシア連邦大使
田川誠一	進歩党代表 衆議院議員	大山晃人 元NHK解説委員
森亘	東京大学総長	東京国際大学教授
藤井康男	龍角散社長	小浜維人 NHK解説委員長
水城武彦	NHK解説委員	青木匡光 メディエーター（人間接着業）
大山晃人	NHK解説委員	紺谷典子 （財）日本証券経済研究所
斎藤栄三郎	国務大臣 科学技術庁長官	主任研究員
内田 满	早稲田大学教授	原田和明 三和総合研究所
岡松壯三郎	通商産業省生活産業局長	和田俊 朝日新聞編集委員
水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長	テレビ朝日ニュース・ステーション 元 NHK解説委員
有馬朗人	東京大学総長	木村時夫 早稲田大学名誉教授
松本和男	経済評論家	井浦康之 井浦コミュニケーションセンター 当会理事
大山晃人	NHK解説委員	大山晃人 東海総合研究所 理事長
鈴木淑夫	野村総合研究所副理事長	元 NHK解説委員
元 日本銀行理事	外務省顧問 前 駐米大使	木下龟次郎 東京国際大学教授
松永信雄	水谷研治	山下龟次郎 筑波大学 臨床医学系内科教授
霍覓芳浩	ニューヨーク市立大学大学院教	
村松暎	慶應義塾大学名誉教授	

筑波大学付属病院副院長	武者陵司	ドマイチエ証券チーフストラジット
立教大学教授	川崎真一郎	第一生命経済研究所主任研究員
岩國哲人	金子一義	国務大臣
前出雲市長	山口義行	立教大学教授
浅井隆	岩田規久男	上智大学教授
久保亘	前大蔵大臣	NHK解説主幹
大山晃人	東京国際大学教授	千葉商科大学教授
山田伸二	NHK解説委員	伊藤達也
吉田春樹	和光経済研究所理事長	高木新二郎
副島隆彦	経済評論家	斎藤精一郎
ポールシェアード ベアリング投信投資顧問	(株)日本株運用ヘッド兼ストラジスト	伊藤新一郎
早坂茂二	田中角栄 元秘書	千葉商科大学大学院教授
山田伸二	NHK解説委員	元金融担当大臣
中村敦夫	参議院議員	高木新二郎
原田和明	三和総合研究所特別顧問	斎藤精一郎
西澤宏繁	東京都民銀行頭取	伊藤達也
亀井静香	衆議院議員	元産業再生機構 産業再生委員長
NHK解説委員	元モスクワ支局長	元金融担当大臣
山田伸二	NHK解説主幹	元NTTデータ経営研究所所長
中谷 元	元防衛厅長官 衆議院議員	社会経済学者 エコノミスト
山田伸二	NHK解説委員	佐々木和男
三原 淳	経済評論家 株式評論家	学校法人静岡理工科大学理事長
石川 一洋	NHK解説委員	元三菱商事(本部長)
山田 伸二	NHK解説主幹	サウディ石油化学(前)社長
中谷 元	元モスクワ支局長	元三菱商事(本部長)

林良 造 東京大学教授

元経済産業省 経済産業政策局長

渡辺 嘉美 みんなの党代表 衆議院議員

山崎 淑行 NHK科学文化部 記者

中谷 巍一橋大学教授

ロバート・フェルドマン

経済評論家・エコノミスト

月尾 嘉男 東京大学名誉教授

山田 伸二 NHK解説主幹

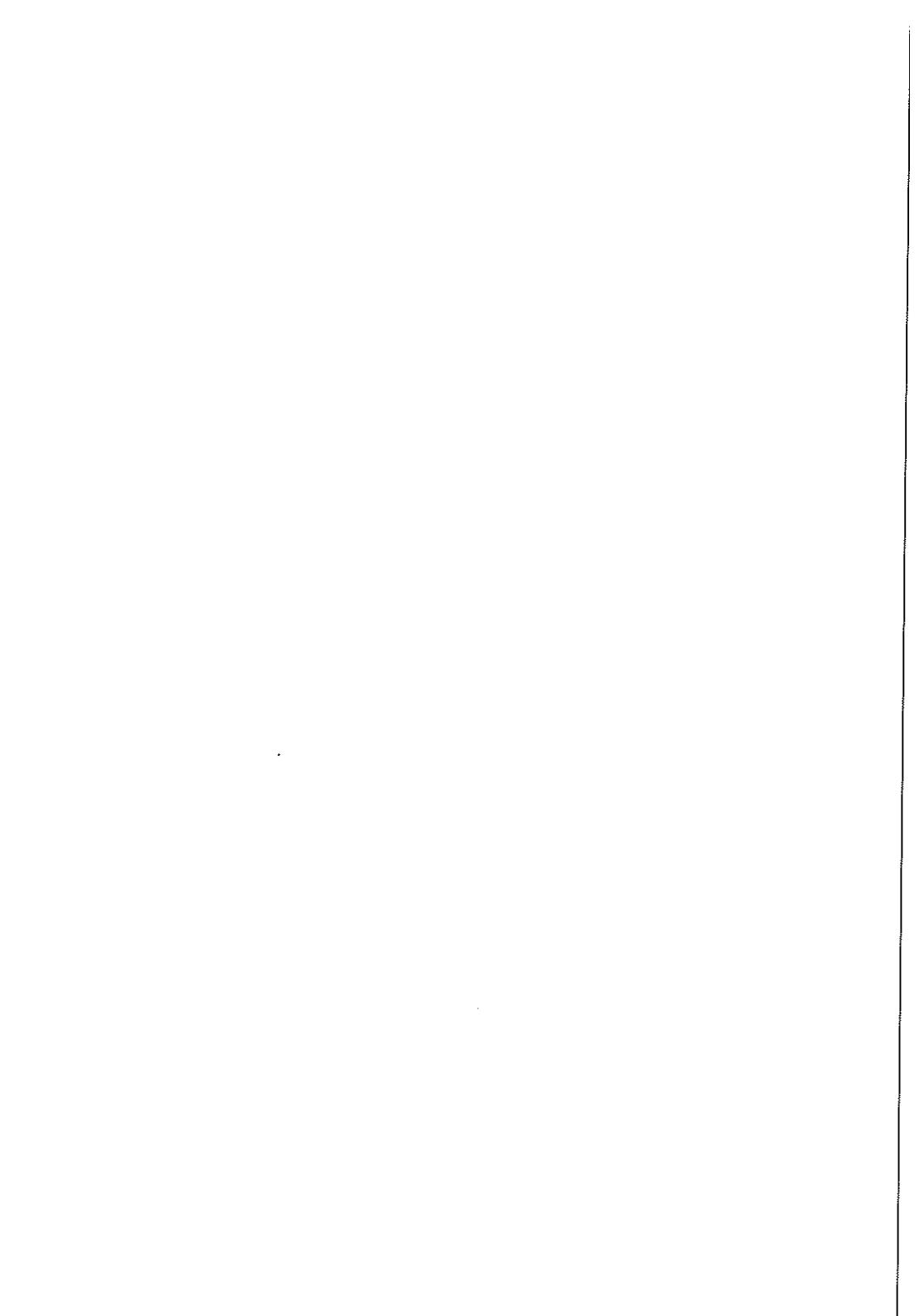
山内 進 一橋大学学長

板垣 信幸 NHK解説主幹

熊野 英生 第一生命経済研究所首席エコノミスト

五十嵐 敬喜 三菱UFJリサーチ

&コンサルティング 執行役員



## 講演会の主な講師

(講演時役職) (敬称略)

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安資土本稻吉井岩福  
室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田賀野深佐田  
莊祐新栄宗

一秀俊三郎謙正芳利達弘夫英太洋平郎一弘太洋利得夫英夫一寬一義夫彦如忠和昭信春彦雄男二郎久勝一郎助幸郎三郎真英男

富大ソ日経本經參大政組弁科通作慶中外作東日國通通通N

H產產產產藏 小H應學織本學田濟本二土大  
K省省省省稅京本務義產工經治議濟藏技

生産国官銀 増資  
企K技學濟感技銀銀(内)  
解產

活業際 庁都 省 業解 省護研新評 院術詳 評 閣  
說業 政房 行 大 空間 研行 行經

政 產 序 說 學 序 大 先 聞 告 球

議員局局部議長委教長所顧長社理頭大同

長官長長官官事裁問家官員授家間官士長問家臣長官家長家事長取

通伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小<sup>ト</sup>霍松鈴有大水森堀水藤井大  
産藤子口井澤坂田島田保國藤良田田浜<sup>ム</sup>見永木馬來谷江城井浦山  
財務省省長佐精<sup>ジ</sup> 一九〇九年

通大内国立衆東政慶政N前立東三テN駐ニ前野東対東東早N龍井N

浦コH  
稻二H  
海二H  
外二H  
駐村H  
日H  
和ビH  
京H  
應H  
京H  
務教H  
藏閣H  
商

# 東京大業院評解藏 研究空再銀大 学大究説大外究學相究學名

ヨンセ社所理公當所理公當所理公當所理公當  
説市所スア所務所大委テ学論議會行學生

セントラル委員会事務局 大事会委員会 総理省理学部教員課

八八 担任 教職 官當授冒取家授家冒臣長授授長ノ長使授問長長臣長長授員長員

昭和經濟 27一暑中号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）  
昭和25年10月19日 日本国鉄道特別版承認雑誌第1797号

**Showa Economic Study Association**  
**企業家・経営者団体**

**公益社団法人 昭和経済会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail [info@showa-ec.or.jp](mailto:info@showa-ec.or.jp)